

第2次木津川市都市計画マスタープラン (素案)

2020年11月20日時点

目 次

I. 計画の前提

1. 前提条件の整理	1
(1) 都市計画マスタープランの位置付け	1
(2) 策定の背景	2
(3) 都市計画マスタープランの役割	2
(4) 構成と目標年次、対象範囲	3
2. 木津川市をとりまく現状と都市計画の課題	5
(1) 社会背景	5
(2) まちの歴史と現状	7
(3) 上位・関連計画の整理	37
(4) 都市計画の現況と基本的課題	41

II. 全体構想

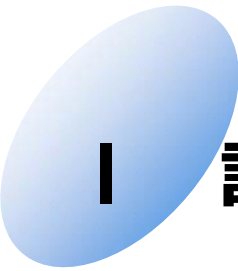
1. 都市計画の目標	43
(1) まちの将来像（第2次木津川市総合計画より）	43
(2) 都市計画の目標	44
(3) 都市計画を進めていく上での基本的な視点	45
(4) 将来都市構造	46
(5) 人口フレーム	51
2. 都市計画の方針（分野別方針）	52
(1) 土地利用の方針	52
(2) 交通施設・公共交通の方針	57
(3) 都市・自然環境及び歴史的・文化的遺産の方針	63
(4) 市街地及び集落の方針	72
(5) 都市景観形成の方針	77
(6) 都市防災の方針	81

III. 地域別構想

1. 地域区分の考え方	87
2. 地域別構想	89
(1) 既成市街地（木津地域）	89
(2) 木津駅東側地区及び城山台の一部	95
(3) 既成市街地（加茂地域）	98
(4) 既成市街地（山城地域）	103
(5) 関西文化学術研究都市（兜台、相楽台、木津川台）	109
(6) 関西文化学術研究都市（州見台、梅美台、城山台）	113
(7) 関西文化学術研究都市（木津東地区）	118
(8) 関西文化学術研究都市（木津北地区）	121
(9) 農山村集落と農地、山林	124

IV. 都市計画の推進方策

1. 住民・事業者・行政の協働によるまちづくりの推進	129
2. 効率的な都市計画行政の推進	131
3. 都市計画マスタープランの進行管理	132



I 計画の前提

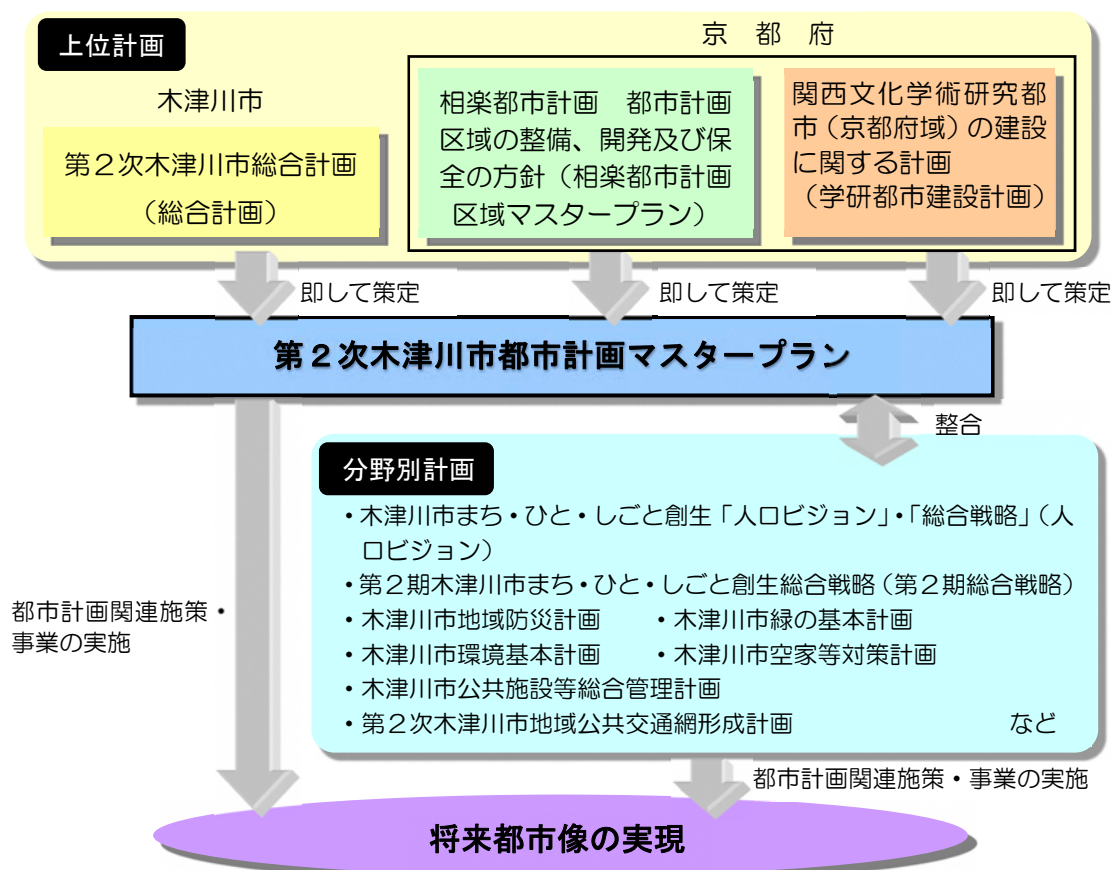
1. 前提条件の整理

(1) 都市計画マスタープランの位置付け

都市計画マスタープランは、平成4年6月の都市計画法改正により創設された、都市計画法第18条の2に基づく計画で、市民に一番身近な自治体である市が目指すべき将来像を市民の皆さんと一緒に考えながら、都市の将来像や整備方針を明確にし、行政と市民がこれを共有しながら実現していくことを目的として策定するものです。

木津川市のまちづくりにかかるすべての計画の基本となる「第2次木津川市総合計画」（以下、「総合計画」という。）及び相楽都市計画区域における都市計画の目標や土地利用、主要な都市計画の決定の方針等を体系的、総合的に示す「相楽都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」（以下、「相楽都市計画区域マスタープラン」という。）に即して定めることとされています。なお、本市においては、国が定めた関西文化学術研究都市の建設に関する基本方針に基づき策定された京都府の計画である「関西文化学術研究都市（京都府域）の建設に関する計画」（以下、「学研都市建設計画」という。）も上位計画として位置付けます。

また、『木津川市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」・「総合戦略」』（以下、「人口ビジョン」という。）や「第2期木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下、「第2期総合戦略」という。）などの分野別計画との整合を図ります。



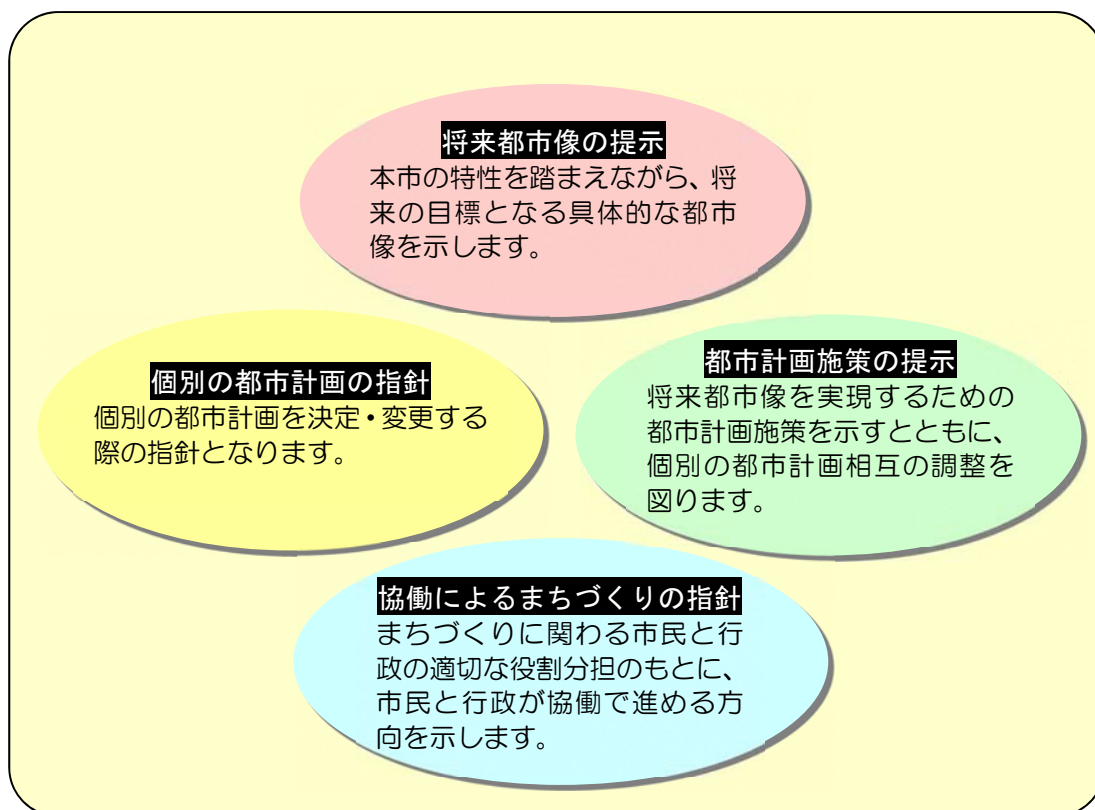
（２）策定の背景

木津川市は、平成23年6月に「人、自然、文化 調和と発展のまち・木津川市」を目標とした「第１次木津川市都市計画マスタープラン」を策定しています。平成27年には策定から5年目を迎え、計画期間の前半が終了し、その間に行われた都市計画法等の改正や、都市施設の整備状況及び土地利用状況等の変化に対応するとともに、上位計画である、「第１次木津川市総合計画後期基本計画」、「相楽都市計画区域マスタープラン」、「学研都市建設計画」や関連する計画との整合性を図るため、平成28年3月に「第１次木津川市都市計画マスタープラン後期計画」を策定しました。

本計画は、「第１次木津川市都市計画マスタープラン後期計画」に基づく、まちづくりを継承することを基本に、社会状況や木津川市をとりまく環境の変化に柔軟に対応し、後期計画における5年間の進捗状況を検証するとともに、今後10年間に取り組むべき施策や実現性の高い具体的な方針を確立するために策定するものです。

（３）都市計画マスタープランの役割

「第２次木津川市都市計画マスタープラン」は、次のような役割を持ちます。



(4) 構成と目標年次、対象範囲

1) 構成

都市計画マスタープランは、主に、「全体構想」と「地域別構想」により構成されます。「全体構想」は、上位計画を踏まえ本市のあるべき将来の都市像を示すとともに、それを実現するための分野別基本の方針を示します。「地域別構想」は「全体構想」と整合を図りながら、各地域における目標像とそれを実現するための基本の方針を示します。

第2次木津川市都市計画マスタープランの構成

I 計画の前提

1. 前提条件の整理
 - (1) 都市計画マスタープランの位置付け
 - (2) 策定の背景
 - (3) 都市計画マスタープランの役割
 - (4) 構成と目標年次、対象範囲
2. 木津川市をとりまく現状と都市計画の課題
 - (1) 社会背景
 - (2) まちの歴史と現状
 - (3) 上位・関連計画の整理
 - (4) 都市計画の現況と基本的課題

II 全体構想

1. 都市計画の目標
 - (1) まちの将来像
 - (2) 都市計画の目標
 - (3) 都市計画を進めていく上での基本的な視点
 - (4) 将来都市構造
 - (5) 人口フレーム
2. 都市計画の方針（分野別方針）
 - (1) 土地利用の方針
 - (2) 交通施設・公共交通の方針
 - (3) 都市・自然環境及び歴史的・文化的遺産の方針
 - (4) 市街地及び集落の方針
 - (5) 都市景観形成の方針
 - (6) 都市防災の方針

III 地域別構想

1. 地域区分の考え方
2. 地域別構想
 - (1) 既成市街地（木津地域）
 - (2) 木津駅東側地区及び城山台の一部
 - (3) 既成市街地（加茂地域）
 - (4) 既成市街地（山城地域）
 - (5) 関西文化学術研究都市（兜台、相楽台、木津川台）
 - (6) 関西文化学術研究都市（州見台、梅美台、城山台）
 - (7) 関西文化学術研究都市（木津東地区）
 - (8) 関西文化学術研究都市（木津北地区）
 - (9) 農山村集落と農地、山林

IV 都市計画の推進方策

1. 住民・事業者・行政の協働によるまちづくりの推進
2. 効率的な都市計画行政の推進
3. 都市計画マスタープランの進行管理

2) 目標とする年次

「第2次木津川市都市計画マスタープラン」の目標年次は、10年後の令和12年度（2030年度）とします。ただし、このマスタープランは、まちづくりの長期的な方向性を示すもので、実現までに目標年次を超える長い期間を要する内容も含まれています。

3) 対象範囲

木津川市の都市計画を展望する上で、都市計画区域外の山林等も市を構成する一要素として重要な役割を果たすことから、「第2次木津川市都市計画マスタープラン」の対象範囲は、都市計画区域外も含めた木津川市全域とします。

2. 木津川市をとりまく現状と都市計画の課題

(1) 社会背景

① 人口減少・少子高齢化の進行

我が国の人口は、平成20（2008）年をピークに減少の一途をたどっており、また、少子高齢化も進行しています。あわせて地方から大都市圏への人口流出がみられ、その中でも東京圏への一極集中が加速し、地域間格差が拡大しています。これらの人口構造や人口動向の変化は、生活サービス施設の撤退や税収の減少による行政サービス水準の低下、地域公共交通事業者の撤退、地域コミュニティの衰退など、地域社会・生活のあらゆる面に大きな影響を及ぼすことが懸念されます。

一方、我が国のインフラは、高度経済成長期以降に整備されたものが多く、老朽化が進んでおり、人口減少・少子高齢化により税収が減少する中で、計画的な維持管理・更新が必要となっています。

「総合計画」の本市推計では、今後しばらくの間、本市の人口は増加するものの、2033年ごろからは減少に転じると予測されており、将来の人口減少社会への移行を見据え、持続可能なまちづくりに向けて都市活動の効率化・最適化を進めるとともに、人口が増加している今のうちから新たなまちづくりを進める必要があります。

② 安心・安全に対する意識の高まり

東日本大震災や熊本地震をはじめとする大規模地震が発生する中で、南海トラフ巨大地震の発生切迫性が高まっています。また、平成30年7月豪雨、令和2年7月豪雨の発生など、気候変動等により豪雨災害等はさらに頻発化・激甚化しており、災害に対する市民の危機意識が高まっています。さらに、令和2年には新型コロナウイルス感染症が感染拡大し、我が国の経済や国民の日常生活に多大なる影響を及ぼしています。

木津川市においては、南海トラフ巨大地震の他に、奈良盆地東縁断層帯などでも被害の想定がなされています。また、豪雨災害としては、木津川及びその支川による氾濫や、山林からの土砂流出などが発生する恐れがあり、防災・減災に向けたハード・ソフトの両面での対策が急務となっています。

③ 地球温暖化対策の推進

地球規模での温暖化は、平成27年に採択された京都議定書の後継となるパリ協定の枠組みを受けて、我が国でも温室効果ガスの排出削減目標が定められ、さまざまな分野において取り組みが行われています。

地球温暖化は、前述したように、豪雨災害などの頻発化・激甚化・広域化を招くだけ

でなく、農産物の被害や生態系への影響が懸念されています。そのような中で、地球温暖化への対策として、温暖化の原因となる温室効果ガスの排出を抑制する「緩和策」と、既に起こりつつある、あるいは起こりうる温暖化の影響に対して自然や社会のあり方を調整する「適応策」があり、その両方の対策を講じることが重要となります。

社会経済活動の基盤となる都市計画の分野における取り組みとしては、移動における車から公共交通利用への転換や、住宅・建築物の省エネ性能の向上、再生可能エネルギー等の利活用などの緩和策、ハザードマップの作成やその周知、災害への備えの更なる強化などの適応策の両立が求められています。

④ 価値観やライフスタイルの多様化への対応

我が国では、核家族化・単身化・非婚化・晩婚化の進展や、物質的な豊かさより心の豊かさを重要視する風潮が広がりを見せています。また、人口減少に伴う労働力不足の解消を背景に、働き方改革が進められており、価値観やライフスタイルに応じた働き方・暮らし方が選択できる社会の実現に向けた取り組みが進んでいます。

また、新型コロナウイルス感染症対策として、新しい生活様式が提示される中、働き方においてもテレワークやローテーション勤務などの柔軟な働き方が求められています。

木津川市は、京都、大阪、奈良との交通アクセスに恵まれており、また、高度な文化・学術・研究機能が集積する関西文化学術研究都市と、田園、里地里山が残る農山村集落が共存するまちであることから、将来の生活様式の変化を見据えたまちづくりが必要となっています。

⑤ 地方創生による地域活性化

平成12年4月、地方分権の推進を図るための関係法律の整備等に関する法律（平成11年7月 法律第87号）（地方分権一括法）が施行されてから20年が経過し、国から地方への財源移譲や権限委譲などが進められてきました。

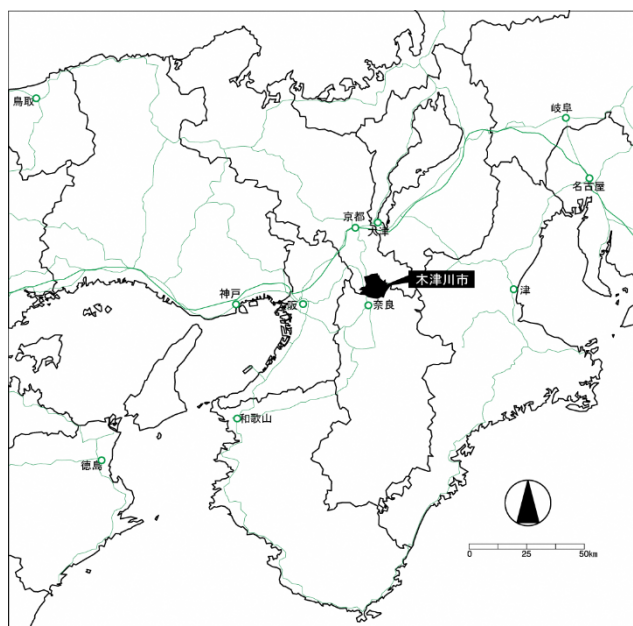
また、人口急減・超高齢化という大きな課題に対して、政府一体となって取り組み、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生できるよう、まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）が施行され、国では「長期ビジョン」や「総合戦略」、地方では「人口ビジョン」や「総合戦略」が策定されました。これらの計画策定から概ね5年が経過し、現在は、地方創生の次のステージとして、第2期計画の策定及び実行が進められています。

木津川市においても、令和2年3月に第1期総合戦略の柱である『子育て』と戦略のスローガンである『子ども育マチ・きづがわいい』を継承した、第2期総合戦略を策定しており、施策の実行において、都市計画分野との連携が求められています。

(2) まちの歴史と現状

1) 地勢

木津川市は、近畿のほぼ中央、京都府南部の山城地域に位置し、北は井手町、北東は和束町、東は笠置町、北西は京田辺市、西は精華町、南は奈良県奈良市と隣接しています。京都・大阪の中心部から30 km圏内にあります。当地域の北側と南東側に細やかなやさしい稜線を持った山地が広がり、その山地の間をぬって、市域の中心部を東から西に、そして市域の西端部で大きくカーブし、北へ向かって木津川が流れており、木津川に沿った地域に平野部が広がっています。



令和元年に国土地理院が公表した市域の総面積は85.13km²となり、土地利用の現況は次のとおりとなっています。森林が36.80%で最も多く、耕地が17.27%、宅地が11.45%などとなっています。

土地利用別面積

	耕 地	宅 地	森 林	その他	合 計
面積	14.70km ²	9.75km ²	31.33km ²	29.35km ²	85.13km ²
比率	17.27%	11.45%	36.80%	34.48%	100.0%

出典：令和元年度版京都市町村のあらまし

2) 歴史

市域の中央を流れる木津川は、淀川を通過して瀬戸内海に入り、古来から東アジアの国々とつながっていました。人や物資、文化は、木津川をさかのぼってこの地に至り、市域には日本の国が統一されていく時期に重要な働きをした王の古墳や渡来人の末えいが建立した寺院の跡などが見られます。

やがて、奈良時代には日本の中央、大和の都の入口として当時は「泉川」と呼ばれた木津川には「泉津」が設けられ、平城京の外港として都や寺院を建設する木材をはじめ物資の集積地となり、これが「木津」の地名の由来となっています。

天平12年（西暦740年）12月、聖武天皇は市域の「鹿背山西道」の東を左京、西を右京とした恭仁京を造営し、短命ではありましたが、日本の首都となりました。

平安京の時代には、この地は平安京と平城京の間に位置する地域として、水路と陸路による往還が行われ、多様で豊かな農業生産の発展や仏教信仰の寺院・霊地が形成され、とりわけ小田原と呼ばれた「当尾」は聖地となりました。

室町時代には自治的な村落「惣村」が出現しました。農作物では米、麦などとともに、早くから茶が生産されるようになり、商業活動も活発となりました。戦乱の中、この地の武士たちが中心になって「平和」と「自治」の郷づくりをめざした山城国一揆も大きな歴史のひとつでした。

「木津」は京都と奈良、「加茂」は近江、伊賀と奈良を結び、木津川の水運と街道の接点として、宿場の機能を持つようになりました。

江戸時代には惣村を基盤として新しい村々が生まれました。農地も増え、棚倉に移入された筍をはじめ、綿、茶、豆類、大根、ごぼう、柿など、多くの作物が生産され、都市近郊の優良な農業地域としての地位を深め、今日の近郊農業の基盤となりました。

木津川は、時には大水害を起こしていましたが、都市と結ぶ水運は重要な役割を果たしました。淀川にも入れる淀二十石船と淀、伏見までの航行を許されていた地元の「六か浜上荷船」が行き交いました。「加茂」、「瓶原」、「木津」、「吐師」の四つの浜が市域にあり、この木津川の水運の地の利を活かして、幕末から明治にかけて茶の輸出が増大し、「上粕」はその集散地、精製加工の場として発展しました。

また、「相楽」を中心にして江戸時代の高級麻織物の技術を活かした「相楽木綿」の生産が、京都府域最大の産地として昭和戦前期まで続き、現在のふすま地・壁紙の生産につながっています。

市町村域については、木津町と加茂町が昭和26年に、山城町が昭和31年に、明治以来の町村を統合、平成19年3月12日に木津町、加茂町、山城町が合併して木津川市が誕生し、現在に至ります。

木津川市の社寺・遺跡等の分布状況



木津川市の国指定文化財一覧

○国宝

文化財	所在地
浄瑠璃寺三重塔（九体寺三重塔）	木津川市加茂町西小札場40（浄瑠璃寺）
浄瑠璃寺本堂（九体寺本堂）	木津川市加茂町西小札場40（浄瑠璃寺）
海住山寺五重塔	木津川市加茂町例幣海住山20（海住山寺）
銅造釈迦如来坐像	木津川市山城町綺田浜36（蟹満寺）
木造阿弥陀如来坐像	木津川市加茂町西小札場40（浄瑠璃寺）
木造四天王立像	増長天・持国天：浄瑠璃寺 広目天：東京国立博物館勧告 多聞天：京都国立博物館勧告

○特別名勝

文化財	所在地
浄瑠璃寺庭園	木津川市加茂町西小札場40（浄瑠璃寺）

○重要有形文化財

文化財	所在地
五輪塔	木津川市木津清水
五輪塔	木津川市加茂町西小長尾（長尾共同墓地）
相楽神社本殿	木津川市相楽清水1（相楽神社）
海住山寺文殊堂	木津川市加茂町例幣海住山20（海住山寺）
岩船寺三重塔	木津川市加茂町岩船上ノ門43（岩船寺）
岩船寺十三重塔	木津川市加茂町岩船上ノ門43（岩船寺）
岩船寺石室	木津川市加茂町岩船上ノ門43（岩船寺）
岩船寺五輪塔	木津川市加茂町岩船上ノ門43（岩船寺）
御霊神社本殿	木津川市加茂町兎並寺山41（御霊神社）
松尾神社本殿	木津川市山城町椿井松尾41（松尾神社）
神童寺本堂	木津川市山城町神童子不晴谷112（神童寺）
泉橋寺五輪塔	木津川市山城町上粕西下55（泉橋寺）
天神社十三重塔	木津川市山城町神童子不晴谷177（天神神社）
白山神社本殿	木津川市加茂町岩船上ノ門94（白山神社）
小林家住宅	木津川市山城町上粕東林1-1
十三重塔	木津川市加茂町辻三田25番地の1（千日墓地）
絹本著色法華経曼荼羅図	京都国立博物館承認（海住山寺）
絹本著色仏涅槃図	木津川市加茂町里小田22（常念寺）
三重塔初重壁画十六羅漢像	木津川市加茂町西小札場40（浄瑠璃寺）
石燈籠	木津川市加茂町西小札場40（浄瑠璃寺）
海住山寺文書	京都国立博物館寄託（海住山寺）
浄瑠璃寺流記	木津川市加茂町西小札場40（浄瑠璃寺）
木造文殊菩薩坐像	木津川市木津雲村42-1（大智寺）
木造十一面観音立像	木津川市木津雲村42-1（大智寺）
木造愛染明王坐像	木津川市山城町神童子不晴谷112（神童寺）
木造不動明王立像	木津川市山城町神童子不晴谷112（神童寺）
木造阿弥陀如来坐像	木津川市山城町神童子不晴谷112（神童寺）
木造毘沙門天立像	木津川市山城町神童子不晴谷112（神童寺）
木造日光月光菩薩立像	木津川市山城町神童子不晴谷112（神童寺）
木造伎楽面	奈良国立博物館寄託（神童寺）
木造十一面観音立像	木津川市相楽才ノ神43（法泉寺）
木造十一面観音菩薩坐像	木津川市加茂町北山ノ上9（現光寺）
木造薬師如来坐像	木津川市加茂町高田奥畑54（高田寺）
木造薬師如来坐像	木津川市加茂町大野大野27（西明寺）
木造十一面観音菩薩立像	木津川市加茂町例幣海住山20（海住山寺）
木造十一面観音菩薩立像	奈良国立博物館勧告（海住山寺）
木造四天王立像	奈良国立博物館寄託（海住山寺）
木造阿弥陀如来坐像	木津川市加茂町岩船上ノ門43（岩船寺）
厨子入木造普賢菩薩像	木津川市加茂町岩船上ノ門43（岩船寺）
厨子入木造吉祥天立像	木津川市加茂町西小札場40（浄瑠璃寺）
木造馬頭観音立像	奈良国立博物館勧告（浄瑠璃寺）
木造地藏菩薩立像	木津川市加茂町西小札場40（浄瑠璃寺）
木造薬師如来坐像	木津川市加茂町西小札場40（浄瑠璃寺）
木造地藏菩薩立像	東京国立博物館勧告（浄瑠璃寺）
木造不動明王及二童子立像	木津川市加茂町西小札場40（浄瑠璃寺）

○史跡

高麗寺跡	木津川市山城町上狛高麗寺・森ノ前
恭仁宮跡（山城国分寺跡）	木津川市加茂町岡崎・河原・例幣他
椿井大塚山古墳	木津川市山城町椿井三階
奈良山瓦窯跡 歌姫瓦窯跡 音如ヶ谷瓦窯跡 市坂瓦窯跡 梅谷瓦窯跡 鹿背山瓦窯跡	木津川市市坂・奈良市歌姫町 木津川市相楽台七丁目 木津川市州見台八丁目 木津川市梅美台五丁目 木津川市城山台四丁目
石のカタト古墳	木津川市兜台二丁目・奈良市神功一丁目
浄瑠璃寺庭園	木津川市加茂町西小札場40
神雄寺跡	木津川市城山台十三丁目4他

出典：木津川市教育委員会（令和2年3月現在）

3) 人口・世帯数

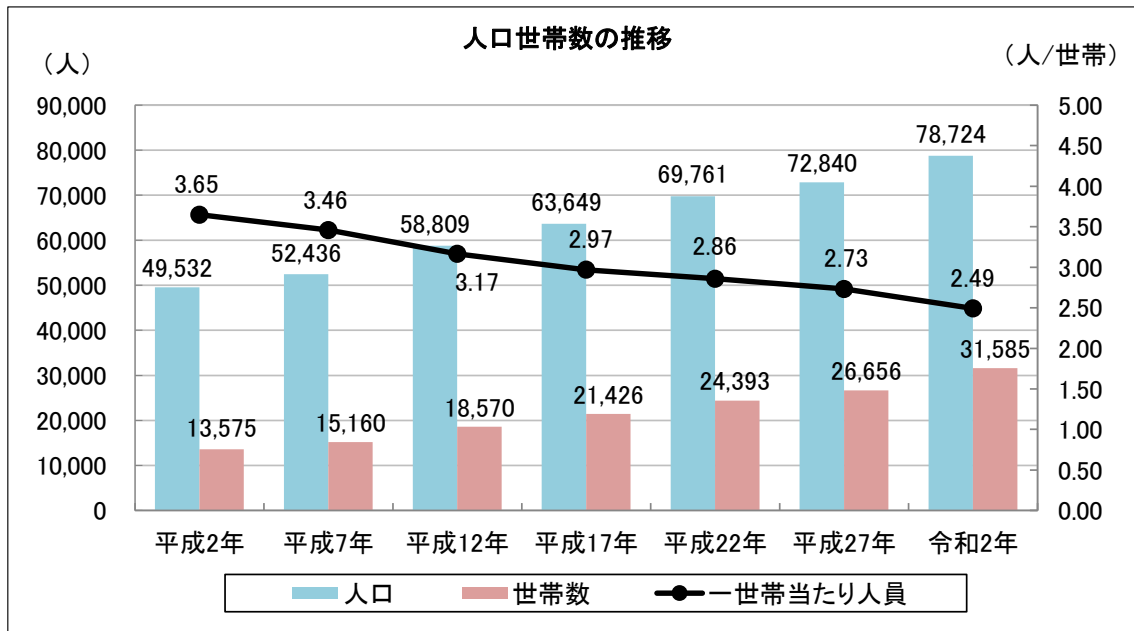
① 人口・世帯数の推移

全国的に人口減少が懸念される中、木津川市の人口は、平成22年(国勢調査)69,761人、平成27年(国勢調査)72,840人、令和2年(住民基本台帳)78,724人と増加傾向にあります。

世帯数についても、増加傾向が続いていますが、単身世帯の増加や世帯分離が進み一世帯あたりの世帯人員は減少が続いています。令和2年(住民基本台帳)では、世帯数が31,585世帯で、一世帯あたり人員は2.49人と、平成17年以降、3人を下回っています。

人口・世帯数の推移

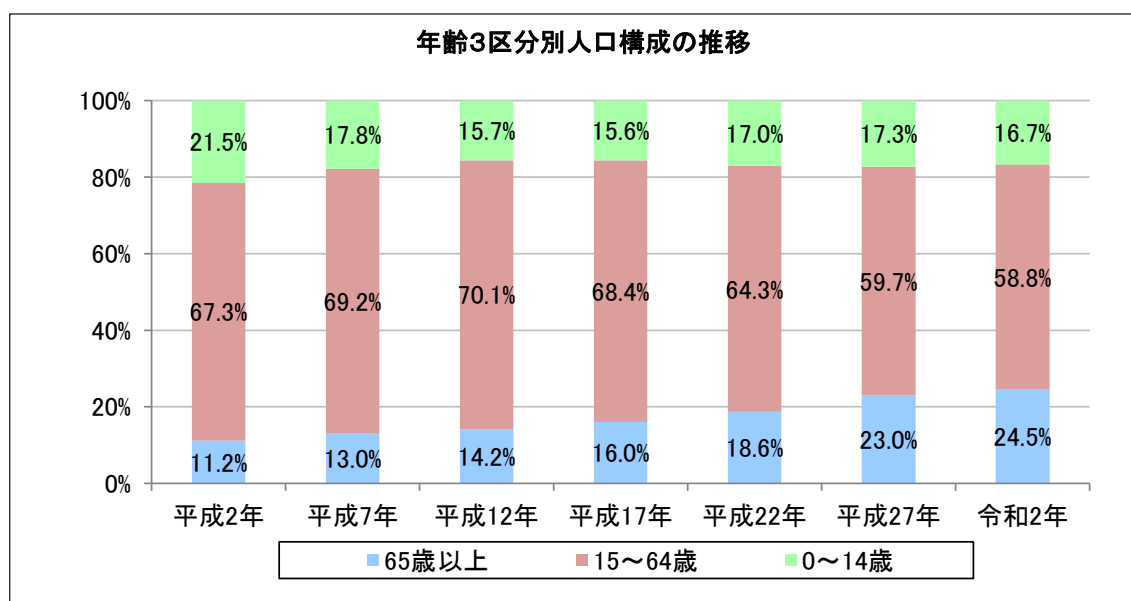
	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
人口	49,532	52,436	58,809	63,649	69,761	72,840	78,724
世帯数	13,575	15,160	18,570	21,426	24,393	26,656	31,585
一世帯あたり人員	3.65	3.46	3.17	2.97	2.86	2.73	2.49



出典：国勢調査（平成2年～平成27年）、住民基本台帳（令和2年9月末日現在）
 ※平成2年～平成17年は合併前の旧3町それぞれの数値の合計値

② 年齢別人口

年齢3区分別に人口構成比をみると、0～14歳の年少人口は平成17年までの減少傾向から平成22年には増加に転じており、令和2年（住民基本台帳）では16.7%となっています。15～64歳の生産年齢人口は、平成17年にそれまでの増加傾向から減少に転じており、令和2年（住民基本台帳）では58.8%となっています。65歳以上の老年人口は増加が続いており、令和2年（住民基本台帳）では24.5%となっています。



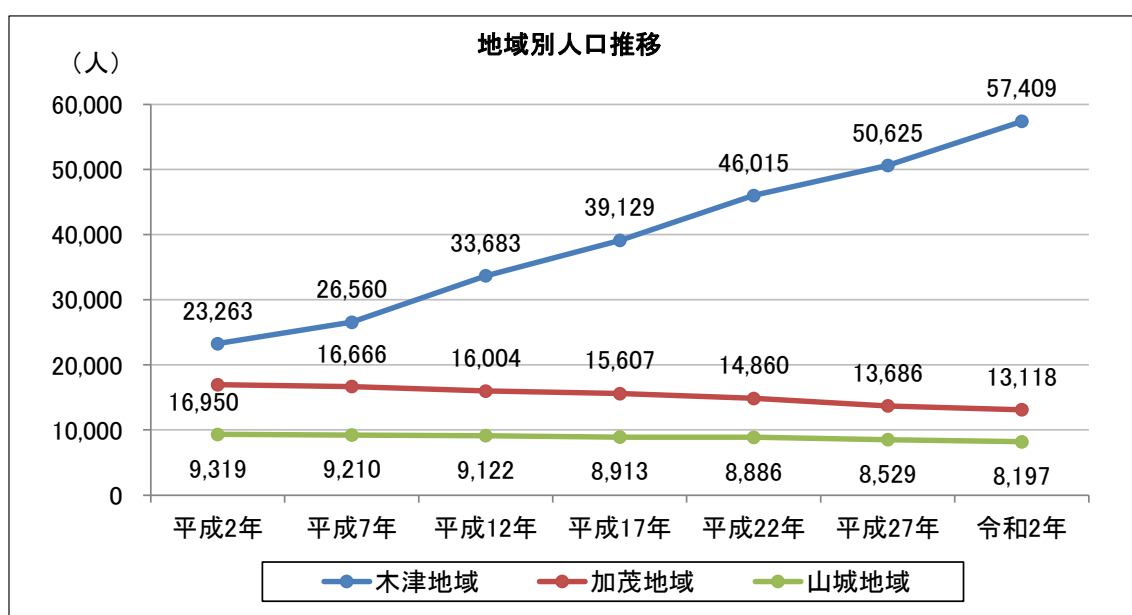
出典：国勢調査（平成2年～平成27年）、住民基本台帳（令和2年9月末日現在）
 ※平成2年～平成17年は合併前の旧3町それぞれの数値の合計値

③ 地域別人口

人口を地域別にみると、木津地域では関西文化学術研究都市での開発の進展により増加傾向が続いています。一方で、加茂地域と山城地域では、緩やかな減少が続いています。

地域別人口

	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
木津地域	23,263	26,560	33,683	39,129	46,015	50,625	57,409
加茂地域	16,950	16,666	16,004	15,607	14,860	13,686	13,118
山城地域	9,319	9,210	9,122	8,913	8,886	8,529	8,197



出典：国勢調査（平成2年～平成27年）、住民基本台帳（令和2年9月末日現在）
 ※平成2年～平成17年は合併前の旧3町それぞれの数値の合計値

4) 産業

① 産業別就業者数

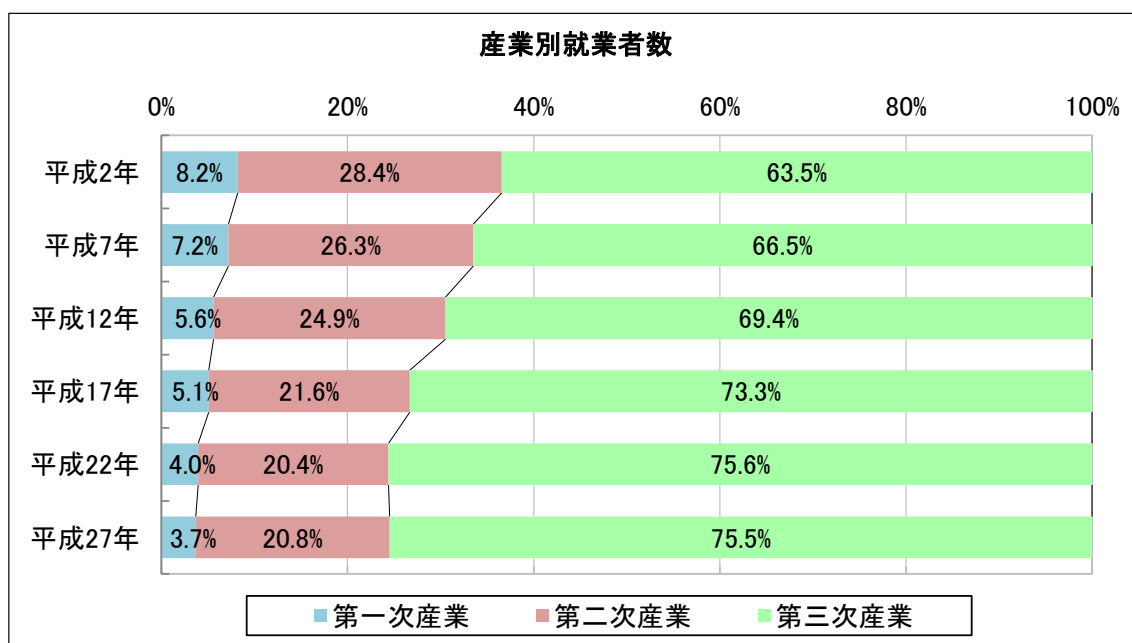
就業人口は、平成2年からの推移では増加が続いていますが、総人口に占める割合は平成7年以降微減傾向にあります。

産業別人口構成をみると、第一次産業は減少が続いており、平成27年で3.7%となっています。第二次産業も減少傾向が続いていますが、平成27年で僅かに増加し20.8%となっています。第三次産業は増加が続いていますが、平成27年で横ばいとなり75.5%となっています。

就業者数の推移

	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
就業人口	22,274	25,057	27,910	30,073	31,137	32,271
(対総人口)	45.0%	47.8%	47.5%	47.2%	44.6%	44.3%

出典：国勢調査



出典：国勢調査

※平成2年～平成17年は合併前の旧3町それぞれの数値の合計値

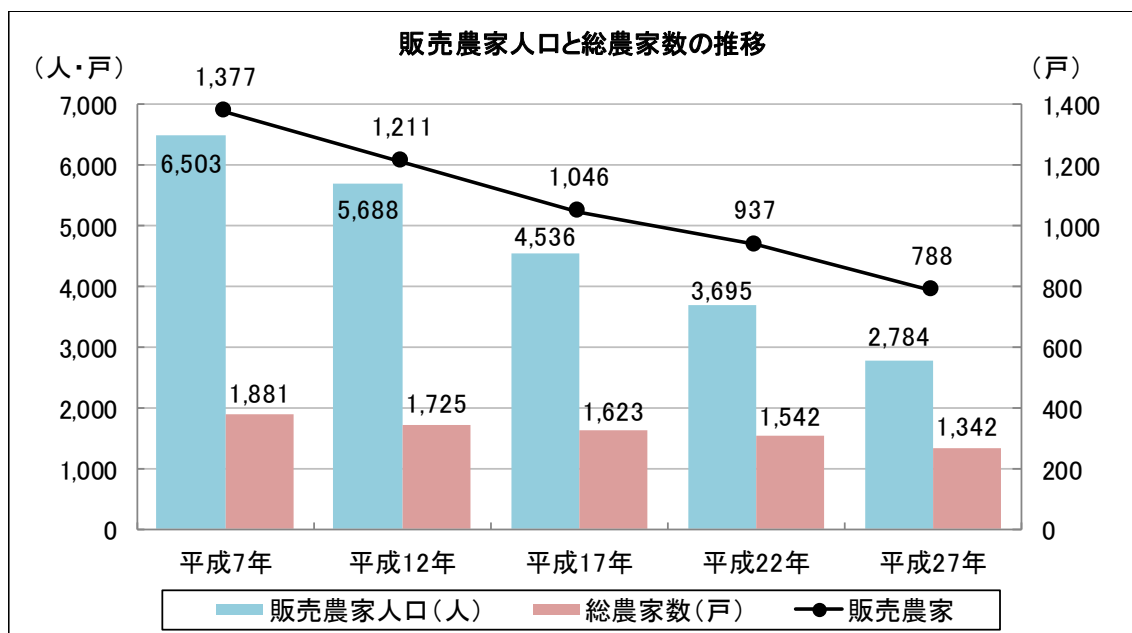
② 農業

木津川市では、稲作のほか、京都や大阪の大都市に近い立地特性を活かし、畑作を中心とした近郊農業等が盛んですが、平成27年の販売農家人口は2,784人、総農家数は1,342戸でそれぞれ減少しています

販売農家人口と総農家数の推移

	販売農家人口 (人)	総農家数(戸)	
			販売農家
平成7年	6,503	1,881	1,377
平成12年	5,688	1,725	1,211
平成17年	4,536	1,623	1,046
平成22年	3,695	1,542	937
平成27年	2,784	1,342	788

出典：京都府統計書



出典：京都府統計書

※平成7年～平成17年は合併前の旧3町それぞれの数値の合計値

③ 商業

平成28年の木津川市の商店数は381件、従業者は3,370人、年間商品販売額は721.7億円となっています。商店数と従業員数は平成16年から平成19年にかけては増加していますが、平成24年に減少し、以降はほぼ横ばいとなっています。年間商品販売額は平成19年、平成26年には減少していますが、長期的には増加傾向にあります。

また、大規模小売店舗は、平成13年に2件でしたが、平成21年で4件、令和2年で8件へと増加しています。

※：経済センサスは平成21年からの新規調査であり、既存の統計による過去の値とは比較できないため、平成16、19年のデータは参考として掲載します。

商店数、従業者数、年間商品販売額の推移（参考）

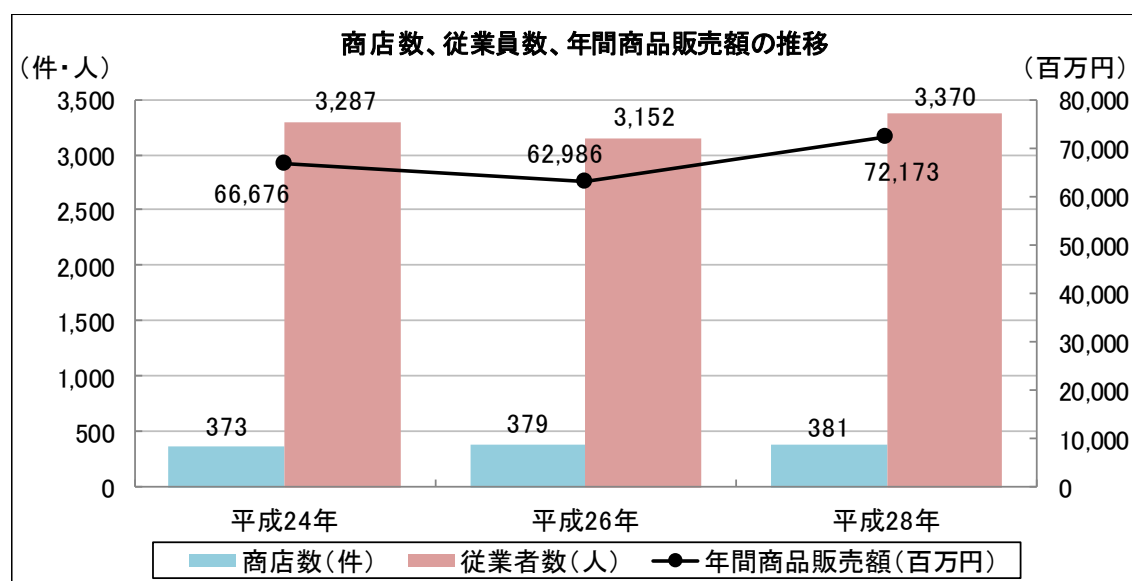
	商店数(件)	従業者数(人)	年間商品販売額(百万円)
平成16年	500	3,352	57,262
平成19年	566	4,683	55,654

出典：京都府統計書

商店数、従業者数、年間商品販売額の推移

	商店数(件)	従業者数(人)	年間商品販売額(百万円)
平成24年	373	3,287	66,676
平成26年	379	3,152	62,986
平成28年	381	3,370	72,173

出典：京都府統計書



出典：京都府統計書

大規模小売店舗の立地動向

	店舗数(件)	店舗面積(m ²)
平成13年	2	11,313
平成21年	4	41,747
令和2年	8	97,056

大規模小売店舗：店舗面積1,000m²を超える大型小売店

出典：「全国大型小売店舗総覧」 東洋経済新報社発行

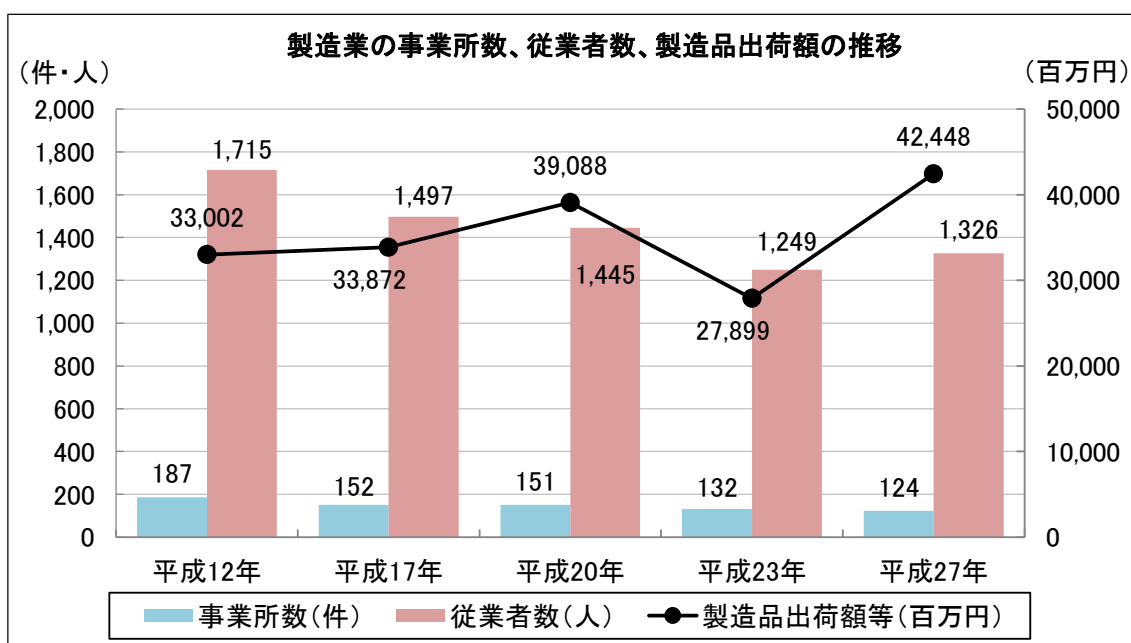
④ 工業

平成27年の木津川市の事業所数は124件、従業者は1,326人、製造品出荷額等は424.5億円となっています。平成12年と比較すると、事業所数、従業者数は減少傾向にありますが、製造品出荷額等は高くなっています。

製造業の事業所数、従業者数、製造品出荷額等の推移

	事業所数(件)	従業者数(人)	製造品出荷額等 (百万円)
平成12年	187	1,715	33,002
平成17年	152	1,497	33,872
平成20年	151	1,445	39,088
平成23年	132	1,249	27,899
平成27年	124	1,326	42,448

出典：京都府統計書



出典：京都府統計書

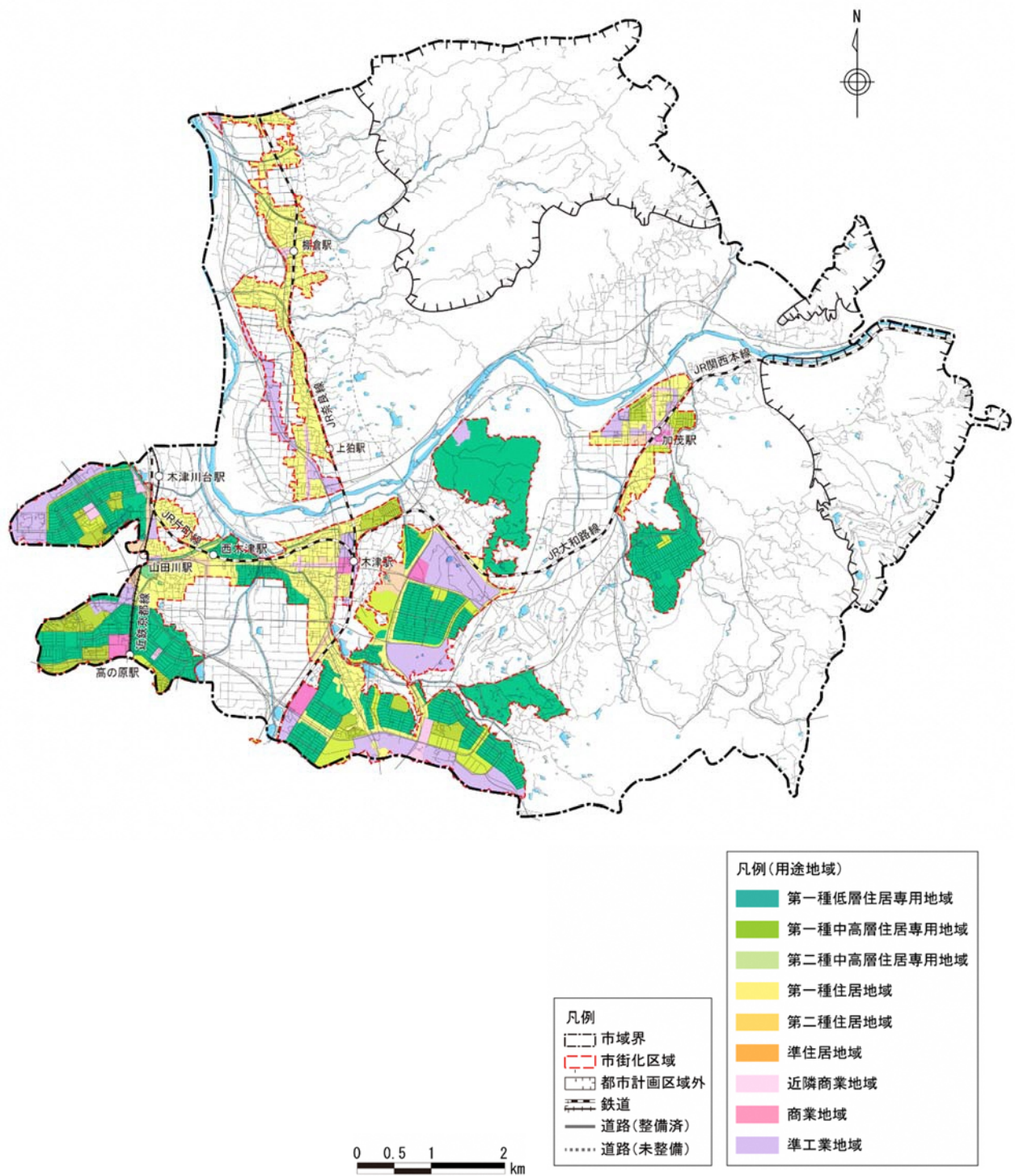
※平成12・17年は合併前の旧3町それぞれの数値の合計値

5) 都市計画

① 用途地域

13種の用途地域のうち、9種の用途地域が定められており、住居系が1,427.2ha（81.2%）、商業系が73.2ha（4.2%）、工業系が257.6ha（14.6%）となっています。

種 類		面積 (ha)		比率 (%)		
市域		8,513.0				
都市計画区域		6,709.0		100.0		
市街化調整区域		4,951.0		73.8		
市街化区域		1,758.0		26.2	100.0	100.0
住居系	第一種低層住居専用地域	714.3	1,427.2	-	40.6	81.2
	第二種低層住居専用地域	-			-	
	第一種中高層住居専用地域	109.1			6.2	
	第二種中高層住居専用地域	94.8			5.4	
	第一種住居地域	459.0			26.1	
	第二種住居地域	46.8			2.7	
	準住居地域	3.2			0.2	
	田園住居地域	-			-	
商業系	近隣商業地域	42.2	73.2	-	2.4	4.2
	商業地域	31.0			1.8	
工業系	準工業地域	257.6	257.6	-	14.6	14.6
	工業地域	-			-	
	工業専用地域	-			-	

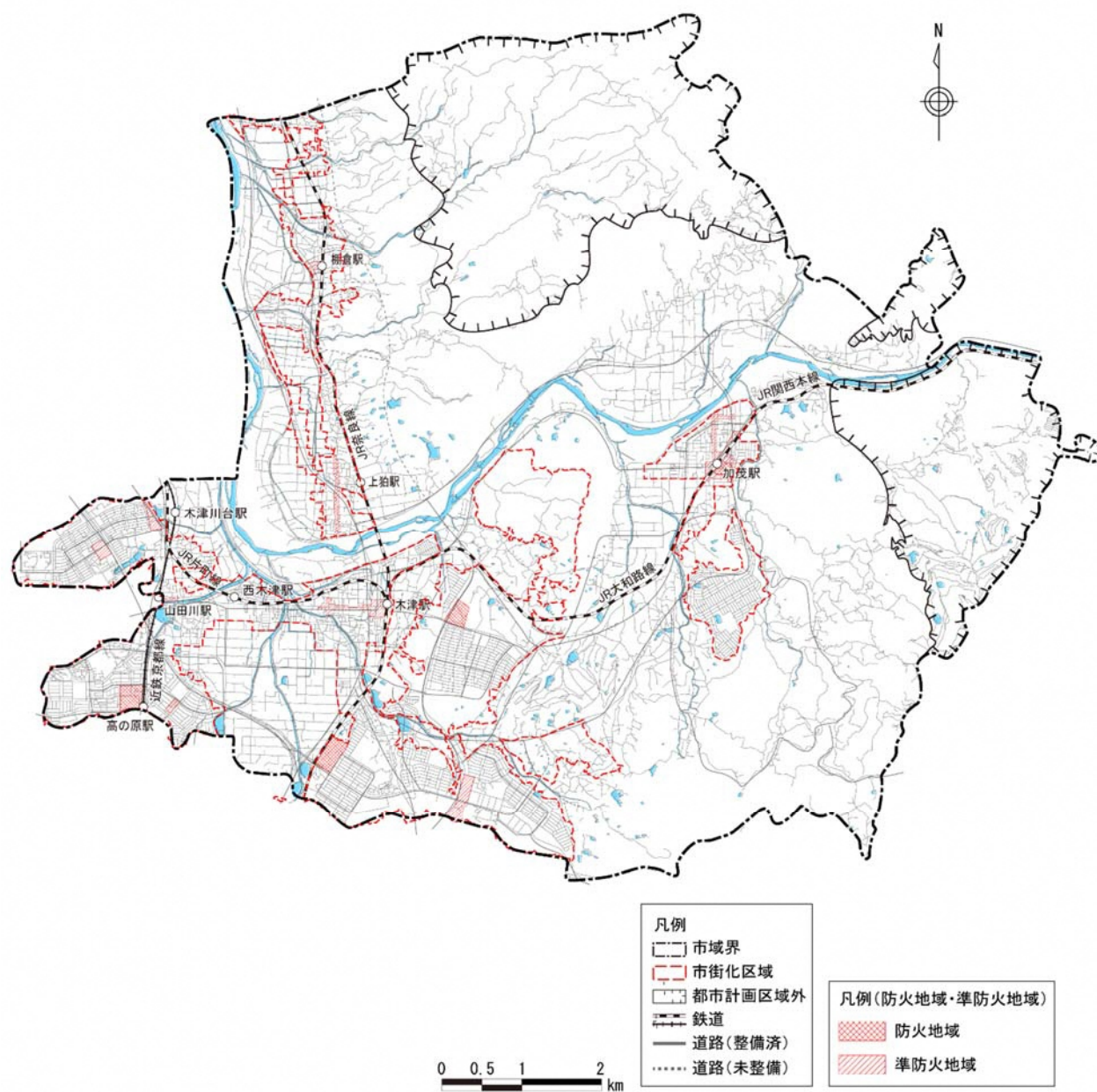


出典：令和元年度都市計画基礎調査

図 用途地域

② 防火地域・準防火地域

鉄道駅の周辺などの商業系の用途地域に、防火地域及び準防火地域が指定されています。



出典：令和元年度都市計画基礎調査

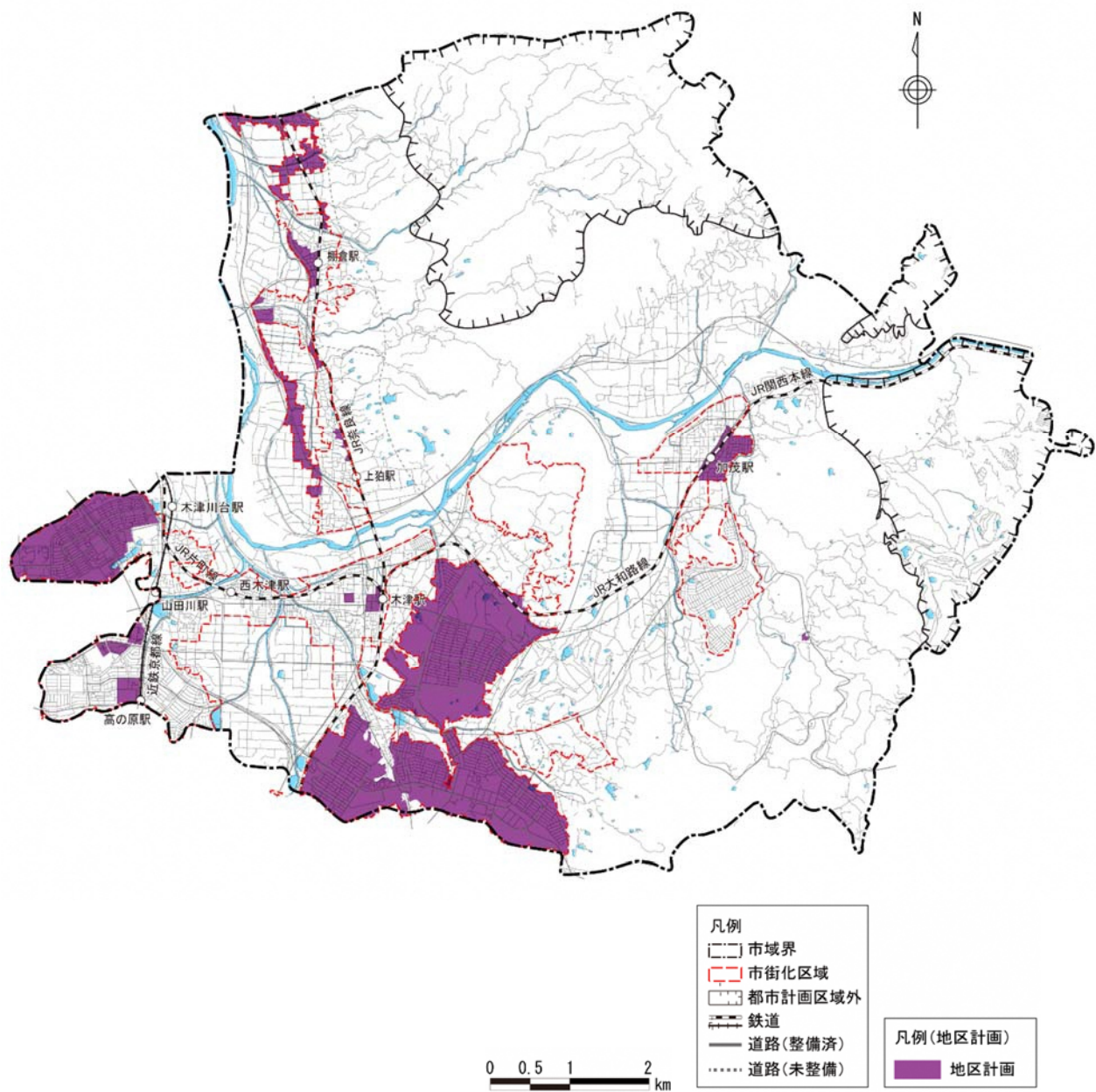
図 防火地域・準防火地域

③ 地区計画

地区計画は、18地区で定められており、地区計画の内容を木津川市地区計画区域内における建築物の制限に関する条例でも規制しています。

No.	名称	位置	面積 (ha)
1	木津川台地区計画	木津川台1～8丁目、 木津川台9丁目の一部	約 130.2
2	木津南地区計画 (州見台・梅美台)	州見台一～八丁目、 梅美台一～八丁目	約 283.8
3	木津中央地区計画（城山台）	城山台一～十三丁目	約 245.7
4	相楽リサーチパーク地区計画	兜台六丁目及び相楽台三丁目の各一部	約 9.3
5	木津駅前地区計画	木津駅前一丁目	約 4.8
6	木津庁舎周辺地区計画	木津南垣外の一部	約 1.5
7	高の原地区計画	相楽台一丁目の一部	約 8.9
8	加茂駅周辺地区計画	加茂町駅東一～四丁目、 駅西一～二丁目	約 23.0
9	綺田淀村地区計画	山城町綺田山口、綺田山ノ上、綺田 淀村、綺田南河原の各一部	約 2.2
10	上粕的場地区計画	山城町上粕的場、上粕山神、上粕鈴 畑の各一部	約 2.4
11	北河原堂ノ上・椿井安ノ平地区 計画	山城町北河原堂ノ上、椿井安ノ平、 椿井西ヶ峰、椿井北代の各一部	約 2.1
12	上粕東林・椿井上野地区計画	山城町上粕東林、上粕上野、椿井上 野、椿井縄手、椿井大將軍の各一部	約 2.0
13	平尾開キ・山森地区計画	山城町平尾開キ、平尾山森の各一 部	約 0.9
14	綺田北部地区計画	山城町綺田藪浦、綺田渡り戸、綺田 鳥居、綺田野田、綺田神ノ木、綺田 渋川、綺田柏谷、綺田平後、綺田北 村、綺田中浜、綺田戸田家、綺田山 際、綺田浜、綺田出垣外、綺田西ノ 口、綺田局塚の各一部	約 33.9

15	平尾西方儀・北河原乾川原地区計画	山城町平尾西方儀、平尾東方儀、北河原乾川原、北河原内畑の各一部	約 3.6
16	国道沿道地区計画	山城町上粕一本木、上粕狸々垣外の全部 北河原乾川原、北河原畑岡、椿井北野、椿井畑岡、椿井落合、椿井水垣内、椿井阪ノ下、椿井堂垣内、椿井鳥井、椿井伊賀落、上粕柘榴垣外、上粕チサ工、上粕松笠、上粕宝本、上粕西浦代、上粕内瀬、上粕前畑、上粕大竹、上粕造々垣外、上粕落辺の各一部	約 23.1
17	棚倉駅西地区計画	山城町平尾小島、平尾西古川、平尾中古川、平尾前田、平尾北払戸、平尾南払戸、平尾里屋敷、平尾不知田、平尾池顔、平尾三所塚の各一部	約 11.0
18	当尾の郷会館地区計画	加茂町辻下垣外の一部	約 0.6



出典：令和元年度都市計画基礎調査

図 地区計画

④ 市街地開発事業等

市街地開発事業等としては、主に木津地域のニュータウンでの土地区画整理事業があり、JR木津駅、加茂駅、棚倉駅の周辺でも一部みられます。

また、民間による大規模開発地として南加茂台地区及び木津川台地区があります。

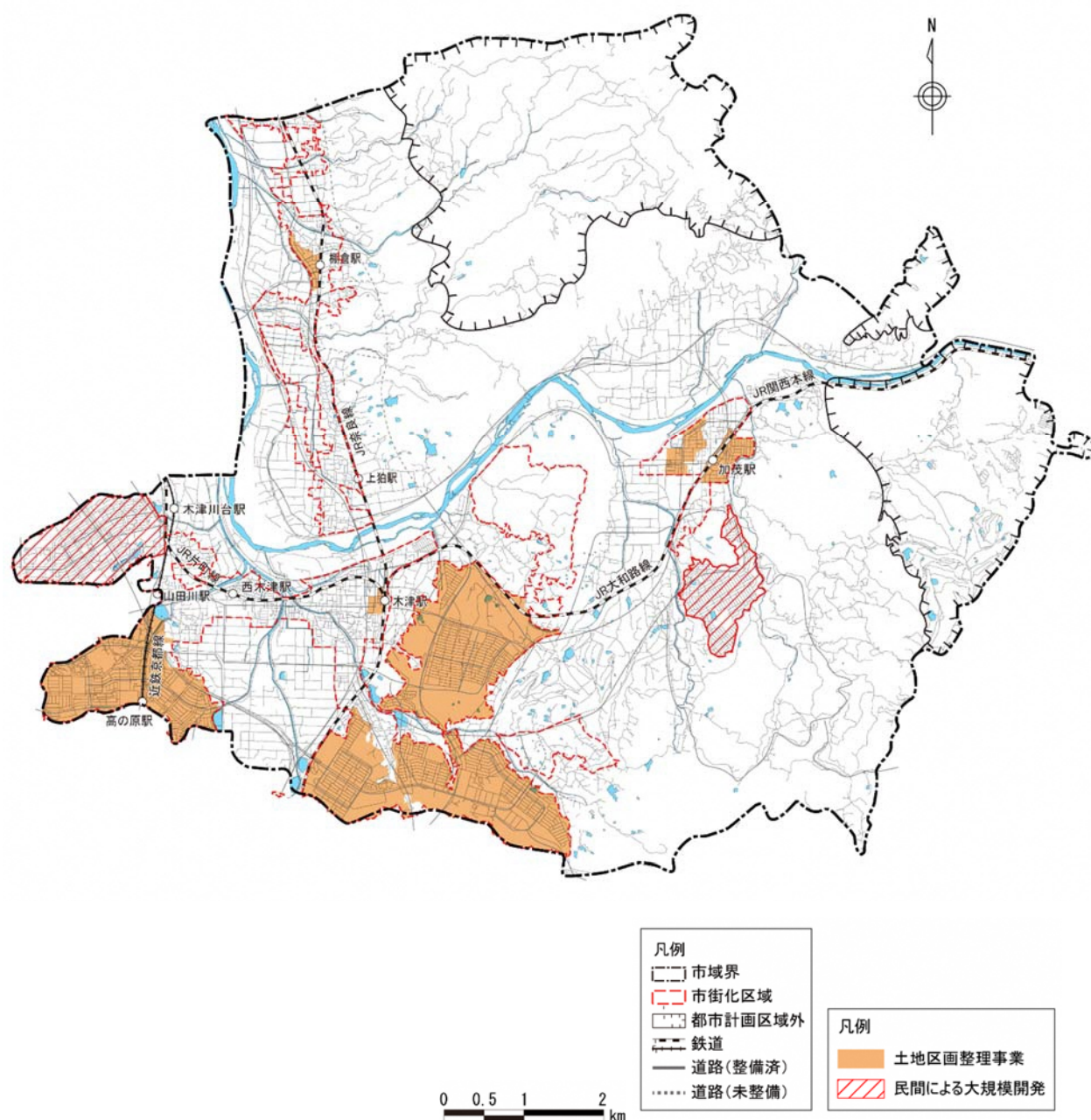


図 市街地開発事業等位置図

6) 市民アンケート調査

① 市民意識調査（総合計画アンケート調査から抜粋）

平成29年度に実施した総合計画策定に向けた市民アンケート調査のデータに基づき、都市計画に関する市民の意識、意向を再整理します。また、平成25年度に実施した第1次木津川市総合計画後期基本計画策定に向けた市民アンケート調査のデータとの比較検証を行います。

●調査の概要（平成29年度調査）

調査の目的	第2次総合計画の策定にあたり、市民の木津川市に対する満足度、政策・施策に関するニーズを把握するとともに、第1次総合計画による効果を検証するために実施したものです。
調査の対象	市内在住の満18歳以上の方（外国人を含む）
配布・回収方法	郵送による配布、回収。
調査期間	平成29年9月29日～平成29年10月16日
回収状況	配布数 5,500 回収数 2,055 回収率 約37%

●調査の概要（平成25年度調査）

調査の目的	総合計画後期基本計画策定にあたり、市民の木津川市に対する満足度、政策・施策に関するニーズ及び総合計画前期基本計画策定時と現在のまちづくりを比較検証するために実施したものです。
調査の対象	市内在住の満18歳以上の方（外国人を含む）
配布・回収方法	郵送による配布、回収。
調査期間	平成25年6月7日～平成25年6月24日
回収状況	配布数 5,500 回収数 2,021 回収率 約37%

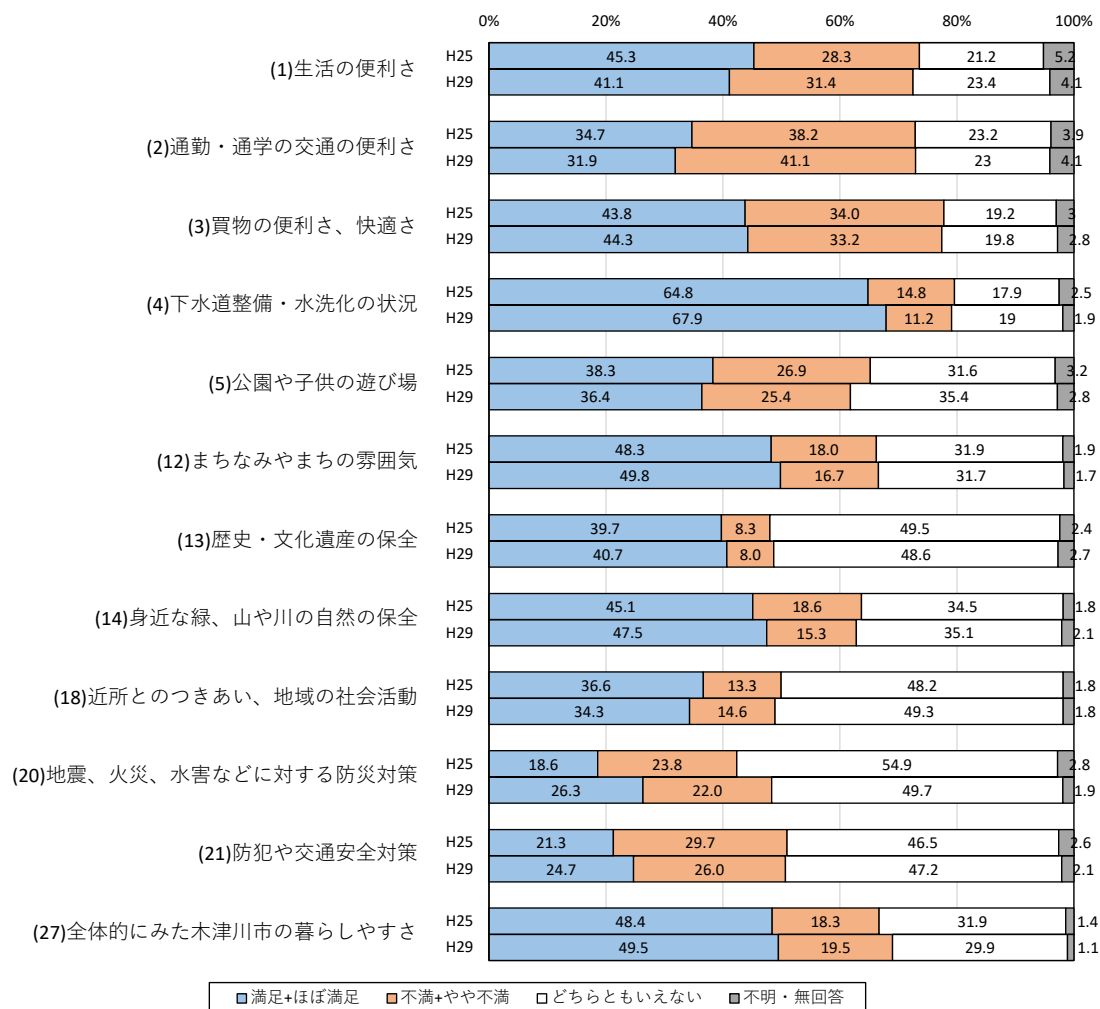
※ 回答比率は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。また、複数回答の設問についても、回答比率の合計が100%を超える場合があります。

●調査項目

(ア)	木津川市の暮らしやすさ
(イ)	木津川や山の緑など自然環境
(ウ)	関西文化学術研究都市
(エ)	防災
(オ)	交通
(カ)	道路整備
(キ)	住民参加のまちづくり

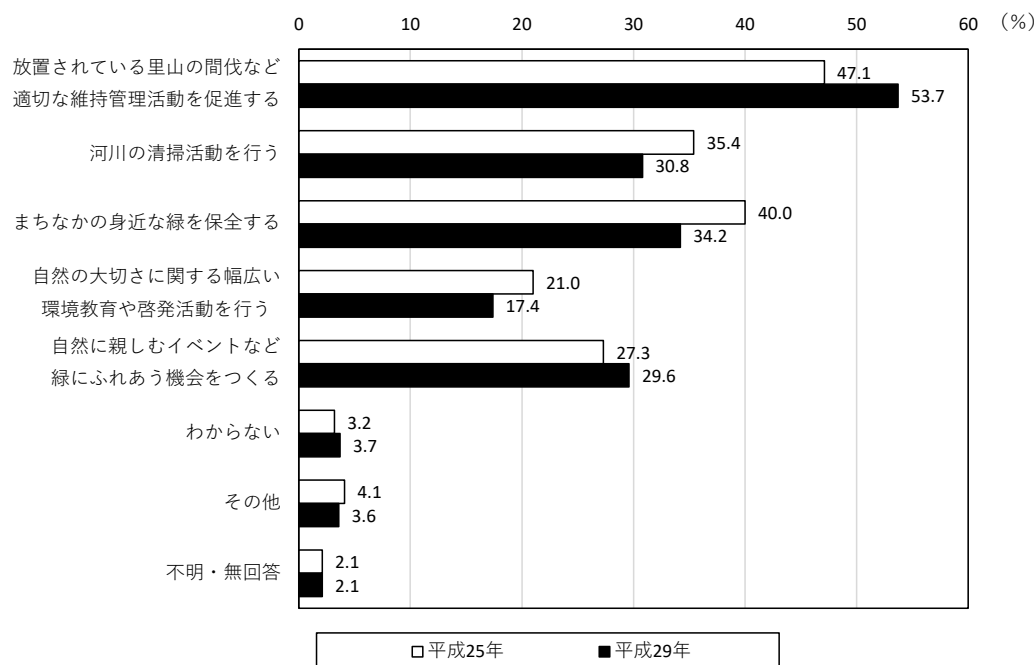
●調査結果

(ア) 木津川市の暮らしやすさについて、日頃どのように思われていますか。(それぞれ1つずつ)



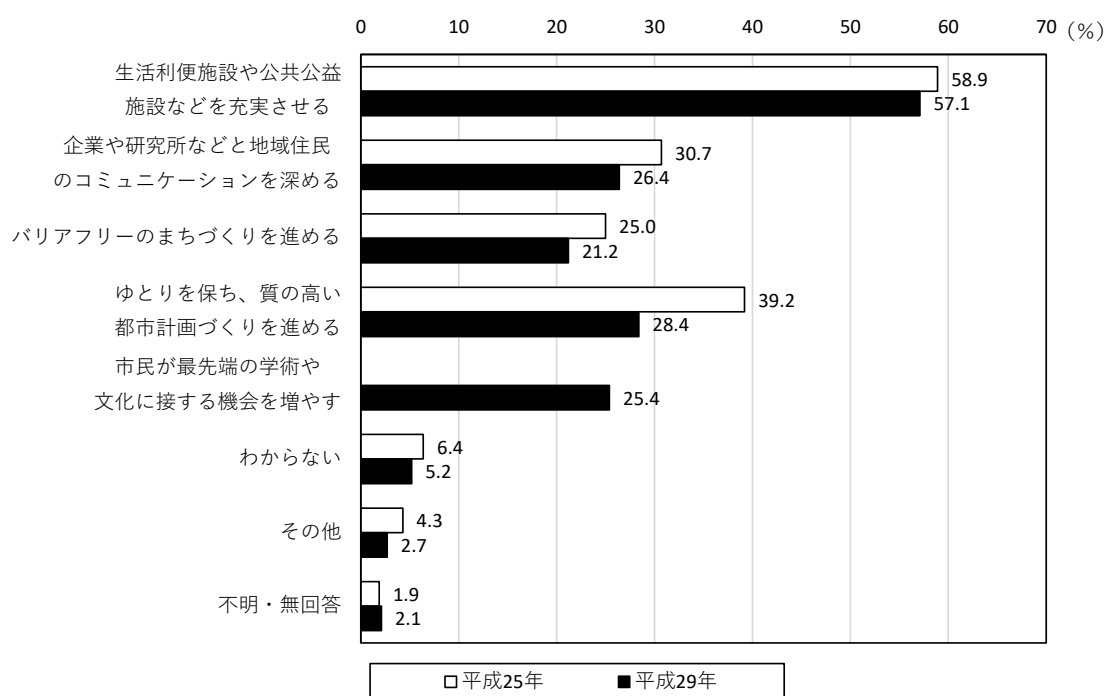
- 最も良い評価が多いのは「(4) 下水道整備・水洗化の状況」で、「(12) まちなみやまちの雰囲気」、「(14) 身近な緑、山や川の自然の保全」、「(27) 全体的にみた木津川市の暮らしやすさ」への評価が高くなっています。
- (1)、(2)、(18) の項目では、良い評価が減少し、悪い評価が増加しています。
- (3)、(4)、(12)、(13)、(14)、(20)、(21) の項目では、悪い評価が減少し、良い評価が増加しています。

(イ) 木津川市は木津川や山の緑など自然環境に恵まれたまちです。これらの景観・自然環境を保全するためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。(2つ以内で選択)



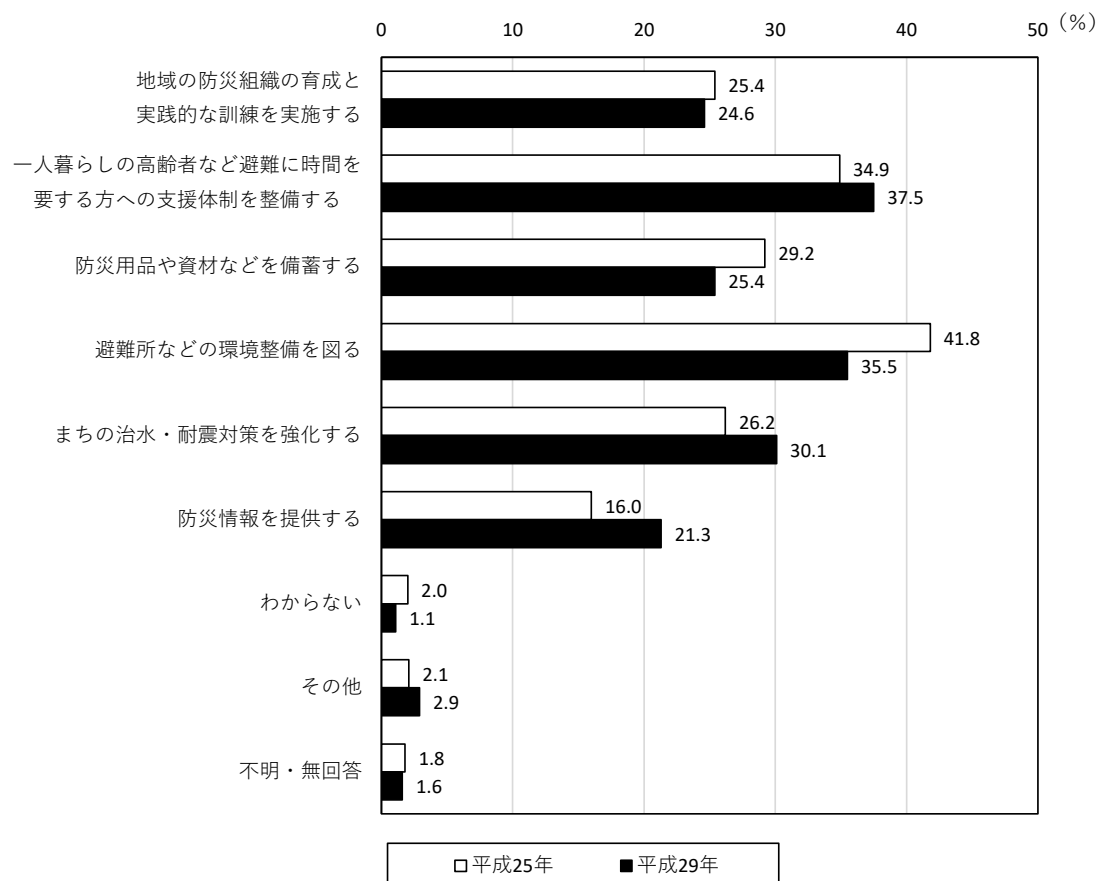
- 「放置されている里山の間伐など適切な維持管理活動を促進する」が最も多く半数を超えており、次いで「まちなかの身近な緑を保全する」、「河川の清掃活動を行う」と続いています。
- 前回調査と比較すると、「放置されている里山の間伐など適切な維持管理活動を促進する」が6.6%増加しています。一方で、「河川の清掃活動を行う」や「まちなかの身近な緑を保全する」は減少しています。

(ウ) 関西文化学術研究都市の住みよい都市環境づくりに向けてどのような取り組みが必要だと思いますか。(2 つ以内で選択)



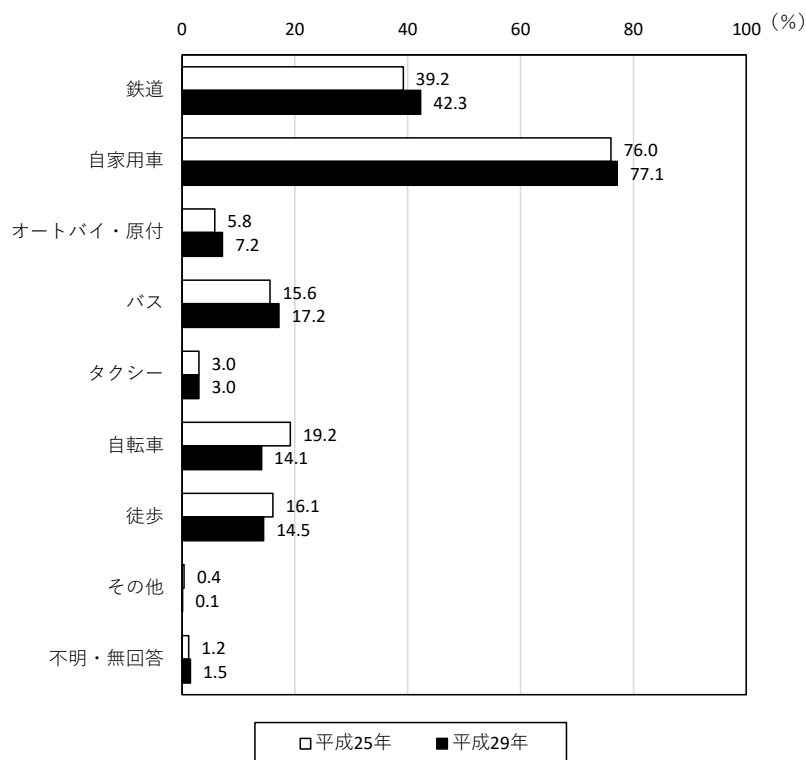
- ・「生活利便施設や公共公益施設などを充実させる」が最も多く半数を超えており、施設の需要に対する需要が大きいと考えられます。
- ・前回調査と比較すると、選択肢に「市民が最先端の学術や文化に接する機会を増やす」が追加されたことにより、他の選択肢の割合が減少していますが、傾向としては大きな変化は見られません。

(工) 地震や水害、火災などの災害に対し、安心・安全なまちにするためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。(2つ以内で選択)



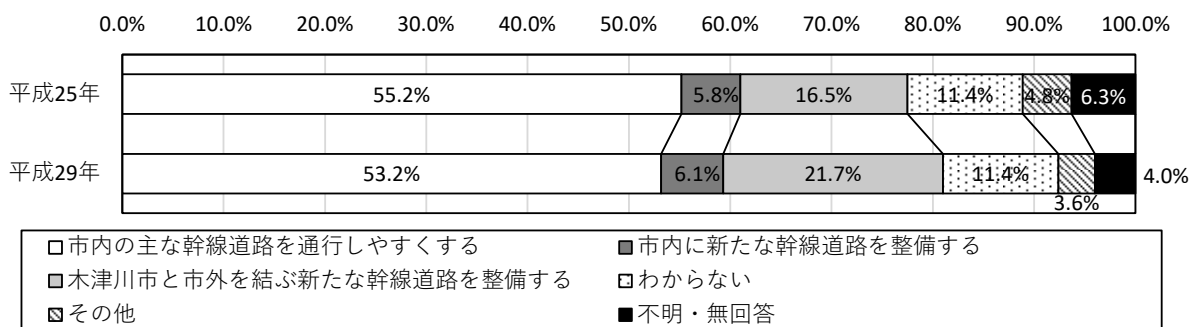
- 「一人暮らしの高齢者など避難に時間を要する方への支援体制を整備する」と「避難所などの環境整備を図る」が他の選択肢と比べて高くなっています。避難に係る施設整備とともに、全ての人が避難できるための施策が求められていると考えられます。
- 「まちの治水・耐震対策を強化する」と「防災情報を提供する」は、近年の自然災害の多発化の影響を受け、前回調査に比べ増加傾向にあります。

(オ) あなたがよく利用する移動手段は何ですか。(2つ以内で選択)



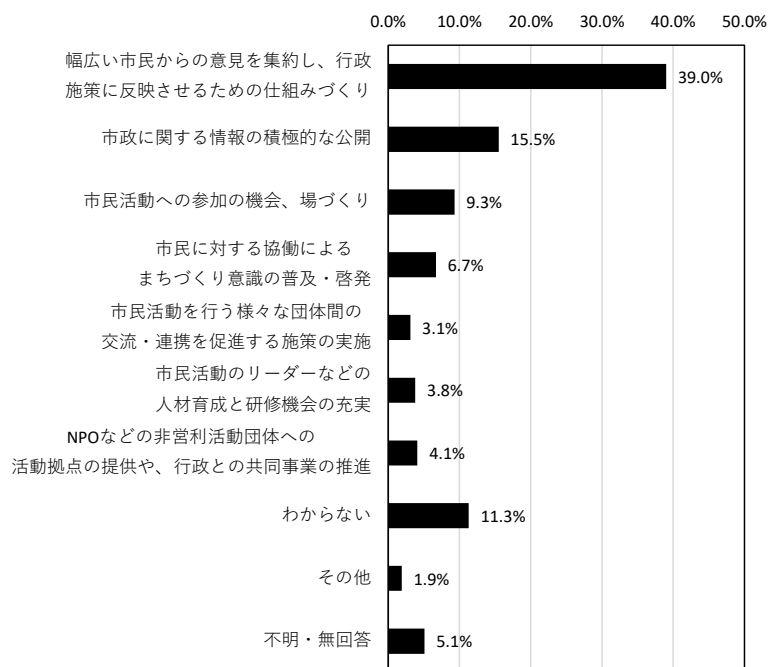
- ・「自家用車」が8割近くと大多数を占め、次いで「鉄道」が多く、「自転車」、「徒歩」と続いています。マイカー依存傾向が伺えます。

(カ) 国道や府道などの幹線道路について、どのような取り組みが必要だと思いますか。(1つ選択)

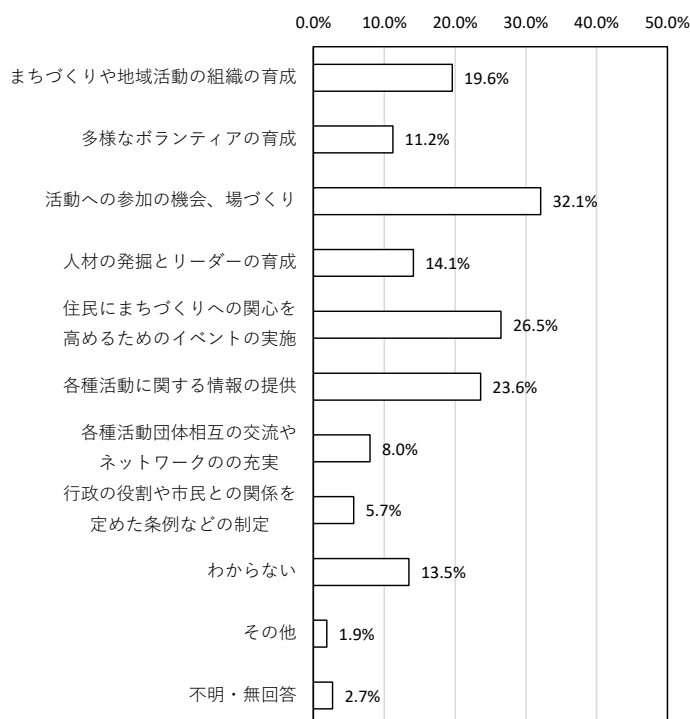


- ・「市内の幹線道路を通行しやすくする」が最も多く半数を占め、他の選択肢は低い値となっています。
- ・前回調査と比較すると、「木津川市と市外を結ぶ新たな幹線道路を整備する」が5.2%増加しています。

(キ) 市民と行政が協働で地域の課題解決や住みよいまちづくりを推進していくために、市が優先的に取り組むべきことは何だと思われますか。(2つ以内で選択)



平成 29 年調査結果



平成 25 年調査結果

- ・平成 29 年調査結果では、「幅広い市民からの意見を集約し、行政施策に反映させる仕組みづくり」が最も多く、他の選択肢は少ない値となっています。

② 木津駅東側地区住民アンケート調査

平成21年度に実施した調査のデータとの比較検証を行うため、令和元年度に前回調査と同内容のアンケート調査を実施し、そのデータに基づき、都市計画に関する意識、意向を再整理します。

●調査の概要（令和元年度調査）

調査の目的	第2次木津川市都市計画マスタープランの策定にあたり、JR 木津駅と木津中央地区（城山台）の間に位置する木津駅東側地区の将来の土地利用についての意見等を把握し、今後の都市計画を検討して行く上での重要な資料として活用することを目的として実施したものです。
調査の対象	木津駅東側地区の土地所有者 374 人
配布・回収方法	郵送による配布、回収
調査期間	令和元年 8 月 14 日～令和元年 9 月 2 日
回収状況	配布数 a 374 未着数 b 24（あて先不明） 回収数 c 156 回収率 $c \div (a-b)$ 44.6%

●調査の概要（平成 21 年度調査）

調査の目的	木津川市都市計画マスタープランの策定にあたり、市民の木津川市の都市計画全般にかかる意向等のほか、木津駅東側地区の将来の土地利用についての意見等を把握し、今後、木津川市の都市計画を検討していく上での資料として活用することを目的として実施したものです。
調査の対象	木津駅東側地区の土地所有者 335 人
配布・回収方法	郵送による配布、回収
調査期間	平成 21 年 5 月 12 日～平成 21 年 5 月 29 日
回収状況	配布数 a 335 未着数 b 13（あて先不明） 回収数 c 158（5/29 以降到着分も含む） 回収率 $c \div (a-b)$ 49.1%

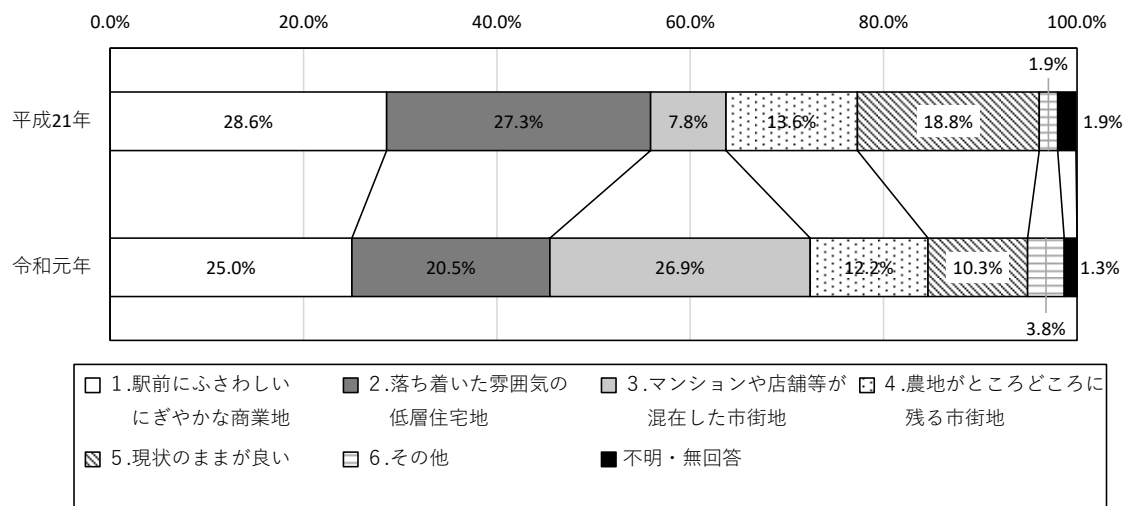
※ 回答比率は、小数点第 2 位以下を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合があります。また、複数回答の設問についても、回答比率の合計が 100%を超える場合があります。

●調査項目

（ア）	望まれるまちの将来像
（イ）	理想的なまちにしていくために必要な取り組み
（ウ）	今後の営農意向

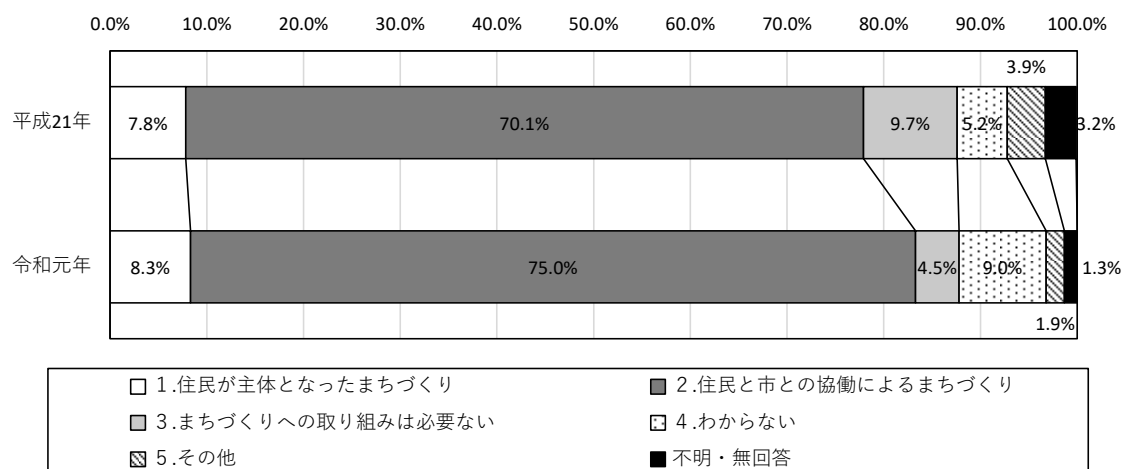
●調査結果

(ア) あなたは、木津駅東側地区が将来どのようなまちになればいいと思いますか。あてはまるものを1つ選び○をつけて下さい。



- 「マンションや店舗等が混在した市街地」が26.9%で最も多く、次いで「駅前にふさわしいにぎやかな商業地」が25.0%となっています。
- 1～4は市街化をイメージした選択肢であり、それらを合計すると84.6%が市街化を望んでいると捉えることができます。
- 前回最も多かった「駅前にふさわしいにぎやかな商業地」が28.6%から25.0%に低下した一方、「マンションや店舗等が混在した市街地」が7.8%から26.9%に上昇し、最も多くなっています。
- 市街化をイメージした1～4の選択肢の合計は、77.3%から84.6%に上昇し、市街化を望む傾向が強くなっています。

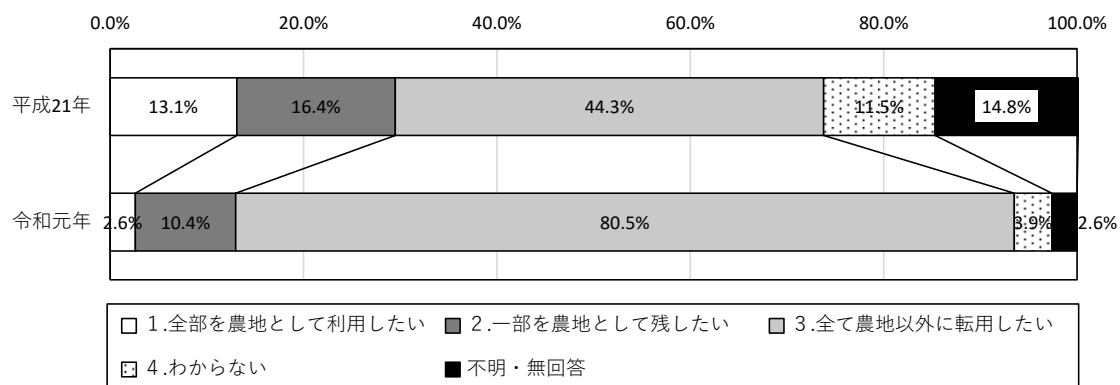
(イ) 木津駅東側地区をあなたが望む理想的なまちにしていこうためにはどのような取り組みが必要だと思いますか。あてはまるものを1つ選び○をつけて下さい。



- ・「住民と市との協働によるまちづくり」が 75.0%で最も多く、それ以外の選択肢とは大きな差があります。
- ・前回結果との大きな差異はみられませんが、「まちづくりへの取り組みは必要ない」は 9.7%から 4.5%に低下した一方、「住民と市との協働によるまちづくり」は 70.1%から 75.0%に上昇しています。

(木津駅東側地区に農地をお持ちの方(77名)のみへの質問)

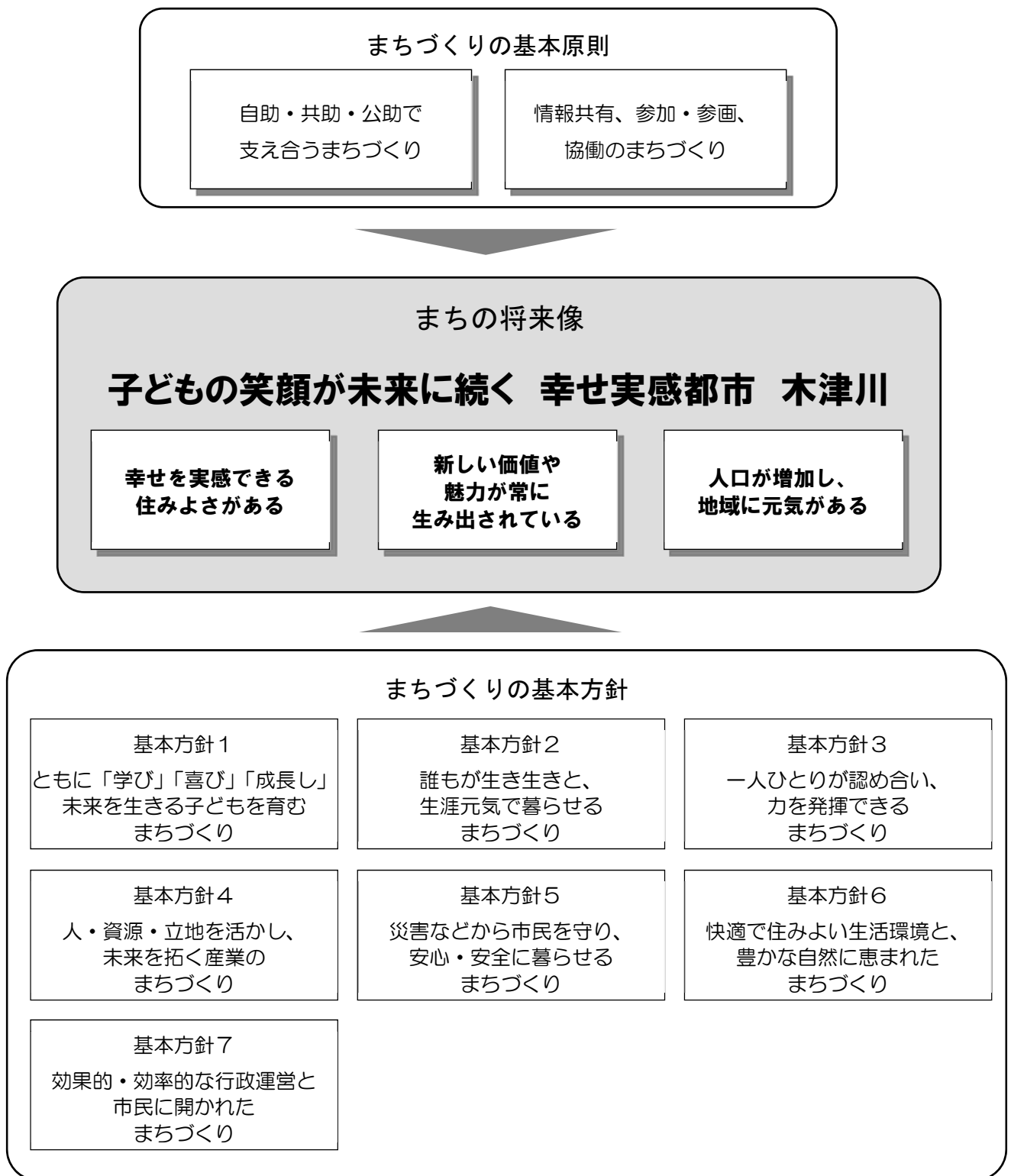
(ウ) 木津駅東側地区での今後の営農について、どのような見通しをお持ちですか。あてはまるものを1つ選び○をつけて下さい。



- ・「全て農地以外に転用したい」が 80.5%で最も多く、次いで「一部は農地として残したい」が 10.4%で続いています。
- ・前回調査と比較すると、「全て農地以外に転用したい」が最も多い点は差異がありませんが、前回の 44.3%から 80.5%に上昇しています。

(3) 上位・関連計画の整理

1) 第2次木津川市総合計画（平成31年3月 木津川市策定）



2) 相楽都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(平成28年5月 京都府策定)

都市づくりの基本理念

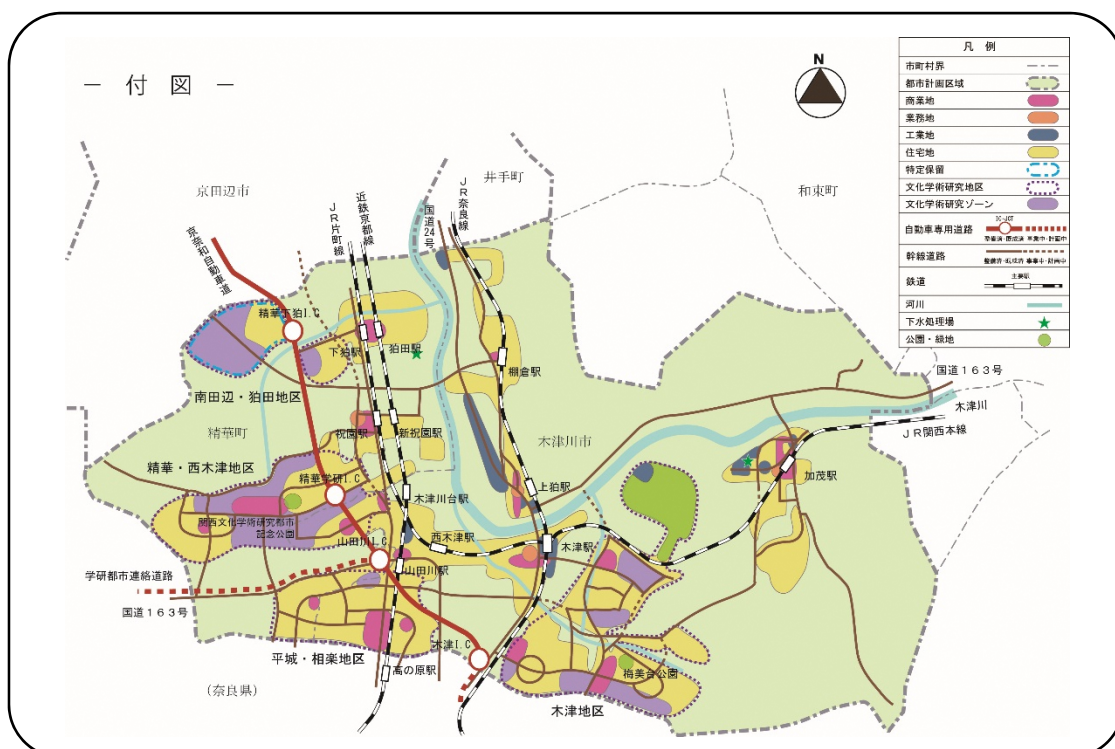
- ①関西文化学術研究都市建設と連携し、未来を拓く知を創造する都市づくり
- ②子育て世代、高齢者等のだれもが安心して健やかに暮らすことができる都市づくり
- ③中心市街地に公的な役割を担う施設が集積し、賑わいと活力基盤を形成するとともに周辺地域とネットワークでつながり、必要な都市機能を相互に補完・連携する効率性・利便性の高い都市づくり
- ④公共交通等により中心市街地と生活拠点ネットワーク化され、誰もが活動しやすい都市づくり
- ⑤ICT等科学技術を活用し、資源、エネルギーの効率的な利用により、環境への負荷の少ないスマートな都市づくり
- ⑥災害に強くしなやかで安全な都市づくり
- ⑦広域交通網、学術研究施設、産業の集積を活かし、交流連帯によってイノベーションが進展することで、地域経済が持続的に成長・発展する都市づくり
- ⑧地域特性を活かした個性的な魅力により、活発な交流が創り出される都市づくり
- ⑨自然、地域文化を反映した良好な景観が保全、形成されている質の高い都市づくり
- ⑩だれもが生まれ育った地域に住み続けられる魅力ある都市づくり
- ⑪住民、民間、行政等が連携・協働し、魅力ある地域社会を実現する都市づくり

区域の将来像

優れた居住環境、学術研究施設の集積を活かした新たな文化を創造する都市

災害に強くしなやかで安全な都市

豊かな歴史・文化・自然と学術研究施設が調和した創造性にあふれる国際交流都市



- 3) 関西文化学術研究都市(京都府域)の建設に関する計画(昭和63年3月 京都府策定、平成4年1月、平成18年3月、平成20年8月、平成25年5月、平成28年1月、平成31年4月一部変更)

第1章 関西文化学術研究都市(京都府域)の建設に関する方針

1 都市建設の目標

関西文化学術研究都市(京都府域)は、大阪府域、奈良県域における関西文化学術研究都市との機能分担を図りながら、京都府及び近畿圏更には我が国の文化・学術・研究の向上、創造的な産業技術の開発による新産業の創出、経済のグローバル化に伴う世界に開かれた国際研究開発拠点としての体制構築、未来を拓く知の創造都市の形成等諸課題にこたえる都市として計画するものである。

このような都市にふさわしい機能を総合的に確保するため、情報通信技術等を活かし、環境・エネルギーや健康・医療、交通、農業等の生活や社会に関わるシステムやサービスを快適にする持続可能な街づくりを進めるとともに、防災性の向上や歴史文化・自然環境と調和を図りつつ、地域の歴史・文化的条件等に配慮して、21世紀初頭までに都市が概成されるよう、次に掲げる整備等を図る。

(1)文化学術研究施設等の整備

高度な文化・学術・研究機能の集積を図るため、文化、芸術に関する高度な研究、教育及び一般啓発等を行う施設、大学等の教育・研究施設、創造的な基礎研究、応用研究及び先端的な技術開発を行う施設、文化・学術・研究における交流、研修等の活動を推進するための機能を備えた施設、文化・学術・研究を促進・支援する情報提供施設並びに文化学術研究交流施設の充実を図る。

(2)産業の振興

産業分野における創造的産業技術開発や新産業創出の拠点として、文化・学術・研究の成果をいかす研究開発型産業及び文化・学術・研究活動を支援する産業の育成を図り、雇用の増大に資するとともに、中堅・中小企業やベンチャー企業の育成や新産業創出機能の充実を図る。

(3)居住環境の整備

今後の街づくりのモデルとして、環境共生や省エネルギー等の先進的な低負荷型街づくりや、高齢者等に配慮した人に優しい都市空間の形成による先導的で良好な住宅・宅地等の整備を図り、文化学術研究都市にふさわしい文化の香り高い人間性豊かで安心・安全、快適な人にやさしい居住環境を確保する。

(4)都市機能の整備

研究・経済活動のグローバル化、高度情報化、少子高齢化等の著しい進展の中で、文化学術研究都市にふさわしい公共・公益施設、情報・通信基盤施設を含む都市機能の総合的な整備を図る。

また、住民、研究者等の利便性の確保を図るとともに、都市的サービスの向上に配慮する。

(5) 広域的な交通施設、情報・通信基盤施設の整備

近畿圏をはじめとする国内外の諸都市や研究開発拠点との連携を確保するための基盤施設を整備し、情報の受信及び発信基地としての機能を強化する。このため、総合的な都市交通体系の確立を目指して道路、鉄道等の交通施設の整備を図るとともに、高度な情報・通信基盤施設の整備を図る。

また、交通施設の整備に伴い必要となる安全施設等の整備により、利用者の安全性及び快適性の向上を図る。

4) 相楽地域商業ガイドライン（平成 19 年 6 月 京都府策定、平成 31 年 2 月改正）

京都府と府内市町村は、中心市街地活性化に取り組むにあたり、人口減少時代の到来や少子高齢化社会の進展等の社会的な背景を踏まえ、まちづくり三法による規制誘導を講じることや、これまで整備された都市基盤など既存ストックを活かしたまちづくりを推進することで、公共交通機関を核とした誰もが暮らしやすく、機能的な都市活動ができる「まちなか」再生を図っていく必要があると考えています。

そして、この場合、特に広域に影響を及ぼす大規模小売店舗は、郊外部への無秩序な立地を抑制し、結果として都市の中心市街地へ誘導することで、中心市街地活性化の効果を上げることが必要です。

こうしたことから、京都府中心市街地活性化懇話会の「まちなか再生を推進するガイドラインに関する提言」に基づき、京都府と府内市町村は、中心市街地エリア、中心市街地の将来目標及び大型店抑制・誘導エリア等を明示した地域商業ガイドラインを策定しました。

相楽地域商業ガイドライン 位置図



（４）都市計画の現況と基本的課題

① 人口構造の変化に対応した計画的な都市整備

- ・ 木津川市の人口は増加傾向にあるものの、令和15（2033）年をピークに、その後は減少に転ずるとされています。
- ・ 少子高齢化が確実に進んでおり、令和元年では65歳以上が24.2%を占めています。今後も急速に高齢化が進むことが予想されます。
- ・ 一世帯あたりの人員は減少しており、核家族世帯と単独世帯が増加しています。今後、高齢化やライフスタイルの多様化が一層進むと、更に単独世帯が増加すると予想されます。



高齢化の進行、単独世帯や核家族世帯の増加などを背景に、日々の生活や移動に不安を抱える人、地域の支えを必要とする人が増加していると考えられます。身近な所で生活利便機能が利用できる環境づくりが求められています。

高齢化や単独世帯の増加に伴う地域コミュニティの衰退や人口減少が進む既成市街地や集落部における人口維持のための環境整備も重要な課題です。

② 地域特性に応じた土地利用と市内連携の強化

- ・ 木津地域では人口が大きく増加しているものの、加茂地域、山城地域では減少傾向が続いており、地域によって差が生じています。特に、人口増加は関西文化学術研究都市地区が中心であり、他の地域との差が明らかになっています。
- ・ アンケートでは、幹線道路について、市内の主な幹線道路を通行しやすくすることが必要であると回答した人が53.2%となっています。
- ・ また、木津駅東側地区の将来について、市街化を望む傾向が強くなっており、農地を所有する人のうち、80.5%の人が全て農地以外に転用したいと回答しています。



木津川、森林等の自然環境や農地、古くからの市街地、農山村集落、計画的に整備されている関西文化学術研究都市など、まちの成り立ちの違いを背景に地域ごとに異なる性格を持つ土地利用がなされています。これらの特性を活かしながら、自然環境や農地の保全、都市機能の維持・向上を図る必要があります。

主要幹線道路を骨格とした道路ネットワークの整備・充実と公共交通ネットワークの強化により、木津川市の拠点や市内、周辺市町との連携・交流を促進し、円滑な移動を促進する交通利便性の高い都市づくりを進めていく必要があります。

木津駅東側地区については、中心都市拠点の機能強化と関西文化学術研究都市地区との連続性の強化を図るため、周辺環境に配慮しながら計画的な市街地形成や、交通アクセスの向上に向けた検討を市民とともに進める必要があります。

③ 水と緑を大切にし、地域資源を活かした、市民が愛着と誇りをもつまちづくり

- ・ 木津川や山並みなど緑豊かな自然の中に、それらと調和した歴史的・文化的遺産が数多く分布し、伝統的な街並みも残されています。
- ・ アンケートでは、市内の自然環境について、里山の維持管理活動の促進や河川の清掃活動、まちなかの身近な緑を保全することを求める回答が多くなっています。
- ・ 平成27（2015）年に、宇治茶とその文化的景観が、日本遺産第1号「日本茶800年の歴史散歩～京都・山城～」に認定され、さらに本市を含む府南部の12市町村にて、宇治茶をテーマに、景観維持やお茶産業の振興、文化の発信などに取り組む「お茶の京都」が展開されています。



水と緑に代表されるかけがえのない木津川市の環境資源を、次世代に継承していくことが求められています。河川や山並みなどの水と緑およびそれに調和したまちなみを、保全し生かしていく必要があります。

市民主体で地域資源を活かして、市民がまちへの愛着と誇りを持てるようなまちを育てていく必要があります。

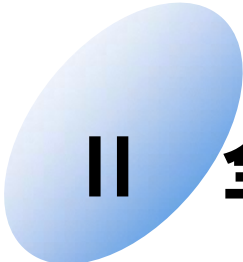
④ 災害に強く、環境負荷の少ないまちづくり

- ・ 木津川市には、天井川を形成している河川が多く、氾濫時には甚大な被害をもたらす恐れがあります。低地を流れる河川では、排水の不良から農地の冠水や住宅の浸水被害が発生する恐れがあります。
- ・ アンケートでは、木津川市の暮らしやすさについて、地震、火災、水害などに対する防災対策や防犯安全対策に対し、前回調査より増加しているものの、満足度は依然として低い状態が続いています。
- ・ また、災害などに対する取り組みとして、近年の自然災害の頻発化・激甚化の影響を受け、まちの治水・耐震対策の強化や防犯情報の提供が必要であると回答する人が増加しています。



全国的に自然災害が頻発化・激甚化する中、局所的な豪雨などによる水害や大規模地震などの防災対策がより一層求められています。治水対策や既成市街地の改善などを行い、災害時の被害を最小限に抑え、安全で安心なまちをつくっていく必要があります。

将来にわたって持続可能な社会を構築するため、大量生産・大量廃棄型社会のあり方を見直し、ごみの減量化や温室効果ガスの排出量削減を推進し、低炭素型・循環型社会への転換を図っていく必要があります。



II 全体構想

1. 都市計画の目標

(1) まちの将来像（第2次木津川市総合計画より）

木津川市では、豊かな未来に向けて、子どもの笑顔があふれ、子どもを大切にすることであらゆる世代の市民がいいきと耀いて暮らせる、みんなが木津川市に住んで良かった、住み続けたいと幸せを実感できるまち。このまちを将来世代に引き継ぎ、創造力にあふれた子どもたちが、さらに新しい未来を切り拓いてくれる、そんな持続可能なまちづくりを進めます。

まちの将来像

子どもの笑顔が未来に続く 幸せ実感都市 木津川

幸せを実感できる住みよさがある

- 住む、学ぶ、働く、遊ぶ、安心・安全の暮らしを感じられる。
- 人、組織、地域のつながりと相互扶助で地域課題の解決に取り組んでいる。

新しい価値や魅力が常に生み出されている

- 市民の感性、創造する力が育ち、活かされるチャンスがある。
- 市内外の交流・ネットワークによる地域づくりが進んでいる。
- 地域の自然・文化や立地環境、関西文化学術研究都市の研究成果などが地域個性や産業に活かされている。

人口が増加し、地域に元気がある

- 子どもが元気に産み育てられ、世代間のバランスが整っている。
- 地域ごとのコミュニティづくりが効果的・効率的におこなわれている。

（２）都市計画の目標

都市計画マスタープランは、「総合計画」におけるまちの将来像「子どもの笑顔が未来に続く 幸せ実感都市 木津川」を実現するうえでの都市計画分野を担います。

今後、本計画の目標年次である2030年度（令和12年度）までの間に、木津川市がどのような都市計画を進めていくのかを市民が共有できるように、都市計画の目標を以下のとおり定めます。

都市計画の目標

自然と文化を身近に 未来を拓く学研都市 木津川

古くは日本の首都である恭仁京が置かれ、数々の社寺など豊富な歴史的・文化的遺産や、木津川の水運と海道の接点として、恵まれた自然環境を背景に農産物や茶、木綿の産地として発展してきました。近年は関西文化学術研究都市の中核としても発展し続けており、全国的な人口減少、少子高齢化の中で、多くの子育て世代に魅力あるまちとして選ばれ、人口は着実に増加しています。

木津川市では、自然と歴史によって育まれてきた文化を身近なものとして捉えて、先人が築き上げてきたまちを未来ある子どもたちに継承するとともに、関西文化学術研究都市の更なる充実とその研究成果を産業、ビジネス、市民生活に活かした持続的な発展を都市計画として支えていき、新旧文化が調和した、子どもの笑顔が未来に続く都市の実現を目指して、「自然と文化を身近に 未来を拓く学研都市 木津川」を都市計画の目標として掲げます。

（３）都市計画を進めていく上での基本的な視点

本市は、これまで人口増など右肩上がりの社会に対応するためのまちづくりを進めてまいりましたが、将来的な人口減少への転換や少子高齢化の進行を見据え、市固有の財産である歴史的・文化的遺産や自然、関西文化学術研究都市の様々なポテンシャル等を活かしながら、まちの魅力を様々な観点から創出し、持続可能な社会を実現する必要があります。

これらを踏まえ、都市計画の目標を実現するための視点として、以下の５項目を設定します。

都市計画の目標を実現するための５つの視点

○まち全体の調和と一体感の向上による、木津川市らしさの演出

市固有の財産である歴史的・文化的遺産や自然を有する既存市街地と関西文化学術研究都市を有する新市街地の新旧市街地がそれぞれの特性を活かして市全体の発展を目指すことで、一体感を高めていきます。

○地域特性に応じた拠点の適正化による、クラスター型の都市づくり

集約型の都市構造の構築を基本に、新旧市街地の地域特性に応じた拠点を設定し、それぞれの拠点の状況に応じた都市機能の維持・向上を図るとともに、各拠点が連携したクラスター型の都市づくりを進めます。

○安心・安全に暮らせる、災害に強い都市づくり

自然災害の防災・減災への対応や、既成市街地の改善など、すべての市民が健康で心豊かな生活を送れるよう、全体の安全性を高めていきます。

○都市と自然が調和した持続可能な都市づくり

自然環境の保全を図りつつ、無秩序な市街地拡大の抑制や交通環境の整備・改善、市街地の緑化などにより、環境負荷の少ない低炭素社会を構築していきます。

○市民との協働による、木津川市の魅力の向上

市民、事業者、行政との協働により、各主体が持つ力を発揮し、木津川市の魅力を高め、市民が愛着と誇りが持てるまちに育てていきます。

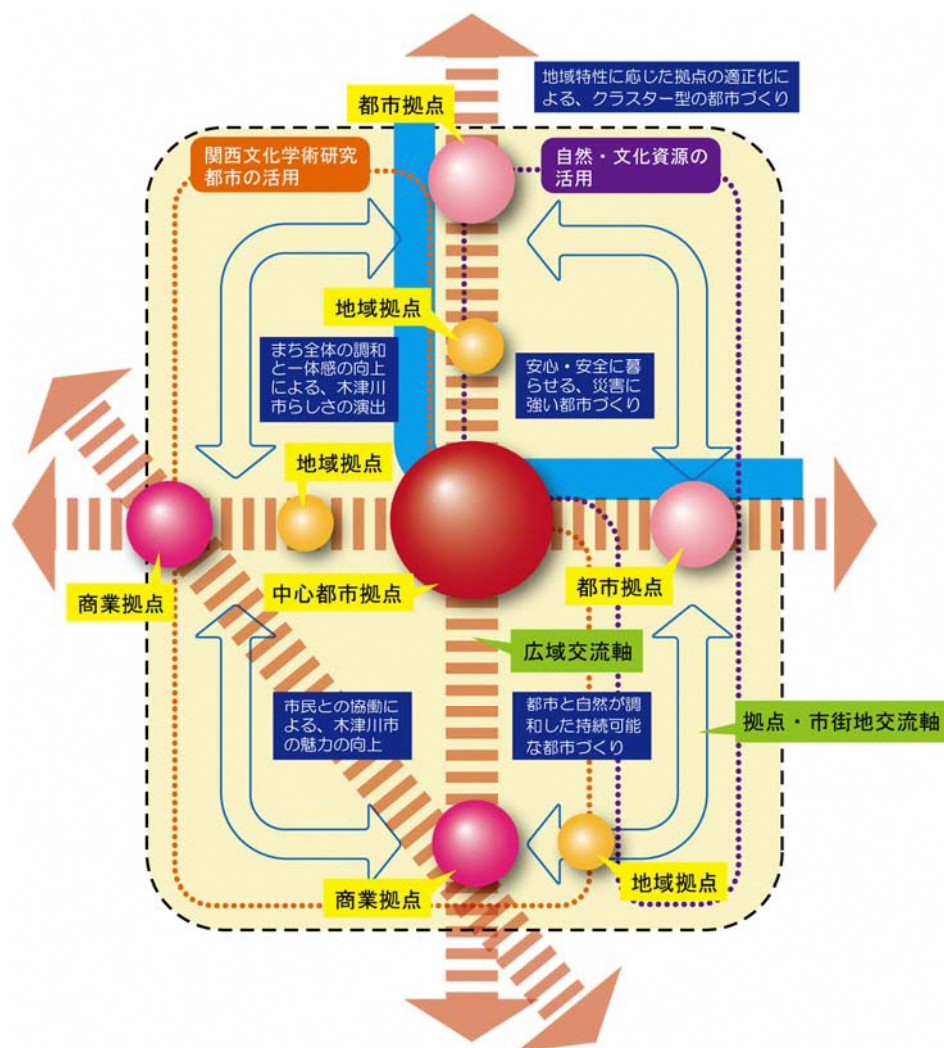
(4) 将来都市構造

「総合計画」に位置付けられた木津川市の将来像や都市計画の目標の実現に向け、これまでのまちの歴史や先に述べた5つの視点を踏まえた都市構造を設定します。

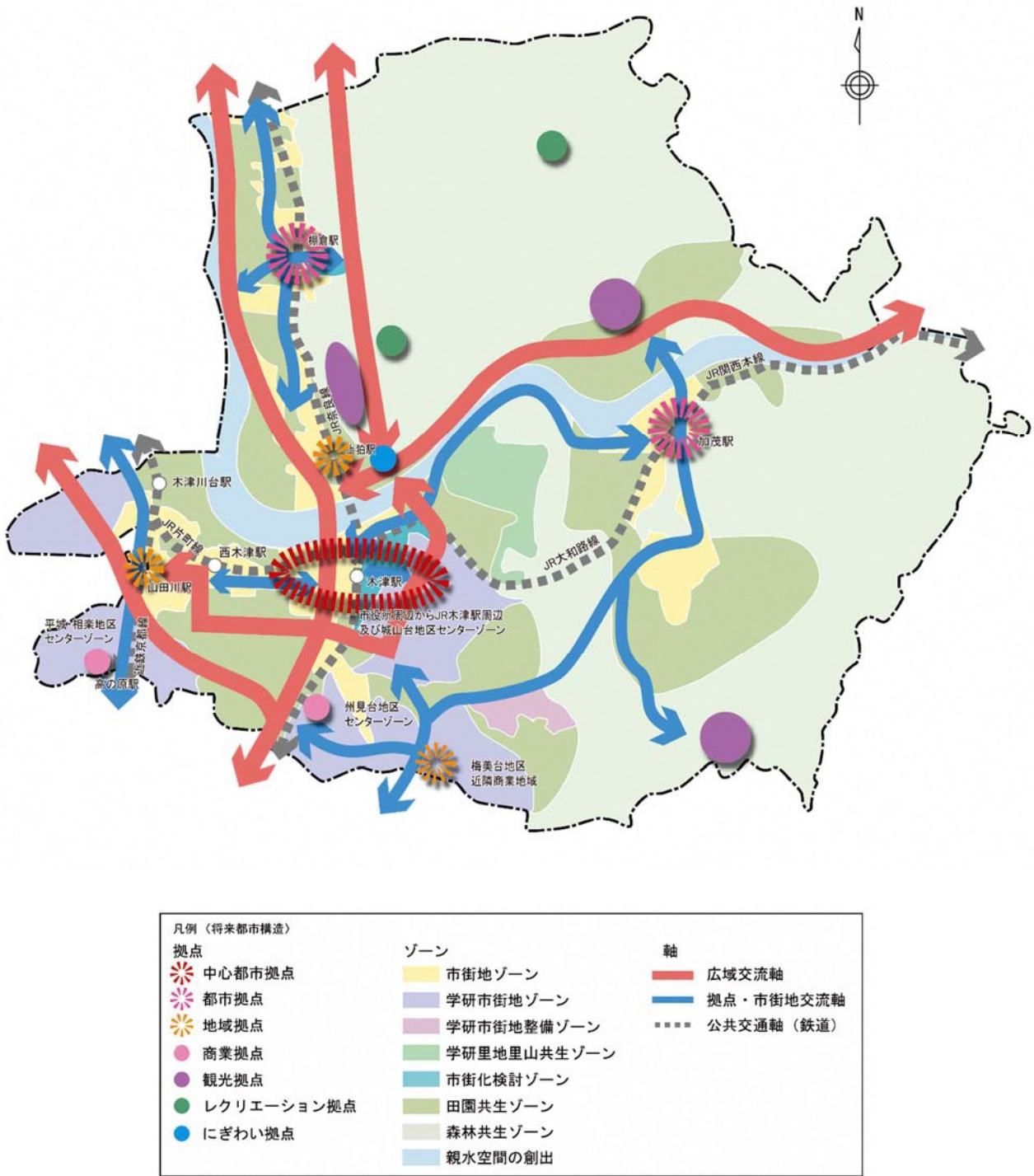
木津川市は、自然が豊富であること、関西文化学術研究都市の建設が進められていることなど、木津川市のまちづくりの特徴を踏まえて、それぞれの地域の個性を最大限に活かした土地利用を図ります。

都市構造については、持続可能な社会の実現に向けて、集約型の都市構造の構築を基本とし、関西文化学術研究都市の整備が進められていることや、地域毎のまちづくりの経緯、方向性などを踏まえて拠点を設定し、都市機能配置の適正化による拠点の機能維持や向上を図ります。また、それぞれの拠点が道路や公共交通で有機的に連携したクラスター型の都市構造を形成し、木津川市全体の調和と一体感の向上を図ります。

将来都市構造の考え方



将来都市構造図



将来都市構造図における拠点、ゾーン、軸の考え方

●拠点

拠点	位置	考え方
中心都市拠点	市役所周辺からJR木津駅周辺及び城山台地区センターゾーン	市役所周辺からJR木津駅周辺及び城山台地区センターゾーンを一体的な中心都市拠点と位置付け、行政、商業、医療・福祉等多様な都市機能が集積する拠点の形成を図り、木津川市のみならず南山城地域も含めた広域の中心核として、質の高い都市的サービスを提供する拠点の形成を図ります。
都市拠点	JR加茂駅周辺 JR棚倉駅周辺	交通結節点であるJR加茂駅周辺及びJR棚倉駅周辺を都市拠点として、住民のニーズに対応した商業・業務機能等の都市機能の集積を図ります。
地域拠点	近鉄山田川駅周辺 JR上狛駅周辺 梅美台地区近隣商業地域	近鉄山田川駅周辺や、JR上狛駅周辺、梅美台の近隣商業地域を地域拠点として位置付け、地域住民の日常生活に必要なサービスを提供する拠点の形成を図ります。
商業拠点	平城・相楽地区（京都府域）センターゾーン 州見台地区センターゾーン	近鉄高の原駅周辺の平城・相楽地区（京都府域）のセンターゾーンや州見台地区のセンターゾーンを商業拠点と位置付け、中心都市拠点との連携を図りながら、関西文化学術研究都市における都市活動を支える高次の商業機能の集積を図ります。
観光・レクリエーション拠点	史跡恭仁宮跡、史跡高麗寺跡、史跡椿井大塚山古墳等 当尾エリアの浄瑠璃寺、岩船寺、石仏群等 山城町森林公園、田護池周辺	史跡恭仁宮跡、史跡高麗寺跡、史跡椿井大塚山古墳等の歴史的・文化的遺産及び当尾エリアの浄瑠璃寺、岩船寺、石仏群等の歴史的・文化的遺産を「観光拠点」として位置付け、歴史的・文化的遺産を活かした観光ネットワークの形成と周辺環境の整備を図ります。 また、市民の憩いの場として木津川を利用した親水空間を創出するとともに、山城町森林公園及び田護池周辺を「レクリエーション拠点」として位置付けます。 山城町森林公園については、周辺環境の整備や魅力の向上を図り、田護池周辺については、市民の憩いの場としての整備を検討します。
にぎわい拠点	国道24号城陽井手木津川バイパスと国道163号の結節点	国道24号城陽井手木津川バイパスと国道163号の結節点については、市内外の人が利用できる多様な機能を有したにぎわい施設の整備に向けた検討を行います。

●ゾーン

ゾーン	位置	考え方
市街地ゾーン	市街化区域（関西文化学術研究都市を除く）	行政、商業、居住等様々な機能を有する市街地として位置付けるゾーン。都市拠点を中心に、利便性と質の高い市街地の形成を図ります。
学研市街地ゾーン	関西文化学術研究都市（学研木津東地区、学研木津北地区を除く）	居住、文化学術研究、商業、新たな産業などの機能を有する市街地として位置付けるゾーン。「学研都市建設計画」で位置付けられている各ゾーンの性格を明確にしつつ、特色ある市街地の形成を図ります。
学研市街地整備ゾーン	学研木津東地区	産業系の土地利用を中心とした土地活用を推進するゾーン。権利者の意向を踏まえながら、まちづくりを目指します。
学研里地里山共生ゾーン	学研木津北地区	既存の里地里山を保全するゾーン。まちの里地里山の景観・生物多様性の保全や地域づくり及び地域振興の資源として、里地里山環境の再生を推進します。
市街化検討ゾーン	JR木津駅東側の市街化調整区域及び城山台の一部 JR棚倉駅東側	JR木津駅と城山台との間に位置する地区及び城山台の一部では、計画的な市街地形成に向けた検討を進めます。 また、JR棚倉駅東側では、国道24号城陽井手木津川バイパスの整備及び主要地方道枚方山城線の同バイパスまでの延伸構想に併せて、周辺での都市的土地利用の検討を行います。
田園共生ゾーン	市街化調整区域の田畑と集落地	緑豊かな田園風景を大切にするゾーン。立地条件を活かした新たな技術による近郊農業の展開を図るとともに、歴史的・文化的遺産を調和した快適な生活環境づくりにより、田園環境と定住環境の充実を図ります。
森林共生ゾーン	山林、丘陵地	山林や丘陵地の緑のゾーン。自然環境を地域固有の貴重な緑の財産と捉え保全を図るほか、人と自然のふれあいの場としての活用を図ります。

●軸

軸	位置	考え方
広域交流軸	京奈和自動車道 国道24号 国道163号 国道24号城陽井手木津川バイパス 関西文化学術研究都市の各クラスターを連絡する道路	「総合計画」における交流軸のうち、主要幹線道路である京奈和自動車道、国道24号、163号及び国道24号城陽井手木津川バイパスを「広域交流軸」として位置付け、京都・大阪・奈良・三重方面をはじめとして、全国各地域と本市との連携の強化を図ります。 また、市域外の関西文化学術研究都市の各クラスターとの広域的連携や交流の推進による地域活力の創出を目指し、各クラスターを連絡する道路の整備促進を図ります。
拠点・市街地交流軸	○主要地方道 奈良加茂線 天理加茂木津線 八幡木津線 上狛城陽線 枚方山城線 ○一般府道 高田東鳴川線 ○市道 木335号 木892号 ○都市計画道路 山手幹線 木津駅前東線 奈良加茂線 東中央線 松谷線	広域交流軸を基軸としつつ、主要地方道奈良加茂線、天理加茂木津線、八幡木津線、上狛城陽線、枚方山城線（国道24号城陽井手木津川バイパスまでの延伸構想を含む）、一般府道高田東鳴川線、市道木335号、木892号、都市計画道路山手幹線、木津駅前東線、奈良加茂線、東中央線、松谷線を「拠点・市街地交流軸」として位置付け、各拠点及び市街地を結び地域の生活や歴史・文化に密着した交流を促進し、各拠点の結びつきを深めつつ、木津川市の一体性を高めます。
公共交通軸	JR奈良線 JR大和路線 JR片町線 JR関西本線 近鉄京都線 路線バス	鉄道及び路線バスを「公共交通軸」に位置付け、公共交通の利便性の向上を促進します。

(5) 人口フレーム

社会全体で人口減少社会に入りつつある中、木津川市は人口増加が続いており、令和2年9月末時点の人口は78,724人（住民基本台帳による人口）となっていますが、平成30年3月に公表された国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計によると、木津川市の人口は令和12（2030）年をピークに、その後は減少に転ずると推計されています。

「総合計画」においては、「人口ビジョン」の目標を基本とし、令和10（2028）年に80,000人を目指すこととしていることから、本計画においては、「総合計画」の将来目標人口の算出方法を踏襲し、令和12（2030）年における将来目標人口を80,000人とします。

将来目標人口	令和12（2030）年 80,000人
--------	------------------------

2. 都市計画の方針（分野別方針）

（1）土地利用の方針

1）基本的な考え方

都市計画の目標である「自然と文化を身近に 未来を拓く学研都市 木津川」の実現に向けて、将来都市構造を踏まえ、土地利用方針を定めます。豊かな自然環境、歴史的・文化的遺産と都市機能が調和した秩序ある土地利用の配置・誘導により、快適で利便性の高い都市の形成を図ります。

【地域特性に応じた安全で良好な居住機能の配置】

- ・安全で良好な居住環境の形成に向けて、市街地の成り立ちや立地等の特性に応じた多様な居住機能のきめ細かな配置を行います。

【関西文化学術研究都市における都市の魅力を高める土地利用】

- ・関西文化学術研究都市における中核都市として、文化学術研究機能、商業機能、居住機能など、地域全体の魅力を高めるための土地利用を行います。

【自然環境、歴史的・文化的遺産との調和に配慮した土地利用】

- ・木津川や山林、農地等の豊かな自然環境や遺跡、社寺等の歴史的・文化的遺産を保全するとともに、それらとの調和した都市的土地利用を配置します。

2）土地利用の方針

土地利用の基本的な枠組みとして、3つの区分を設定し、それぞれの区分の計11の地区について、土地利用の方針を整理します。

●土地利用の区分と地区

区 分	地 区
住居系	都市型住居地区、近郊都市型住居地区
商業・業務系	広域対応型地区、地域対応型地区、沿道サービス型地区、中心都市拠点地区、文化・学術研究地区、産業地区
自然系	田園共生地区、自然保全地区、学研里地里山共生地区

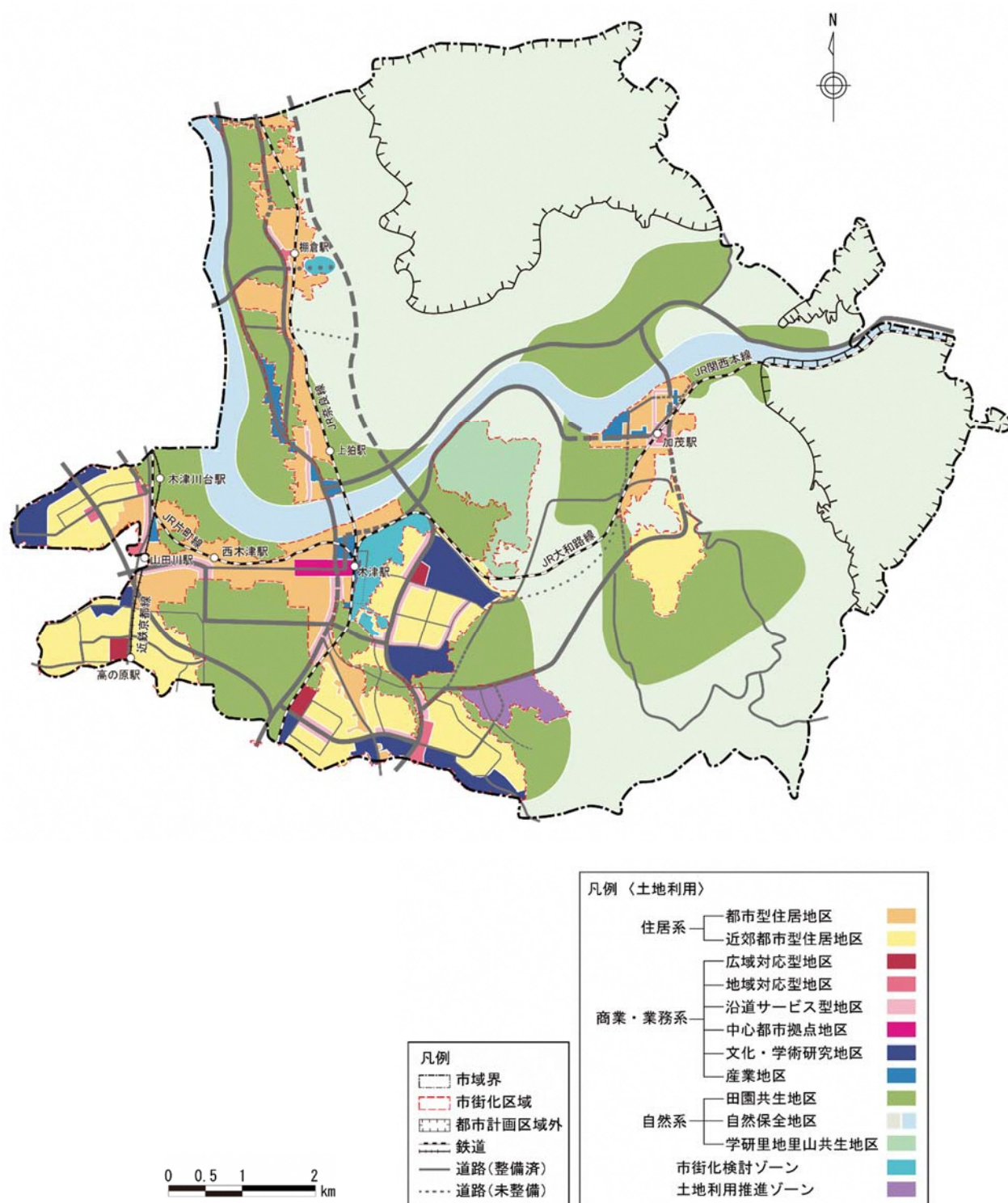
●土地利用方針

区分	地 区	土地利用の方針
住居系	都市型住居地区	・各都市拠点を含む旧来からの既成市街地で、駅周辺及び国道等の沿道に位置し、小規模な店舗や工場等を含む利便性の高い低層と中高層を中心とした市街地です。 ・一般住宅地では、周辺の田園共生地区や自然保全地区でのスプロール開発を抑制します。 ・既成市街地などの幅員4m未満の狭隘道路が分布する地区では、きめ細かな道路整備やオープンスペースの確保、空家等対策の推進などにより、戸建て住宅を中心とした良好な居住環境の形成を図ります。
	近郊都市型住居地区	・計画的に開発された地区であり、低層と中高層からなる住宅地です。 ・関西文化学術研究都市の開発地区である木津川台地区、兜台地区、相楽台地区、州見台地区、梅美台地区、城山台地区は、文化・学術・研究機能を備えた新都市の形成と良好な居住環境を有する住宅地として、ゆとりとうるおいのある良好な住環境の形成を図ります。 ・また、南加茂台地区は、入居開始から約40年経過していることから、良好な住環境の維持と向上を図るとともに、空家等対策の推進や住民参加による高齢化に対応したまちづくりを進める必要があります。
商業・業務系	広域対応型地区	・奈良市にまたがる近鉄高の原駅周辺は「平城・相楽地区」のセンターゾーンとして既に広域対応型の商業施設や医療施設が立地しており、周辺地区の土地利用との調和に配慮し、市域内外の方が利用する都市的にぎわいのある商業核の形成を図ります。 ・関西文化学術研究都市「木津地区」の州見台地区の西側及び城山台地区の中央に商業施設が立地しており、交通利便性を活かした広域複合商業地区の形成や生活利便機能、文化交流機能及び研究開発支援機能の集積する地区として形成を図ります。

地域対応型 地区	・JR加茂駅周辺、JR棚倉駅周辺及び上粕地区については、加茂地域、山城地域住民の日常生活の利便向上に供する商業、公共サービス機能等の維持・充実を図ります。 ・JR加茂駅周辺、JR棚倉駅周辺については、中心都市拠点を補完する都市拠点として都市機能の集積を図ります。 ・近鉄山田川駅周辺は、精華町とまたがる区域で、既に市域内外の住民の日常生活に必要な商業施設が立地しており、引き続き商業施設の集積地としての維持に努めます。 ・関西文化学術研究都市「木津地区」のサブセンターゾーンである梅美台地区の西側において、地域の日常生活を支援する商業施設が立地しており、機能の維持・充実を図ります。
沿道サービ ス型地区	・主要幹線道路沿道の一部地区については、車でのアクセスに対応した小・中規模の沿道型商業施設・公益施設等の立地を誘導し、幹線道路沿道のにぎわい軸を形成します。
中心都市拠 点地区	・本市の中心都市拠点と位置付けた、市役所周辺からJR木津駅周辺及び城山台地区センターゾーンにおいては、基盤整備を進めるとともに、商業・業務機能を中心に、公共機関や文化機能、福祉、保健・医療など様々な質の高い都市的サービスが提供される地区の形成を図ります。
文化・学術 研究地区	・「学研都市建設計画」に基づき、文化学術研究施設や研究開発型産業施設からなる研究開発、先端産業の拠点として学術研究機能の集積を図ります。
産業地区	・既存の工場が立地する地区については、公害の防止など周辺地区の土地利用との調和に配慮しつつ、工場生産環境の確保を図ります。

自然系	田園共生地区	・市街地の周辺に広がる農地については、都市近郊型農業の生産の場及び都市環境と都市防災の面での貴重なオープンスペースとして保全に努めるとともに、都市農園など多面的な農地の活用等を図ります。 ・集落については、農地や山林等との調和に配慮した良好な集落環境の保全を図ります。
	自然保全地区	・公園、ゴルフ場、歴史的・文化的遺産等を含む山林や木津川などの自然環境について、水源涵養や自然景観形成など本市の緑の骨格を担う地区として保全に努めるとともに、観光・レクリエーションの場としての活用を図ります。
	学研里地里山共生地区	・学研都市建設計画に基づき、既存の里地里山の景観・生物多様性の保全や地域づくり及び地域振興の資源として、里地里山環境の再生を進めます。
市街化検討ゾーン		・木津駅東側地区は、JR木津駅と城山台地区の間に位置し、城山台の一部とともに市街化による基盤整備を進めることで、城山台地区の整備との相乗効果により、中心都市拠点の機能の強化が期待できるため、市街地の形成に向けた協議を地域住民と進めます。 ・JR棚倉駅東側は、国道24号城陽井手木津川バイパスの整備及び主要地方道枚方山城線の同バイパスまでの延伸構想に併せて、周辺での都市的土地利用の検討を行います。
土地利用推進ゾーン		・関西文化学術研究都市の「木津地区」である木津東地区は、産業系の土地利用を中心とした土地活用に向けた検討が進められており、権利者の意向を踏まえながら、時代にあった、関西文化学術研究都市にふさわしいまちづくりの実現を目指します。

土地利用方針図



（２）交通施設・公共交通の方針

１）基本的な考え方

市街地の骨格を形成するとともに、市民生活や産業活動等に非常に重要な役割を果たす基盤施設である道路、鉄道、バス等の交通施設については、地球温暖化対策の推進や高齢社会等の成熟社会を迎える中であって、その整備の推進が強く求められており、都市環境との調和に配慮しつつ土地利用計画と整合した交通体系の形成を図ります。

【交通需要の増大に対応した幹線道路網の形成】

- ・今後予想される交通需要の増大や地域間の連携強化、災害時の道路ネットワークの強化に対応した広域的な自動車交通を担う幹線道路を整備するとともに、これらと有機的に結びついた骨格的な道路ネットワークの形成を図ります。

【安全で快適に通行できる骨格的な道路環境の形成】

- ・骨格的な道路ネットワークについては、十分な幅員、歩道の確保や緑化による道路景観形成など、自動車、自転車、歩行者が安全で快適に通行できる道路環境の実現を図ります。

【細街路の防災性、安全性の向上】

- ・生活道路については、市街地の安全性・快適性を高める観点から、地区の特性を踏まえた細街路の防災性、安全性向上を図ります。

【バリアフリーの道路空間の形成】

- ・すべての道路において、高齢者や障がい者を含むすべての人が安心して通行できる、人にやさしいバリアフリーの道路空間の形成を図ります。

【環境負荷が小さく利便性の高い公共交通ネットワークの形成】

- ・低炭素社会の実現に向けて重要な役割を果たすとともに、あらゆる人が気軽に利用できる交通手段として重要な役割を果たす鉄道・バス等の公共交通機関については、ネットワークの強化や安全性・利便性の向上、輸送力の強化などにより、一層の利用促進を図ります。

2) 交通施設整備の方針

① 道路の方針

(ア) 主要幹線道路

京都、奈良方面を結ぶ京奈和自動車道、国道24号や大阪、三重方面を結ぶ国道163号を主要幹線道路として位置付け、幅員拡充など交通安全対策の充実と渋滞の解消、維持管理の強化を促進します。

また、災害から住民の命を守る道路として、木津川右岸地域を南北に連絡する国道24号城陽井手木津川バイパスや、左岸地域を南北に連絡する都市計画道路山手幹線の早期開通を目指して整備を促進するとともに、主要地方道枚方山城線の国道24号城陽井手木津川バイパスまでの延伸を促進します。さらに、市域を東西に連絡する災害時等の代替道路としての整備に向けた検討を行います。

その他、主要地方道奈良加茂線及び天理加茂木津線については、奈良方面にアクセスする主要幹線道路として、道路拡幅、改良などの整備を促進します。また、主要地方道上狛城陽線の改良について整備を促進します。



[木津川橋]

<対象路線>

- ・京奈和自動車道整備促進
- ・国道24号歩道拡幅整備促進
- ・国道163号拡幅・改良整備促進
- ・国道24号城陽井手木津川バイパスの早期整備の促進
- ・主要地方道枚方山城線の延伸促進
- ・都市計画道路山手幹線の早期開通促進
- ・都市計画道路奈良加茂線整備促進
- ・主要地方道天理加茂木津線改良整備促進
- ・主要地方道上狛城陽線改良整備促進

(イ) 幹線道路

地域間を結ぶ骨格的な道路として十分な幅員、歩道の確保や緑化による道路景観形成など、自動車、歩行者が安全で快適に通行できる道路環境の整備促進を進めます。

さらに、市域内を循環する道路を整備するとともに、市庁舎の前面道路となる市道木335号木津山田川線について、市民が安全に市役所に来訪できるように、歩道拡

幅等の計画的な整備を目指します。

＜対象路線＞

- ・都市計画道路野田川線整備
- ・市道木335号木津山田川線改良整備推進
- ・都市計画道路木津東西線整備推進
- ・都市計画道路下梅谷鹿背山線整備事業の検討

(ウ) 補助幹線道路

計画的に開発された地区及び開発される地区における主な地区内道路や既成市街地、既存集落内の交通を支える道路を補助幹線道路として位置付けます。特に歩行者の安全性に配慮した道路環境の形成を図ります。

＜対象路線＞

- ・市道木27号木津中ノ川線道路改良事業
- ・木津高校アクセス道路整備事業
- ・その他計画的に開発された地区における主な地区内道路、既成市街地、既存集落内の交通を支える道路

(エ) 生活道路

市街地内や集落内の道路については、生活道路として位置付け、周辺環境との調和に配慮しつつ段差解消などのバリアフリー化を進めるなど安全性を高めた道路環境の整備を進めます。特に、既成市街地の幅員がおおむね4m未満の道路については、防災上、安全上の観点から緊急車輛の通行や避難路の確保のための狭隘道路の改良など地区の特性を踏まえた道路整備を推進します。道路の維持管理にあたっては、日常のパトロールを強化するとともに、市民との連携による安心・安全で快適な道路づくりを進めます。

＜対象路線＞

- ・市道山6号地獄谷線道路改良整備推進

【参考 都市計画決定道路一覧】

(令和2年3月現在)

名 称		延長	幅員
番 号	名 称	(m)	(m)
1・4・1	田辺奈良線	3,950	22.0
1・4・2	大和北道路	30	20.5
自動車専用道路 小計		3,980	
3・1・17	東中央線	7,160	40.0
3・2・19	木津駅前線	110	23.0
3・2・20	四ツ池幹線	1,890	30.0
3・2・21	永谷幹線	240	30.0
3・2・47	木津駅前東線	640	25.0

3・3・2	東西幹線2号線	1,760	22.0
3・3・3	平城3号線	1,050	22.0
3・3・7	国道163号線	890	25.0
3・3・22	山手幹線	570	25.0
3・4・4	上中高の原停車場線	780	16.0
3・4・5	近鉄西線	1,940	16.0
3・4・6	東西幹線1号線	2,230	16.0
3・4・8	新国道163号線	2,480	16.0
3・4・9	国道24号線	3,520	16.0
3・4・10	相楽山平城線	540	16.0
3・4・12	木津平城線	880	16.0
3・4・14	加茂駅前線	1,380	16.0
3・4・15	奈良加茂線	4,040	12.0
3・4・16	船屋京内線	2,690	12.0
3・4・28	公園通り線	1,450	17.0
3・4・29	天神山線	810	16.0
3・4・30	松谷線	280	25.0
3・4・31	大井手川線	1,420	12.0
3・4・32	大池線	1,110	17.0
3・4・33	木津東西線	1,860	25.0
3・4・34	梅谷線	2,160	16.0
3・4・35	木津南北線	1,300	16.0
3・4・36	市坂循環線	2,090	16.0
3・4・42	加茂駅東線	120	20.0
3・4・43	精華山城線	860	16.5
3・4・44	野田川線	570	16.0・28.8
3・4・45	棚倉駅西口通線	120	16.0
3・4・46	上狛城陽線	4,390	16.0
3・4・48	木津駅北線	300	17.0
3・5・13	木津加茂線	1,190	12.0
3・5・37	奈良加茂線	1,740	14.0
3・5・101	船屋北線	350	12.0
3・5・102	下梅谷鹿背山線	1,490	12.0
3・5・103	木津中ノ川線	1,040	12.0
3・5・105	木津中央1号線	750	12.0
3・6・49	城陽井手木津川線	5,150	11.5
幹線街路 小計		65,340	
7・8・201	木津川台通り1号線	610	10.0
区画街路 小計		610	
8・5・205	椎の木の道	510	15.0
8・6・201	赤松の道	640	8.0
8・6・202	ニセアカシアの道	1,300	8.0
8・6・203	エゴノキの道	900	6.0
8・6・204	山桃の道	530	8.0
8・6・207	木津川台通り2号線	150	10.5
8・6・208	木津川台通り3号線	210	10.0
8・6・209	木津川台通り4号線	580	10.0
8・6・213	木津中央歩行者専用道路	820	10.0
8・7・210	木津川台通り5号線	180	6.5
8・7・211	木津川台通り6号線	210	4.0
8・7・212	木津川台通り7号線	40	4.0
8・7・206	山桜の道	1,570	6.0
8・7・401	加茂駅東西連絡通路	90	6.0
8・7・501	棚倉駅東西連絡線	80	4.0
特殊街路 小計		7,810	
合計		77,740	

② 公共交通の方針

(ア) 鉄道路線

通勤・通学、観光客の利便性の向上や関西文化学術研究都市の整備進捗に伴う利用者の増加等に対応するため、鉄道の輸送力増強を目指します。

京阪奈新線の木津川市域のルートについては、周辺市町との関係も含めて関西文化学術研究都市の交通ネットワーク形成の観点からそのあり方を検討します。

<主な取り組み>

- ・JR奈良線、片町線、関西本線の複線化
- ・JR、近鉄の便数増加など輸送力増強
- ・京阪奈新線の延伸の実現化要望

(イ) 鉄道駅

鉄道施設のターミナル機能の強化を図るため、駅舎の改築やバリアフリー化の促進、アクセス道路の改善を推進します。

<主な取り組み>

- ・老朽駅舎の改築やバリアフリー化の促進要望
- ・近鉄木津川台駅へのアクセス道路整備推進及び駅前広場の整備に向けた方針の検討



[JR 木津駅西口]

(ウ) バス

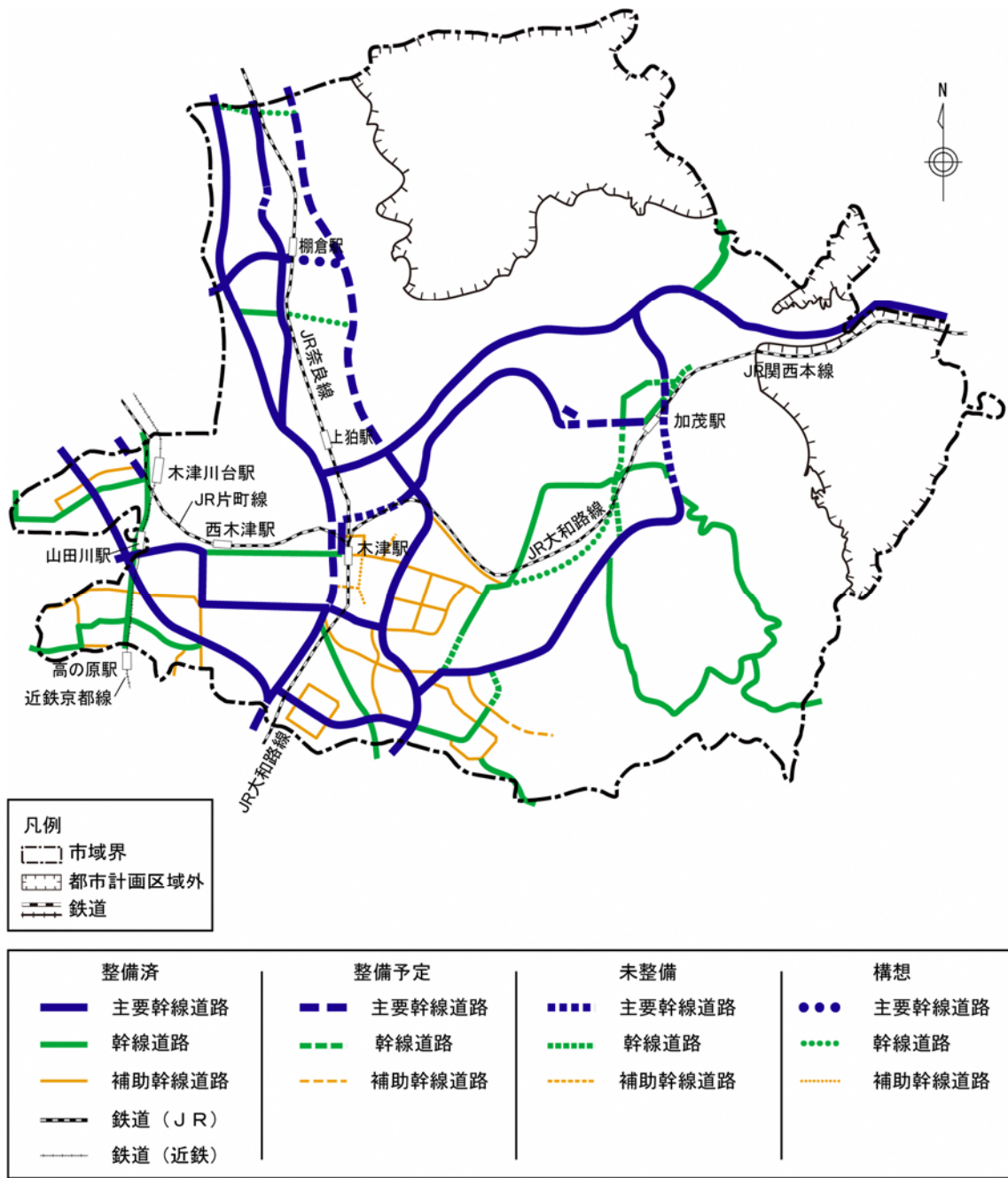
「第2次木津川市地域公共交通網形成計画」に基づき、人口増加や住民ニーズ、鉄道との連携に留意しながら、住宅地、集落、関西文化学術研究都市、公共施設、商業施設など相互の連絡に配慮したネットワークの充実や、ダイヤ改正によるスムーズな乗り継ぎ環境の実現に努めます。あわせて、ホームページなどの多くの媒体を活用した情報提供の充実や、バスの利用体験の場の提供などの利用機会の創出などを通じて、持続可能な運行を目指します。

さらに、高齢者や障がい者が利用しやすいバスとするため、低床バスなどのバリアフリーに対応した車両の導入を促進します。

<主な取り組み>

- ・路線バス、コミュニティバス等の運行の維持と利便性の向上
- ・「第2次木津川市公共交通網形成計画」の施策の実行

交通施設・公共交通の方針図



（３）都市・自然環境及び歴史的・文化的遺産の方針

１）基本的な考え方

木津川や山林をはじめとする豊かな自然や自然と調和した歴史的・文化的遺産は、本市の特徴を示すとともにまちの魅力を高める重要な要素であることから、これらの保全・活用を図りつつ、市街地においても緑とうるおいのある快適な都市環境の形成を図ります。

【緑とうるおいのある公園・緑地の整備】

- ・地域性や利用目的に応じた公園・緑地の整備を進めるとともに、既存公園などを活かしながら、身近な緑を確保します。

【山々の緑や農地の面的な緑の保全・活用】

- ・まとまりのある森林や里山を「緑の骨格」として捉え、多様な生物の生息の場や自然災害の防止、自然景観の形成などの観点から、保全・活用を図ります。
- ・農地やため池などについても、農作物の生産の場のほか、環境保全や防災、景観形成、都市におけるオープンスペースとして、保全・活用を図ります。

【都市施設の緑化推進】

- ・道路や公共施設等において、積極的に緑化を推進します。

【河川の水辺環境の保全・活用と水質保全】

- ・木津川については「水辺の骨格」として捉え、周辺を結びつけた水と緑のネットワークを形成するとともに、市民が身近に自然に触れられる親水空間の確保を図ります。

【環境負荷を低減する生活環境づくり】

- ・都市と自然が調和した持続可能なまちづくりに向けて、ごみ処理、省エネルギー、リサイクルなどの面から環境負荷を低減する生活環境づくりを図ります。また、水洗化を促進し、公共用水域の水質保全を図ります。

【自然と歴史的・文化的遺産の保全・活用】

- ・豊かな自然と調和した史跡・遺跡・社寺、伝統的まち並み・集落などを木津川市の魅力を高める重要な要素として保全するとともに、観光や憩いの空間としての活用を図ります。

2) 都市・自然環境及び歴史的・文化的遺産の方針

① 公園・緑地の方針

公園・緑地については、それぞれの地域固有の歴史や立地環境、地域性や期待される機能・役割に応じた整備を継続的に進めることに加え、地域性に対応した緑の拠点としての整備も進めます。

既存の公園に関しては、周囲の自然環境や生活環境に配慮した維持管理を行うとともに、防災性の向上やバリアフリー化など利用者のニーズに対応した施設の充実を図ります。また、維持管理にあたり、自主管理活動交付金制度により、市民参加による維持管理活動を進めています。

市街地においても、新市街地や緑化向上が望まれる地区については、生垣等の緑化を推進するための緑化協定や地区計画の指定を検討します。

また、地域住民が守り続けてきた身近な憩いの場である社寺林等の緑地についても、所有者など関係者の協力を得ながら適切な維持管理を進めます。

<主な取り組み>

- ・既存の公園の維持管理と機能向上
- ・不動川公園を広域的防災拠点として整備検討
- ・緑化協定、地区計画指定の検討
- ・社寺林等の維持管理
- ・市民自主管理事業

【参考 都市計画公園一覧】

(令和2年3月現在)

	名 称	DID			市街化区域			市街化調整区域		
		面積 m ²			面積 m ²			面積 m ²		
		街区公園	近隣公園	地区公園	街区公園	近隣公園	地区公園	街区公園	近隣公園	地区公園
1	清水公園	2,966.55								
2	瓦谷公園	1,507.15								
3	市坂公園				4,100.00					
4	下川原公園	973.19								
5	木津駅前地区1号公園	1,551.00								
6	木津川台1号公園	5,199.38								
7	木津川台2号公園	1,883.20								
8	木津川台3号公園	3,053.36								
9	木津川台4号公園	2,391.65								
10	木津川台5号公園	1,922.77								
11	木津川台6号公園	4,499.06								
12	木津川台7号公園	1,964.02								
13	木津川台8号公園	2,086.13								
14	木津川台9号公園	2,922.69								
15	木津川台10号公園	1,061.92								
16	木津川台11号公園	2,414.69								

	名 称	DID			市街化区域			市街化調整区域		
		面積 m ²			面積 m ²			面積 m ²		
		街区公園	近隣公園	地区公園	街区公園	近隣公園	地区公園	街区公園	近隣公園	地区公園
17	木津川台公園						40,005.38			
18	兜台1号公園	2,500.95								
19	兜台2号公園	2,500.49								
20	兜台3号公園	2,600.45								
21	兜谷公園			40,000.05						
22	相楽台1号公園				2,500.44					
23	相楽台2号公園				2,500.69					
24	相楽台3号公園	2,700.10								
25	大里公園					21,867.86				
26	音浄ヶ谷公園					11,310.44				
27	土師山公園					21,168.65				
28	梅美台公園					34,500.00				
29	州見台公園					20,805.63				
30	上人ヶ平遺跡公園					22,495.16				
31	加茂公園								13,866.84	
32	塚穴公園		21,492.44							
33	大谷公園	2,420.76								
34	広芝公園	2,520.76								
35	野上公園	1,217.71								
36	熊谷公園	4,101.36								
37	西櫛公園	2,717.03								
38	東山公園	1,242.00								
39	四ツ岩公園	5,195.00								
40	中門伝公園				2,299.15					
41	渦公園				1,700.60					
42	唐岩公園				1,698.56					
43	不動川公園									43,802.57
44	城址公園						86,527.00			
45	城山台公園					20,083.00				
	面積合計	66,113.37	21,492.44	40,000.05	14,799.44	152,230.74	126,532.38	0.00	13,866.84	43,802.57
	ha	6.61	2.15	4.00	1.48	15.22	12.65	0.00	1.39	4.38

D I D：人口集中地区をいう。

② 山林・里山等の自然環境及び農地の方針

本市を取り巻く豊かな山林は、水源涵養や景観形成、多様な生物の生息の場、レクリエーション、土砂災害の防止など多面的な機能を持つ重要な緑であることから、適切な維持管理や法的規制により基幹的な緑の骨格として保全します。

農地については、農作物の生産の場であり、災害時における食糧の自給に資することが期待できるとともに都市における緑のオープンスペースであることから、今後も維持・保全を図ります。特に優良農地については、農業振興施策による面的な保全を図ります。今後は特に付加価値の高いブランド農作物の生産に重点をおいた農業生産の環境づくりや農産物を活用した地域活性化に向けた検討を行います。また、休耕地において、民設による市民農園・体験農園としての活用を図るなど、農地の多面的な展開による保全・活用に努めます。



〔山城の眺望〕



〔市坂〕

＜主な取り組み＞

- ・自然環境の緑の骨格としての保全
- ・里山保全対策の検討
- ・農業振興施策による農地の保全
- ・ほ場整備事業の推進
- ・ブランド農作物生産の環境づくり
- ・農産物を活かした地域活性化方策の検討
- ・生産緑地制度の活用
- ・民設による市民農園の開設の支援

③ 都市施設等の緑化の方針

道路、公園などの都市施設における緑化を推進し、すでに緑化が施されている道路等については、適切な維持管理により緑を保全することで、水と緑のネットワークの形成を図ります。

市の玄関口のシンボリックな道路である市道木335号木津山田川線沿いに緑地空間を確保し、そのシンボリック性を高めます。

また、庁舎やコミュニティ施設などの公共施設においても、積極的な緑化を進め、地域の緑とうるおいのあるまちづくりを進めます。

＜主な取り組み＞

- ・道路、公園などにおける緑化推進
- ・シンボリックな道路沿道における緑地の確保
- ・庁舎、コミュニティ施設などにおける緑化推進

④ 河川、ため池の方針

市のシンボルである木津川については、水運を利用してきた歴史を持ち、現在も淡水魚類や昆虫類などの生物生息の場、自然景観の形成、水害防止など様々な重要な役割を果たしています。この河川環境を木津川市の自然の豊かさを象徴する地域のかげがえのない財産として保全を図ります。併せて水運の歴史と自然環境に配慮した河川公園としての活用を検討します。中小河川や水路については、治水上の安全性確保のための河川改修に加え、周辺環境との調和や親水性に配慮した遊歩道・サイクリングロードとしての活用や親水空間の創出に努め、市民に親しまれる河川空間の形成を図ります。

点在するため池については、農業用水として保全しつつ、一部のため池については、周辺を公園化するなど親水空間として活用を進めます。また、地震や大雨によるため池の決壊を防止するため、ため池管理者に対して適正管理の指導を行うとともに、ハザードマップを用いて、危険箇所等の周知を行います。



〔木津川〕



〔井関川〕

＜主な取り組み＞

- ・水辺の骨格である木津川の保全と親水空間としての活用
- ・鹿川堤を利用したサイクリングロードとしての活用
- ・井関川における親水空間の活用
- ・田護池周辺での憩いの場の整備検討

⑤ 生活環境の方針

持続可能な循環型社会の形成に向けて、環境負荷の低減などの視点に基づき、生活環境の確保・充実に関する取り組みを進めます。

平成30年9月からごみ焼却施設“環境の森センター・きづがわ”が本格稼働しており、最新技術の採用により温室効果ガス排出量削減に寄与しています。これまでに引き続き市民と行政が協働して、ごみの発生抑制・減量・再資源化に取り組むことで、より一層の環境負荷の低減に取り組んでいきます。

また、太陽光・太陽熱利用などの新エネルギー導入や雨水の再利用など、環境負荷の少ない技術をまちづくりに導入します。

市民の快適な生活環境の実現や公共用水域の水質保全を図るため、「京都府水洗化総合計画」に基づき、全市域の水洗化を推進します。

身近な生活環境の向上のための適切な対応が、地球規模の環境問題の解決、環境保全に大きく寄与することから、環境に関する様々な情報提供・啓発はもとより、市民と行政の協働による取り組みなどを進めます。

＜主な取り組み＞

- ・ごみの分別・減量・再資源化の推進
- ・まちづくりにおける新エネルギー、雨水の再利用システムなどの導入
- ・「京都府水洗化総合計画」に基づく全市域における水洗化の推進
- ・「京都府水洗化総合計画」に基づく公共下水道事業計画の見直し
- ・環境問題に関する情報提供、意識啓発

⑥ 歴史的・文化的遺産の方針

史跡恭仁宮跡、史跡高麗寺跡、史跡椿井大塚山古墳などの歴史的・文化的遺産の保全を図るとともに、それらを活かした周辺環境の整備を進めます。

豊かな自然や点在する遺跡、社寺、石仏などのほか、近代遺産として関心の高い旧大仏線跡などを含め、様々な歴史的・文化的遺産などの地域資源を結ぶ観光ネットワークの形成を図るとともに、地域資源を結ぶルートとなる道路については、案内板の設置や歩道の整備などにより快適な歩行空間の形成を図ります。



〔大仏鉄道遺構（赤橋）〕



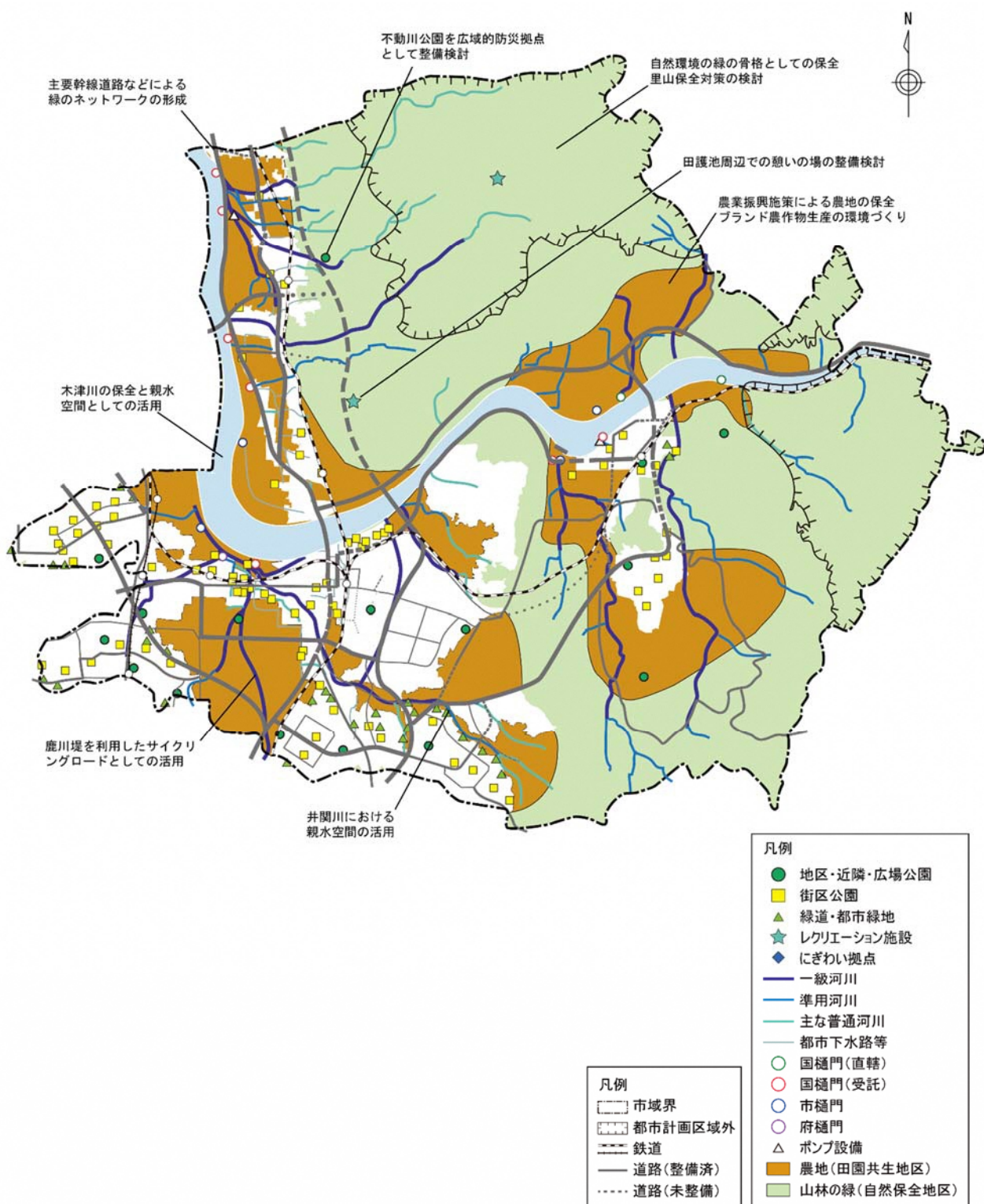
〔史跡高麗寺跡〕

＜主な取り組み＞

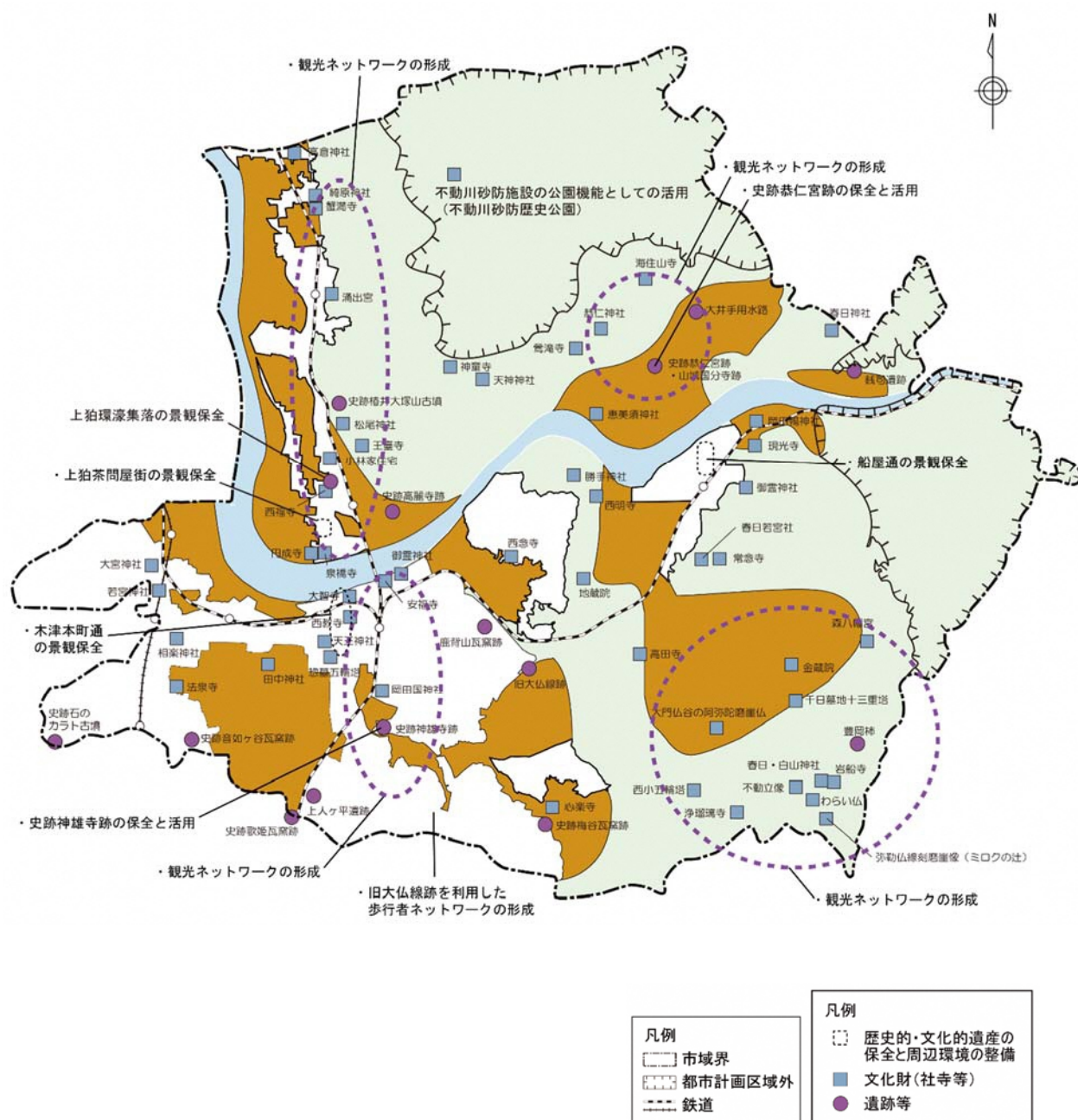
- ・史跡恭仁宮跡の保全と活用
- ・史跡高麗寺跡の整備と活用
- ・歴史的・文化的遺産の保全と周辺環境の整備
- ・自然環境や社寺等の歴史的・文化的遺産を活かした観光ネットワークの形成
- ・観光ネットワークの散策路の形成と案内板の設置、歩道の整備等
- ・史跡神雄寺跡の保全と活用

- 史跡奈良山瓦窯跡の活用
- 不動川砂防施設の学習の場としての活用
- 旧大仏線跡を広域的な歩行者ネットワークとしての形成を図り、観光資源として活用
- 上狛環濠集落、上狛茶問屋街、木津本町通、船屋通などの伝統的まち並みの景観保全

都市・自然環境及び歴史的資源の方針図（公園及び河川）



都市・自然環境及び歴史的資源の方針図（歴史的・文化的遺産）



（４）市街地及び集落の方針

１）基本的な考え方

長い歴史の中で商業、業務、居住等の様々な機能が集積し、文化、伝統を育み、にぎわいを形成してきた市の顔ともいえる都市拠点や、周辺住民の日常生活を支える地域拠点においては、それぞれの役割に応じた都市機能が集積する拠点として利便性の向上を図ります。

拠点の周辺に広がる市街地及び集落については、地域特性に応じた都市基盤整備等により、市街地及び集落環境の安全性、快適性の向上を図ります。

関西文化学術研究都市地区においては、計画的に整備・開発を進めるとともに、整備済み区域では、適切な管理による良好な市街地環境の維持を図ります。

【中心都市拠点と都市拠点の整備】

- ・ JR木津駅周辺を木津川市のみならず南山城地域も含めた広域の中心核として位置付け、質の高い都市的サービスを提供する中心都市拠点の形成を図ります。
- ・ JR加茂駅周辺とJR棚倉駅周辺を、中心都市拠点を補完する都市拠点として位置付け、地域住民のニーズに対応した都市機能の集積を図ります。

【地域拠点の整備】

- ・ 近鉄山田川駅周辺、JR上狛駅周辺及び梅美台の近隣商業地域を地域拠点に位置付け、周辺住民の日常生活サービス機能の維持・充実を図ります。

【21世紀の新たな時代にふさわしい新たな市街地の整備】

- ・ 関西文化学術研究都市地区については、計画的な整備・開発により、高度な文化・学術・研究を支える都市基盤を整備するとともに、周辺地区や地区内の各機能との調和のとれた土地利用を推進し、21世紀にふさわしい優れた都市環境や居住環境の維持・形成を図ります。

【地域の性格に応じた既成市街地の整備】

- ・ 既成市街地については、商業・業務、居住など地域の性格に応じた基盤整備などによる環境づくりを推進します。特に、建物が密集している地域において、防災性向上に向けた整備を進めます。

【農山村集落の環境づくり】

- ・農山村集落については、居住の維持を基本とし、生活基盤整備による農山村環境の向上を図ります。

【都市基盤の整備に併せた地域活性化の推進】

- ・住民の命を守る道路として位置付ける国道24号城陽井手木津川バイパスの整備の機会を活用し、沿道地域の活性化を図ります。

2) 市街地及び集落の方針

① 中心都市拠点の整備推進

木津川市の行政機能の中核となる市役所周辺の都市基盤整備を推進するとともに、市役所周辺からJR木津駅周辺及び城山台地区センターゾーン一帯において行政・医療・福祉機能、商業・業務機能、住居機能などの複合的な都市機能の集積を図ります。

＜主な取り組み＞

- ・市道木335号木津山田川線改良整備推進
- ・木津駅前地区計画による良好な市街地環境の維持

② 都市拠点の都市機能の充実

加茂地域と山城地域の都市拠点であるJR加茂駅及びJR棚倉駅の周辺は、土地区画整理事業による都市基盤整備が完了しており、大災害時には中心都市拠点の代替機能が期待できるため、地域住民のニーズに対応した商業、業務機能等の都市機能の集積を図ります。

JR棚倉駅東側については、国道24号城陽井手木津川バイパスの整備及び主要地方道枚方山城線の同バイパスまでの延伸構想に併せて、都市的土地利用の検討を行います。

＜主な取り組み＞

- ・地区計画による商業・業務機能等の集積
- ・JR棚倉駅東側の都市的土地利用の検討

③ 地域拠点の都市機能の充実

交通結節点である近鉄山田川駅及びJR上狛駅の周辺や、梅美台の近隣商業地域は、地域住民の日常生活に必要な都市機能の立地や既存の都市機能の維持を図ります。

④ 木津駅東側地区の市街地形成に向けた検討

JR木津駅と城山台地区を結ぶ骨格道路となる木津駅前東線の沿道一帯を新旧市街地を結節する重要な地域に位置付け、田園環境との調和を図りつつ、計画的な市街地形成に向けた検討を進めます。

＜主な取り組み＞

- ・ 木津駅東側地区の計画的な市街地形成に向けた検討
- ・ 農業振興地域整備計画に基づく農振農用地の見直しに向けた検討

⑤ 関西文化学術研究都市の整備

関西文化学術研究都市である木津東地区については、都市的土地利用の実現に向けて、組合施行による土地区画整理事業の実施を目指します。

また、木津北地区については、里山環境の再生を図りつつ、地域づくり及び地域振興の資源としての活用を進めます。

兜台地区、相楽台地区、木津川台地区、州見台地区、梅美台地区及び城山台地区については、適切な維持管理を進め、市街地の熟成を図っていきます。

＜主な取り組み＞

- ・ 木津東地区における組合施行による土地区画整理事業の支援
- ・ 木津北地区における里地里山の維持再生の推進
- ・ 兜台地区、相楽台地区、木津川台地区、州見台地区、梅美台地区及び城山台地区における適切な維持管理の実施

⑥ 既成市街地の方針

既成市街地については、幹線道路、生活道路、公園・緑地、下水道（雨水）など都市施設の整備と適切な維持管理を進め、市街地の都市基盤を整えます。

また、安全・快適で利便性の高い市街地の実現を目指し、道路ネットワークの整備やオープンスペースの確保、適正な建築物の立地誘導等を推進します。

住宅地においては、緑と調和した落ち着いたまち並み形成など地域の個性を活かした住環境の保全・充実に努めます。

土地区画整理事業が完了した地区においては、道路や公園などの都市施設の適切な維持管理に努めます。

＜主な取り組み＞

- ・道路等の基盤整備の推進
- ・住宅地における落ち着いたまち並み形成
- ・土地区画整理事業完了地区における都市施設の適切な維持管理
- ・空家等の適切な管理及び利活用の促進

⑦ 集落地区の整備

市街化調整区域及び都市計画区域外における集落については、限界集落の防止や防災性の向上の観点から道路等の生活基盤整備等を行いつつ、農業振興地域整備計画に基づき、周辺環境との調和に配慮した農村景観の保全を図りつつ、持続可能な集落環境づくりを検討します。

＜主な取り組み＞

- ・生活道路等の整備
- ・農山村集落の景観形成の推進
- ・空家等の適切な管理及び利活用の促進
- ・市街化調整区域における地区計画の検討

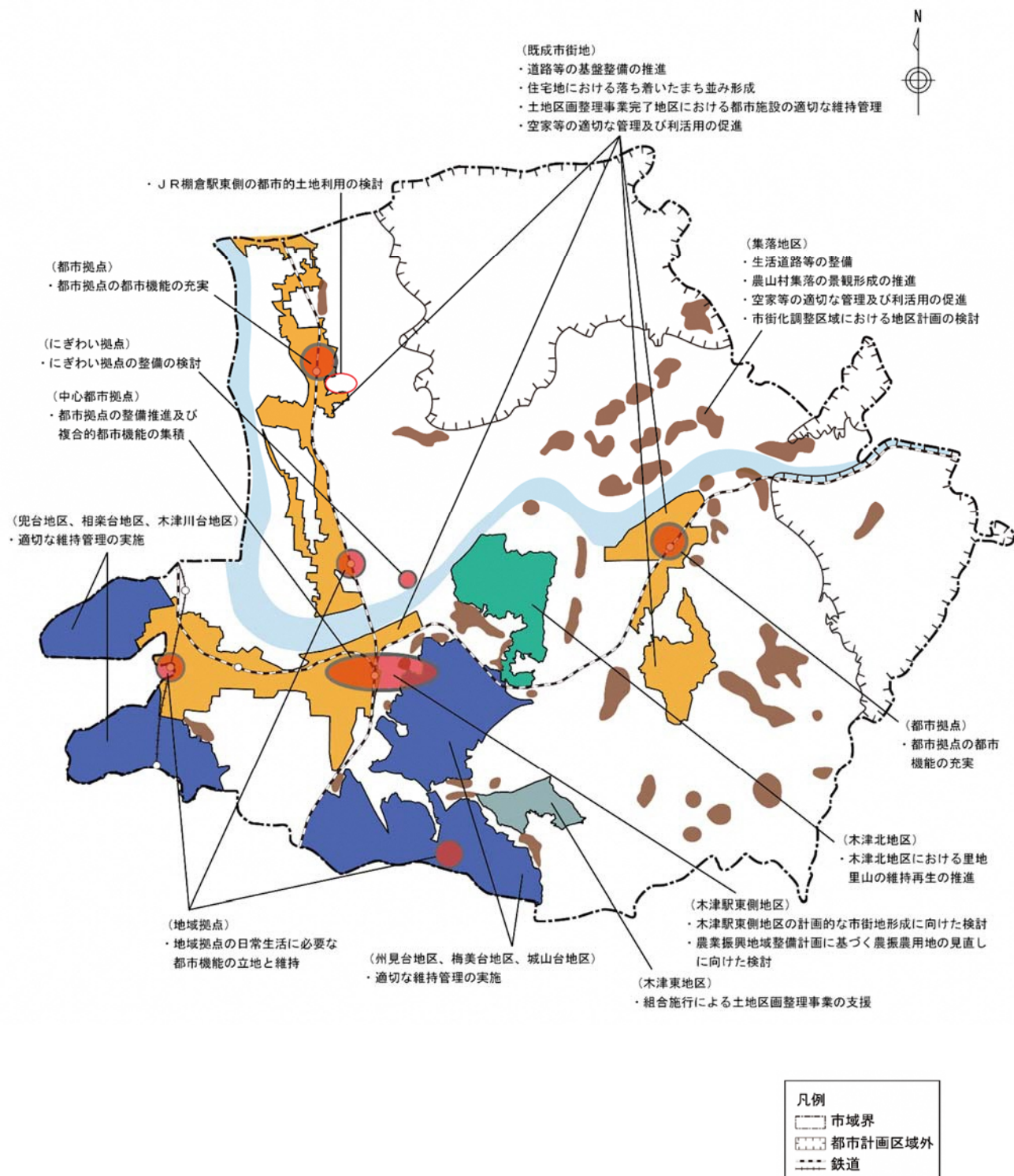
⑧ 国道24号城陽井手木津川バイパスの整備に併せた地域活性化の推進

国道24号城陽井手木津川バイパスの整備の機会を活用し、沿道地域の活性化を図るため、主要地方道枚方山城線の同バイパスまでの延伸構想に併せたJR棚倉駅東側の都市的土地利用の検討や、市内外の人が利用できる多様な機能を有したにぎわい施設の整備に向けた検討を行います。

＜主な取り組み＞

- ・JR棚倉駅東側の都市的土地利用の検討
- ・国道163号との結節点でのにぎわい拠点の整備の検討

市街地及び集落の方針図



（５）都市景観形成の方針

１）基本的な考え方

都市における景観は、さまざまな都市活動の場を演出し、まちや地域への愛着を育む重要な要素であり、人々の意識の中でも質の高い景観形成への期待が高まっています。

木津川市には、木津川の流れや山林、農地、歴史的・文化的遺産、伝統的まち並みなど本市固有の自然・歴史的景観や関西文化学術研究都市の開発による都市景観といった景観資源を保有しています。これらの景観資源については、これまでの法制度の活用に加えて、景観法（平成１６年６月 法律第１１０号）や京都府景観条例（平成１９年３月 京都府条例第１５号）、「関西文化学術研究都市（京都府域）における景観の形成に関する計画」（以下、「学研景観計画」という。）の適切な運用を図り、新都市にふさわしい優れた景観を持つ都市景観の形成を目指します。

【緑の骨格となる自然景観の形成】

- ・木津川や山林の緑は本市の水辺・緑の骨格となるとともに、自然景観を構成する重要な要素として保全を図ります。農地についても緑の景観を形成するオープンスペースとして保全を図ります。

【歴史的景観の形成】

- ・遺跡、社寺等の歴史的・文化的遺産について、周囲の自然環境と一体となった歴史的景観として保全を図ります。旧街道や集落などの伝統的まち並みについても保全を図ります。

【地区の特性に応じた市街地景観の形成】

- ・市街地においては、にぎわいやゆとりとうるおいなど各地区の特性に応じながら、魅力的な市街地景観の形成を図ります。関西文化学術研究都市地区については、学研景観計画との整合を図りながら、周辺の自然環境との調和に配慮しつつ、質の高い都市景観の形成を図ります。

２）都市景観形成の方針

① 自然景観の形成

木津川市の周囲を取り巻く山々や木津川は市街地からの眺望景観の一要素であるとともに、基幹的な緑の骨格軸であることから適切な維持管理や法的規制により保全を図ります。

＜主な取り組み＞

- ・里山の維持管理の実施
- ・木津川の水辺環境の保全

② 田園景観の形成

農作物の生産の場であるだけでなく、緑の景観を形成するオープンスペースでもある農地について、保全に努めるとともに、集落や周辺部の緑地も含めて田園景観と一体的な保全を図ります。また柿畑や日本茶のふるさと「宇治茶生産の景観」の景観計画区域である茶畑など個性的な農地景観についても保全を図ります。



〔加茂町山田〕

＜主な取り組み＞

- ・農業振興施策を活用した田園景観の保全
- ・生産緑地制度のオープンスペースを活用した田園景観の保全

③ 歴史的景観の形成

浄瑠璃寺から岩船寺一帯の当尾南部エリアや瓶原エリアの海住山寺、神童寺のある神童子など山間部における歴史的・文化的遺産について、周囲の緑と一体となった良好な歴史的景観の保全を図ります。また、かつての都である史跡恭仁宮跡や史跡椿井大塚山古墳等については、周囲の緑と一体となった歴史的・文化的遺産としての保全と活用を図りつつ、歴史的景観の形成を図ります。他の社寺などについても、周囲の緑とあわせた保全を図ります。上粕環濠集落や日本茶のふるさと「宇治茶生産の景観」の文化的景観である上粕茶問屋街、旧街道の伝統的なまち並みについて、かつての営みを今に伝える貴重な文化資源として地域住民と協働して保全を図ります。



〔木津本町通〕

＜主な取り組み＞

- ・史跡等の公有化・整備
- ・歴史的・文化的遺産と周辺環境の一体的な保全
- ・上粕環濠集落、上粕茶問屋街、木津本町通、船屋通の伝統的なまち並みの地域住民との協働による保全

④ 道路景観の形成

道路については、整備と併せた沿道緑化と、公共空間における施設構造物のデザイン化を図るほか、沿道建築物のセットバックした部分の活用など市民との連携を図りながら市街地における魅力ある良好な沿道景観の形成を図ります。

<主な取り組み>

- ・沿道緑化の推進
- ・施設構造物のデザイン化の推進
- ・市民との連携による沿道景観づくり
- ・学研景観計画による道路景観の形成

⑤ 公共施設の景観形成

市庁舎、支所をはじめとする各公共公益施設では、建築物及び外構等の緑化等により、本市の都市景観のモデルとなる修景を進めます。

<主な取り組み>

- ・公共施設の外構緑化



[木津川市本庁舎]

⑥ 既成市街地の景観形成

住宅地については、地区計画制度等を活用しつつ、地区の特性を活かしながら落ち着いた住環境の形成に向けた景観づくりを進めます。

商業・業務地については、活発な商業・サービス業等の活動空間として商業振興施策と連動しながら、にぎわいのある景観形成を推進します。

工業地については、周辺環境との調和に配慮することを基本とし、事業者との連携を図りつつ公害防止に努め、また、敷地内緑化等による環境形成を図りながら地域になじんだ景観形成を誘導します。

<主な取り組み>

- ・地区計画制度による建築物、屋外広告物等の規制・誘導
- ・商業地におけるにぎわいの感じられる景観形成
- ・工場の事業者との連携による緑化推進

⑦ 関西文化学術研究都市の景観形成

関西文化学術研究都市地区においては、学研景観計画や地区計画に基づく建築物等の規制・誘導や道路沿道景観の誘導等を図り、オープンスペースの確保、緑化推進など21世紀における新しい都市として、魅力ある都市景観の形成を進め、周辺の自然環境との調和を図りながらゆとりと潤いのある市街地景観の形成を進めます。



[オムロン株式会社
京阪奈イノベーションセンタ]

＜主な取り組み＞

- ・学研景観計画との連携による質の高い市街地景観づくり
- ・地区計画制度による建築物等の規制・誘導

⑧ 屋外広告物の規制・誘導

市街地景観に大きな影響を与える屋外広告物については、周囲の景観との調和を図るための規制・誘導を図ります。

＜主な取り組み＞

- ・京都府屋外広告物条例（昭和28年4月 京都府条例第30号）、木津川市屋外広告物施行規則（平成19年3月 木津川市規則第113号）による規制・誘導

（６）都市防災の方針

１）基本的な考え方

水害、地震、火事などの災害から市民の生命と財産を守り、安全・安心な暮らしが営めるよう、木津川市国土強靱化地域計画（令和２年３月）に基づく各種施策を推進し、あらゆる角度から災害に強いまちづくりを進めます。

【治水・治山対策の推進】

- ・木津川をはじめ、市内を流れる中小河川等の改修のほか、河川流域に存在するオープンスペースを活用し雨水を一時貯留するなど、総合的な治水対策や土砂災害対策を進めるとともに、山林の保全・育成などによる地すべり対策等の防災対策を進めます。

【地震・火災対策の推進】

- ・地震や火災に対する安全性向上を図るため、建築物の耐震性・耐火性向上を促進するほか、特に密集市街地において、避難路の確保や避難場所を含む防災拠点の確保を図ります。

【防災にかかる市民意識の向上】

- ・避難訓練や防災に関する広報活動の実施により、人々の防災にかかる意識の向上を図り、災害発生時における円滑な避難や自主的な救援を行える自主防災組織づくりを促進します。

２）都市防災の方針

① 治水・治山対策の推進

木津川市内を流れる天井川の決壊を防止するため、老朽化した護岸の修繕や定期的な点検や浚渫などを進めます。また、低地部の内水排除を行うため、樋門や雨水施設の改修・整備を進めるとともに、河川改修などによる治水対策を進めます。さらに、河川流域の農地や緑地などが本来もつ保水・遊水機能の維持や市街地部の駐車場などのオープンスペースに雨水を一時貯留する流出防止施設を設けるなど、市街地における治水対策を図ります。

国道24号城陽井手木津川バイパスは、災害時において木津川右岸域で唯一の南北方向の緊急輸送道路である国道24号の代替の防災道路として、住民の命を守る重要な役

割を果たすことから、災害時の道路ネットワークの確保の観点からも早期開通を目指して整備を促進します。また、広域的な防災拠点の整備についても検討します。

点在するため池については、地震や大雨によるため池の決壊を防止するため、ため池管理者に対して適正管理の指導を行います。

山林の保全・育成を図るほか、地すべり、がけ崩れ等の危険防止対策などによる総合的な防災対策を進めます。



〔木津合同樋門〕



〔急傾斜地崩壊危険区域（鹿背山）〕

＜主な取り組み＞

- ・住民の命を守る防災道路としての国道24号城陽井手木津川バイパスの早期整備の促進
- ・木津川の治水対策の強化の要望
- ・大井手川、赤田川などの河川改修事業の促進
- ・上津川、上粕川、西ノ口川などの雨水排水施設の改修推進
- ・小川、南後背川における内水排除対策の推進
- ・西澱樋門の改修推進
- ・定期的な河川などの浚渫
- ・農地、緑地等オープンスペースの保全・活用
- ・加茂町大野地内の治山事業及び急傾斜地崩壊対策事業の促進
- ・土砂災害警戒区域等の指定及び警戒避難体制の整備促進
- ・不動川公園を広域的防災拠点として整備検討

② 地震・火災対策の推進

「木津川市国土強靱化地域計画」（令和2年3月）に基づいて、地震、火災等の災害時の避難路としての役割を担う道路や大規模地震発生後の救援・復興活動の骨格となる緊急輸送道路について、機能強化と安全性の向上を促進するとともに、住民の生命を守る国道24号城陽井手木津川バイパスの早期開通を目指して整備を促進します。また併せて、沿道の建築物の耐震化・不燃化を促進します。

既成市街地のうち密集市街地においては、避難場所としても活用可能なオープンス

ペースの確保や、建物のセットバックによる道路の拡幅等により避難路の確保に努めるとともに、火災発生時における延焼防止など防災性の向上を進めます。

新たに開発する市街地においては、避難路となる道路の無電柱化や公園などのオープンスペースを配置し、都市防災の強化に努めます。

既存の建物については、木津川市建築物耐震改修促進計画に基づき、より一層の耐震診断・改修を推進・促進し、耐震性向上を図ります。特に、不特定多数の方が利用する公共施設については、早急に耐震性確保に努めます。民間の建物についても、住宅の耐震診断の支援等や防災に関する情報提供等を進めるとともに、地震に強い安心・安全のまちづくりを推進する観点から、緊急性や公共性を伴う特定建築物について耐震診断に関する情報提供等の支援を行います。

公共建築物・道路等施設構造物の整備の際には、十分な耐震性を確保するとともに、民間の建築物についても、関係機関と連携しながら法令に基づく耐震化に向けた情報発信を行います。

事故防止を目的とした適正な危険物保管の指導等による事故防止に努めるとともに、消防・救急体制として、組織体制、車両・通信機器等の資材機、消防水利等の充実を図ります。



[本庁舎防災訓練]

また、消防庁舎や消防団詰所の老朽化に伴う整備を進めます。

<主な取り組み>

- ・住民の命を守る防災道路としての国道24号城陽井手木津川バイパスの早期整備の促進
- ・不動川公園を広域的防災拠点として整備検討
- ・木津川市地域防災計画の定期的な見直し
- ・緊急輸送道路沿道の建築物の耐震化・不燃化の促進
- ・避難場所及び避難路の確保
- ・木津川市建築物耐震改修促進計画に基づく耐震診断・耐震改修の推進・促進
- ・消防・救急体制の充実
- ・消防庁舎及び消防団詰所の整備

③ 市民の防災意識の向上

避難訓練の実施や災害に関する広報活動等により、防災意識の向上を図り、円滑な初期消火や災害弱者対策の視点も含めた緊急時の避難・救援を行える自主的な防災組織

づくりを促進します。

また、自治会などを単位とした、自主防災組織の育成と確立を図ります。

＜主な取り組み＞

- ・防災に関する広報活動の推進
- ・ハザードマップによる災害時における危険箇所等の周知
- ・自主防災組織の活動支援
- ・気象庁などが発表する気象情報や雨量・水位情報など、リアルタイムな防災情報の活用と伝達・共有の強化





Ⅲ 地域別構想

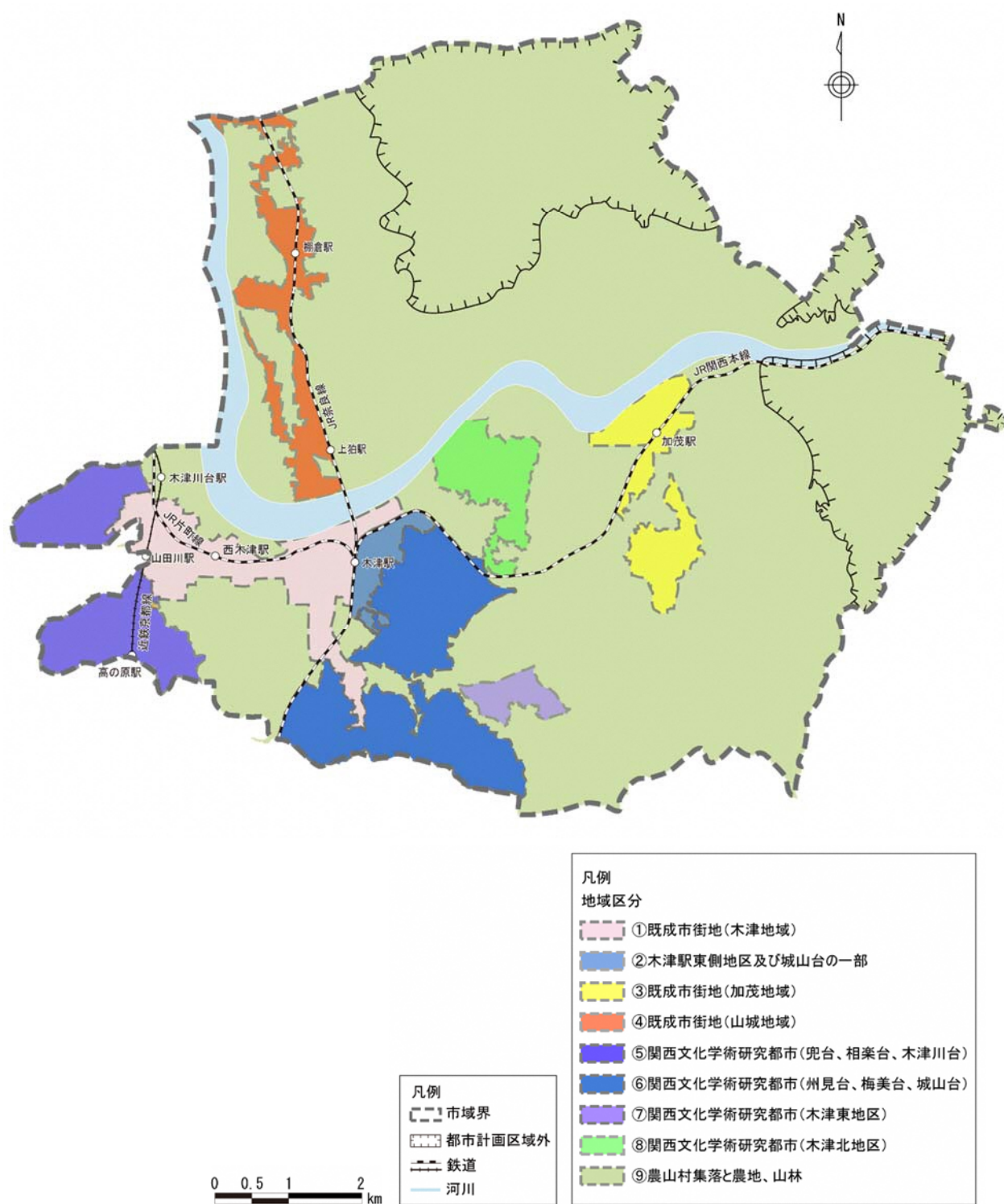
1. 地域区分の考え方

木津川市の構造を見ると、大まかには、盆地に古くから形成されている既成市街地、丘陵部に開発された関西文化学術研究都市、農山村集落・山林で構成されており、それらが一体となり木津川市の魅力を醸し出しています。

これらを踏まえ、全体として魅力ある木津川市の実現に向けて、それぞれの特性を活かした魅力ある地区の形成を図っていくため、以下の地域区分に基づく地域別構想を定めます。

地域区分	対象となるエリア
①既成市街地（木津地域）	木津川市の中心核（中心都市拠点）及びその周辺（木津駅東側地区及び城山台を除く）
②木津駅東側地区及び城山台の一部	木津駅東側地区及び城山台の一部
③既成市街地（加茂地域）	加茂地域の市街化区域
④既成市街地（山城地域）	山城地域の市街化区域
⑤関西文化学術研究都市（兜台、相楽台、木津川台）	整備済の関西文化学術研究都市地区（市西部）
⑥関西文化学術研究都市（州見台、梅美台、城山台）	整備済の関西文化学術研究都市地区（市中央部）
⑦関西文化学術研究都市（木津東地区）	未整備の関西文化学術研究都市地区
⑧関西文化学術研究都市（木津北地区）	里地里山を保全する関西文化学術研究都市地区
⑨農山村集落と農地、山林	市街化調整区域（木津駅東側地区を除く）及び都市計画区域外

地域別構想・地域区分図



2. 地域別構想

(1) 既成市街地（木津地域）

1) 地域の概況

- ・ 木津川左岸に位置し、関西文化学術研究都市及び木津駅東側地区を除く市街地部分で、様々な都市機能が配置された木津川市の中心市街地とその西に位置する住宅地により構成されています。
- ・ JR木津駅周辺は関西文化学術研究都市木津地区の玄関口として整備が進められているほか、市役所をはじめとして国や府も含めた行政施設、保健・医療施設、交通ターミナル施設等が集積する中心都市拠点が形成されています。
- ・ 中心都市拠点の西側は住宅地を中心とする既成市街地が形成されています。

2) 地域の目指すべき方向性

○木津川市の活力を生む中心都市拠点の形成

木津川市及び南山城地域の広域の中心核として、多様な都市機能を集積させることで、便利で質の高い都市的サービスを提供し、多彩な交流や都市の活力の創出を目指します。

○ずっと住み続けたい良質な居住地の形成

地域の特性を踏まえ、安全・安心でゆとりある良質な居住地の形成を目指します。

○便利で快適な交通環境の形成

木津川市の中心都市拠点や関西文化学術研究都市の玄関口として、市域内外からアクセスの利便性が高い交通環境の形成を目指します。

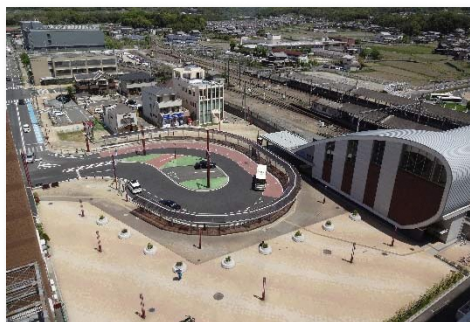
3) 都市計画の方針

① 土地利用及び市街地・集落形成の方針

(ア) 便利でにぎわいのある中心都市拠点の形成

対象	市役所周辺～ＪＲ木津駅周辺地区
----	-----------------

木津川市のみならず南山城地域の中核や関西文化学術研究都市木津地区の玄関口として位置付けられるＪＲ木津駅周辺について、便利でにぎわいのある中心都市拠点として、商業、業務、医療・福祉などの都市的機能の集積を図ります。



〔ＪＲ 木津駅西口駅前広場〕

＜主な取り組み＞

- ・土地区画整理など基盤整備後の土地の有効活用
- ・ＪＲ木津駅のターミナル機能の充実

(イ) 良好な住宅地の形成

(比較的最近に開発された低層住宅地)

対象	木津町エリア、木津エリア、本町エリアの一部、下川原エリア
----	------------------------------

中心都市拠点の西に位置する居住を中心とする市街地で比較的最近に開発された低層住宅地については、地区計画や建築協定等の制度の活用により、地区の特性を活かしつつ、周辺環境と調和した良好な住環境の形成を図ります。

＜主な取り組み＞

- ・良好な住環境形成を図るための地区計画・建築協定等の推進

(従来からの住宅地)

対象	木津町エリア、木津エリア、本町エリアの一部、北ノ庄エリア、相楽南エリア、吐師エリア、市坂エリア
----	---

本地域には従来から形成された住宅市街地が広がっています。これらの住宅地においては、生活道路の整備や狭隘道路の拡幅など防災面等に配慮した環境整備を進めるとともに、下水道の整備などを進め、安全・安心で快適な住環境の形成を図ります。また、空家等が比較的多く分布することから、適切な管理の促進等の対策を推進します。

地区計画や建築協定等の制度の活用により、地区の特性を活かしつつ、周辺環境と調和した良好な住環境の形成を図ります。

また、歴史的なまち並みが残る木津本町通については、市民との協働によるまち並みの保全を図ります。

＜主な取り組み＞

- ・生活道路の整備と細街路の拡幅、下水道整備の推進
- ・空家等の適切な管理及び利活用の促進
- ・良好な住環境形成を図るための地区計画・建築協定等の締結

② 交通施設の方針

（ア）幹線道路等の整備と沿道利用

主要幹線道路である国道24号、国道163号、市道木335号木津山田川線などについては、拡幅や歩道の確保等による安全性の確保を進めつつ、主要な道路の沿道についてはバリアフリー化、沿道景観づくりを一体的に進め、にぎわいとうるおいのある商業・沿道サービス軸の形成を図ります。

＜主な取り組み＞

- ・国道24号歩道拡幅整備促進
- ・市道木892号木津鹿背山線改良整備推進
- ・市道木335号木津山田川線改良整備推進
- ・国道163号、国道24号沿道における商業・サービス軸の形成

（イ）鉄道・バス交通の利便性向上

鉄道施設の改築やバリアフリー化、アクセス改善を促進します。また、バス交通については、市民に身近な公共交通機関として運行の維持と利便性の向上を促進します。

＜主な取り組み＞

- ・JR西木津駅の改築やバリアフリー化の促進要望
- ・路線バスの充実及びコミュニティバス等の運行の維持と利便性の向上
- ・路線バス、コミュニティバスのJR木津駅、近鉄山田川駅等との接続に配慮したダイヤ等の見直し

③ 都市・自然環境及び歴史的資源の方針

(ア) 市街化区域内農地の活用・保全（未利用地の解消）

市街化区域の農地については、適切な開発誘導によりスプロール開発を抑制し、計画的な土地利用を図ります。

また、一部の農地については、将来の公園、緑地などのオープンスペースとして位置付けるとともに、生産緑地制度の活用により農地としての保全を図ります。



〔生産緑地（城山台）〕

(イ) 公園・緑地等の整備・維持管理

市民の憩いの場などの役割を持つ公園・緑地については、計画的な整備を進め、既存公園については、周辺環境や生活環境に配慮した維持管理を進めます。

公園・緑地の役割を持つ社寺林等についても所有者の協力を得ながら維持管理を進めます。

整備・維持管理にあたっては、防災性の向上やバリアフリー化など利用者のニーズに対応した施設の充実を図ります。また、維持管理にあたり、自主管理活動交付金制度により、市民参加による維持管理を進めています。



〔市役所南公園〕

<主な取り組み>

- ・既存の公園の維持管理と機能向上
- ・社寺林等の維持管理
- ・市民自主管理事業

(ウ) 公共用水域の水質保全

公共用水域の水質保全を図るため、「京都府水洗化総合計画」に基づき、水洗化未整備区域の解消を図ります。

<主な取り組み>

- ・「京都府水洗化総合計画」に基づく水洗化未整備区域の解消

(エ) 河川・治水対策

市のシンボルでもある木津川は多様な生物や植物が生息・植生しており、これらの

環境保全を図りつつ、レクリエーション機能を有した親水空間として活用を図ります。また、鹿川堤をサイクリングロードとして活用を図るとともに、山松川との合流部の親水空間の活用を図ります。

治水対策については、低地部の内水排除を行うため、河川の雨水排水施設の改修や定期的な浚渫、樋門の改修・整備を行うなど治水対策を進めます。

また、河川流域の農地や緑地などが本来持つ保水・遊水機能の維持や市街地部の駐車場などのオープンスペースに流出防止施設を設けるなど、市街地における治水対策を図ります。

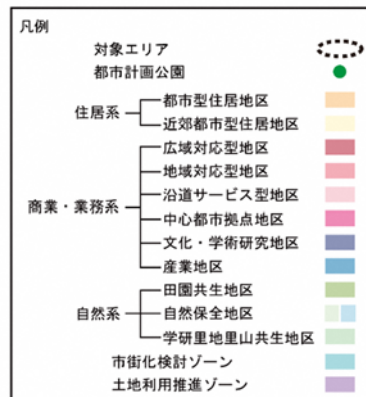
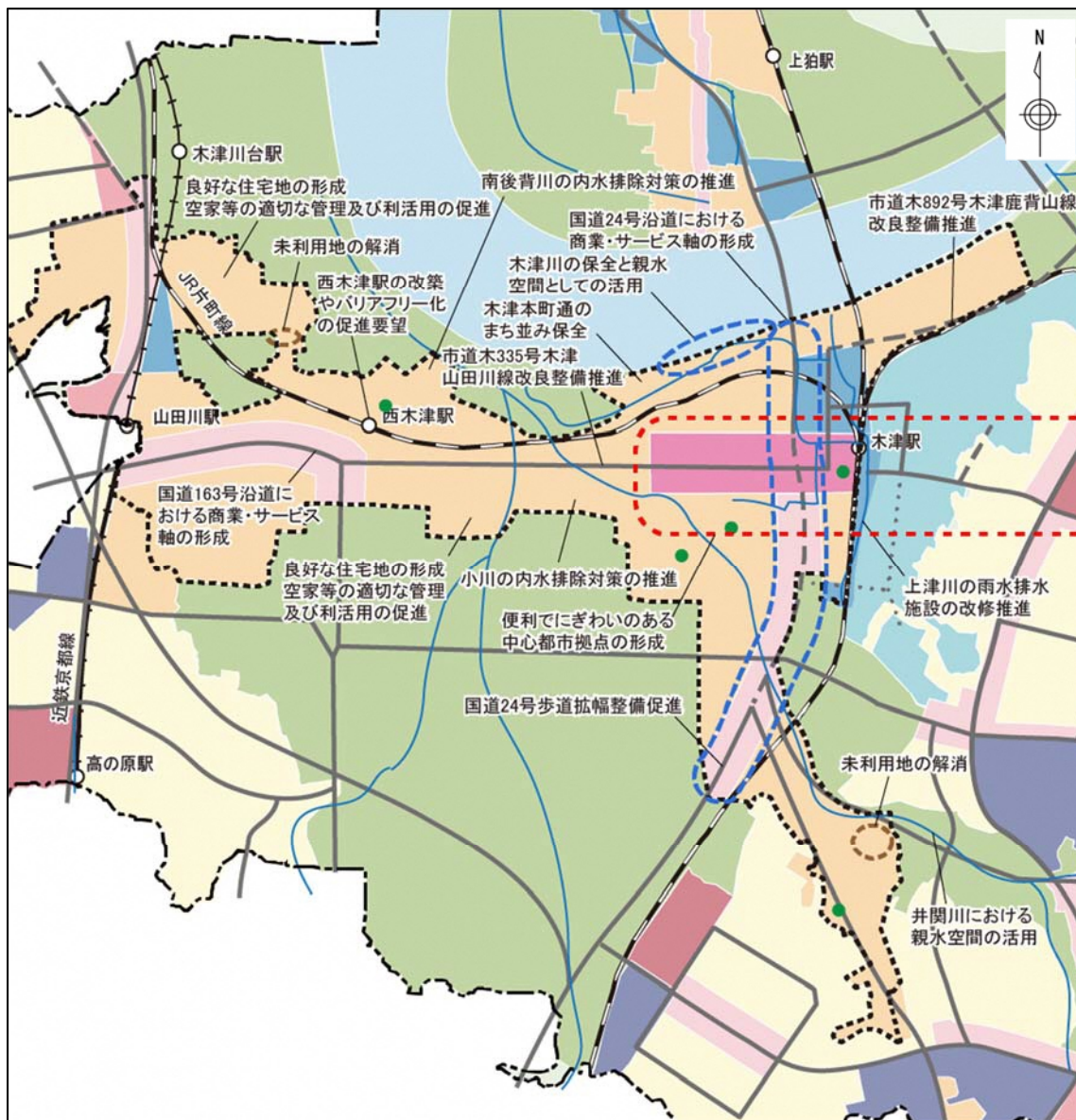


[木津川]

＜主な取り組み＞

- ・木津川の保全と親水空間としての活用
- ・鹿川堤を利用したサイクリングロードとしての活用
- ・井関川における親水空間の活用
- ・上津川の雨水排水施設の改修推進
- ・小川、南後背川における内水排除対策の推進
- ・南後背川、反田川などの浚渫
- ・駐車場などのオープンスペースを活かした治水対策の検討

既成市街地（木津地域）



（２）木津駅東側地区及び城山台の一部

１）地域の概況

- ・ JR木津駅東側の線路と特定土地区画整理事業が完了した城山台地区との間に位置しており、市街化調整区域に指定されている農地が広がっています。

２）地域の目指すべき方向性

○中心都市拠点の都市機能を強化する市街地形成の検討

関西文化学術研究都市地区や中心都市拠点の都市機能の強化を踏まえて、周辺環境に配慮しながら、計画的な市街地の形成に向けた検討を行います。

３）都市計画の方針

① 土地利用及び市街地・集落形成の方針

木津駅東側地区のまちづくりの検討

対象	木津駅東側地区、城山台の一部
----	----------------

市街化調整区域に指定されている木津駅東側地区については、令和元年度に実施した住民アンケート調査によると、84.6%の人が市街化をイメージしたまちの将来像を望んでいるものの、農地所有者の13.0%が一部もしくは全部の農地の営農の継続を望んでいます。それらの整合を図りつつ、城山台の開発進展に伴い、市街地としてのポテンシャルの高まりが予想



〔木津駅東側地区〕

されることから、関西文化学術研究都市地区との連動や中心都市拠点の機能の強化を踏まえるとともに、周辺環境に配慮し、計画的な市街地の形成に向けた検討を市民とともにを行います。

また、城山台の一部については、市街地形成時の活用を検討します。

＜主な取り組み＞

- ・ 木津駅東側地区の計画的な市街地形成に向けた検討
- ・ 木津駅前東線沿道の土地利用の検討

② 交通施設の方針

幹線道路等の整備と沿道利用

木津高校アクセス道路の整備については、既に事業に着手しており、早期完成を目指します。

また、木津駅東側地区（城山台の一部を含む）の道路整備については、市街地形成の検討に併せて、道路整備の検討を行います。

<主な取り組み>

- ・木津高校アクセス道路整備事業
- ・木津駅東側地区の道路整備推進

③ 都市・自然環境及び歴史的資源の方針

（ア）権利者の意向に沿った農地の保全

計画的な市街地の形成に向けて、市民とともに検討を進めるにあたっては、権利者の意向を踏まえて、農地との共存の検討を行います。

（イ）公園・緑地等の整備

計画的な市街地の形成に向けて、市民の意向を踏まえながら、良好な市街地環境の形成や防災機能、市民の憩いの場などに寄与する公園・緑地等の整備を検討します。

（ウ）河川・治水対策

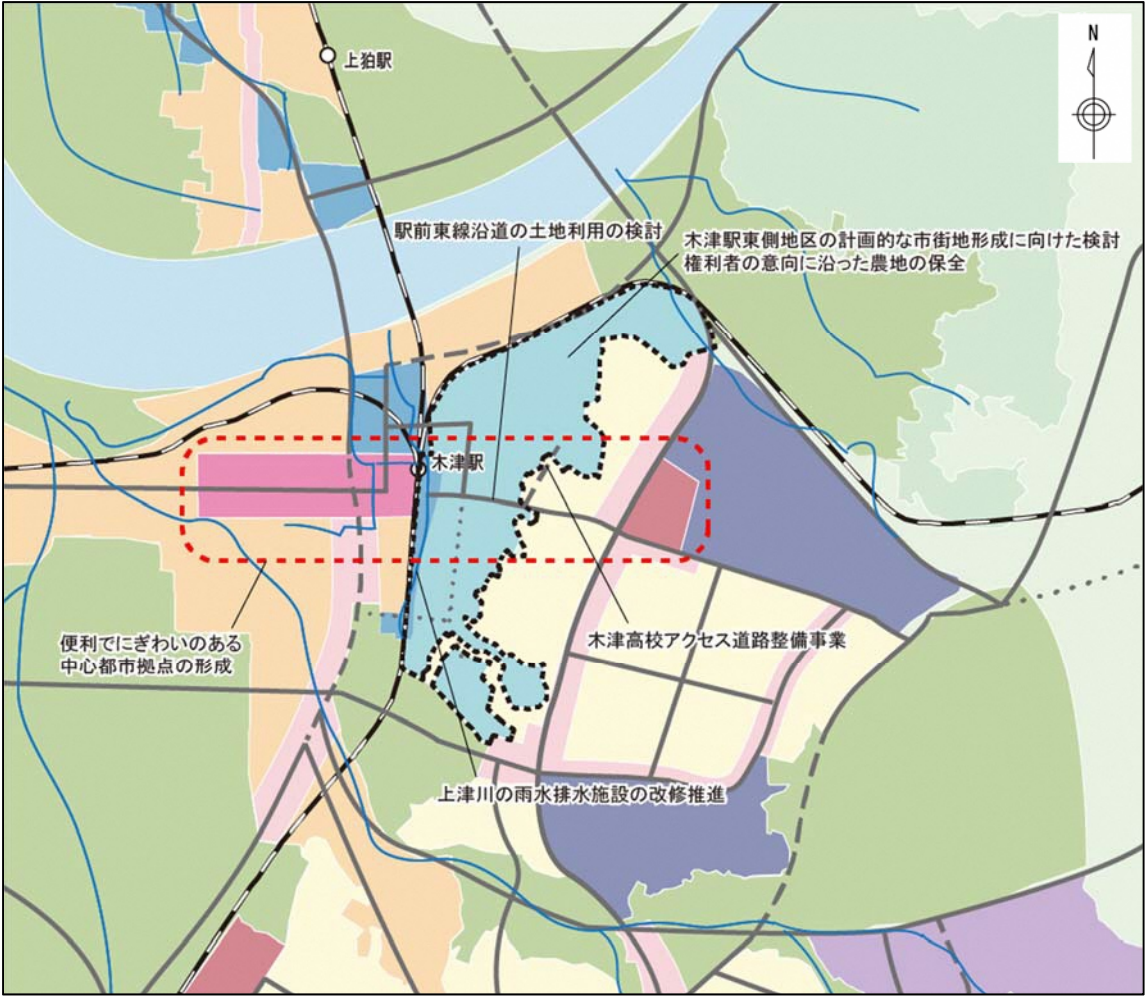
木津駅東側地区については、大雨により木津川が氾濫した際に、最大5.0～10.0mの浸水が想定されており、市街地形成の検討においては、浸水想定を踏まえて検討を行います。

また、流出抑制対策についても適宜検討します。

<主な取り組み>

- ・上津川の雨水排水施設の改修推進

木津駅東側地区及び城山台の一部



(3) 既成市街地（加茂地域）

1) 地域の概況

- ・木津川左岸に位置する市街地部分で、JR加茂駅周辺の市街地及び丘陵地に計画的に開発された南加茂台の住宅団地により構成されています。
- ・加茂盆地の中央に位置するJR加茂駅周辺は、西側の古田地区土地区画整理事業、東側の加茂駅周辺特定土地区画整理事業が完了し、加茂支所や商業施設（スーパー等小売店）、住宅、工場など都市的施設が立地する市街地が形成されています。
- ・加茂盆地南の丘陵地で計画的に開発された南加茂台は、昭和56年12月より入居が始まった約88haの低層戸建住宅地です。

2) 地域の目指すべき方向性

○自然と歴史文化の里・加茂の玄関にふさわしい都市拠点の形成

自然と歴史文化に恵まれた加茂地域にふさわしい風格とにぎわいのある市街地の形成を目指します。

○環境と調和した良好な居住地の形成

周囲の豊かな自然環境や歴史的特性との調和に配慮しながら、安全で快適な良好な住宅地の形成を目指します。

3) 都市計画の方針

① 土地利用及び市街地・集落形成の方針

(ア) 加茂駅周辺地区における都市拠点の形成

対象	加茂駅周辺地区
----	---------

地区計画に基づく自然景観と調和したまち並み形成など加茂地域の玄関口としての商業機能、居住機能の配置などによる土地の有効活用を進めます。

<主な取り組み>

- ・商業機能、居住機能の適切な誘導
- ・地区計画に基づくにぎわいのある都市的市街地景観づくり



[JR 加茂駅周辺]

(イ) 加茂地域の特性に応じた良好な住環境の維持

対象	船屋エリア、新町エリア、里二本松エリアの市街化区域、 南加茂台地区
----	--------------------------------------

自然環境と調和した安全で住みよい住環境の形成に向けて、生活道路の整備や狭隘道路の拡幅、水害対策など防災面に配慮した環境整備を進めます。

伝統的なまち並みが残る船屋通については、市民との協働によるまち並み保全を図ります。

また、入居開始（昭和56年12月）から30年以上経過する南加茂台地区においては、人口減少や高齢化が進行しており、今後、空家等の増加やまちの活力低下が予想されることを踏まえ、良好な住環境の維持・向上に向けた取り組みを検討します。

＜主な取り組み＞

- ・生活道路の整備と狭隘道路の拡幅
- ・雨水排水対策の推進
- ・空家等の適切な管理及び利活用の促進
- ・良好な住環境形成を図るための地区計画・建築協定等の推進
- ・船屋通の伝統的なまち並み保全
- ・小学校の空き教室等の有効活用

② 交通施設の方針

(ア) 幹線道路等の整備

木津川右岸の瓶原エリアとJR加茂駅周辺及び南加茂台地区の南北軸を強化するとともに、奈良方面とを結ぶ広域路線の整備を促進します。

＜主な取り組み＞

- ・都市計画道路奈良加茂線整備促進
- ・都市計画道路加茂駅前線街路整備促進
- ・都市計画道路船屋京内線・船屋北線整備

(イ) 木津方面への連携軸の強化

中心都市拠点と加茂地域を結ぶ道路ネットワークを強化するため、路線の整備を図ります。

＜主な取り組み＞

- ・主要地方道天理加茂木津線改良整備（バイパス化）促進
- ・加茂地域と城山台地区を結ぶ新たな骨格道路の整備検討

(ウ) バス交通の利便性向上

JR加茂駅を結ぶバス交通について、市民に身近な公共交通機関として運行の維持と利便性の向上を促進します。

＜主な取り組み＞

- ・路線バスの充実及びコミュニティバス等の運行の維持と利便性の向上
- ・路線バス、コミュニティバスのJR加茂駅との接続に配慮したダイヤ等の見直し

③ 都市・自然環境及び歴史的資源の方針

(ア) 自然環境、歴史的・文化的遺産の保全活用

対象	当尾エリア、瓶原エリア
----	-------------

歴史的・文化的遺産が数多く分布する当尾エリア、瓶原エリアへの観光レクリエーションルートの整備を進めます。

＜主な取り組み＞

- ・観光案内標識、歩道の整備・充実
- ・JR加茂駅周辺での観光案内の実施
- ・小学校、公民館等の有効活用の検討
- ・当尾エリアにおける風致地区指定の検討

(イ) 市街化区域内農地の活用・保全（未利用地の解消）

市街化区域の農地については、適切な開発誘導によりスプロール開発を抑制し、計画的な土地利用を図ります。

また、一部の農地については、将来の公園、緑地などのオープンスペースとして位置付けるとともに、生産緑地制度の活用により農地としての保全を図ります。

(ウ) 公園・緑地の整備・維持管理

市民の憩いの場などの役割を持つ公園・緑地については、計画的な整備・維持管理を進めます。公園・緑地の役割を持つ社寺林等についても所有者の協力を得ながら維持管理を進めます。整備・維持管理にあたっては、防災性の向上やバリアフリー化など利用者のニーズに対応した施設の充実を図ります。

また、維持管理にあたり、自主管理活動交付金制度により、市民参加による維持管理を進めています。



〔須田公園〕

＜主な取り組み＞

- 既存の公園の維持管理と機能向上
- 社寺林等の維持管理
- 市民自主管理事業

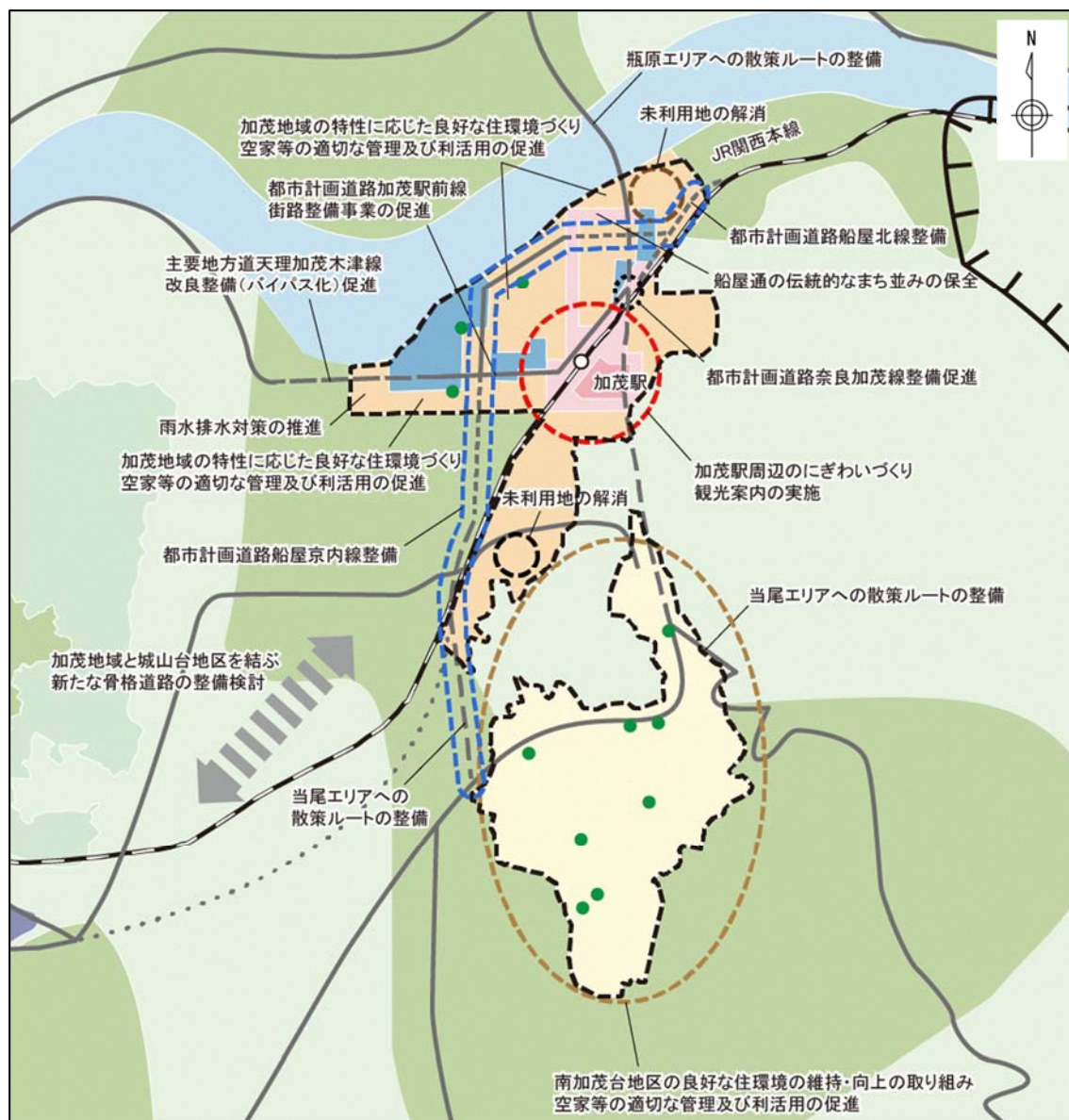
(エ) 公共用水域の水質保全

公共用水域の水質保全を図るため、社会情勢の変化等を踏まえ、公共下水道及び浄化槽の効率的・効果的な整備手法を検討し、水洗化未整備区域の解消を図ります。

＜主な取り組み＞

- 「京都府水洗化総合計画」に基づく水洗化未整備区域の解消

既成市街地（加茂地域）



凡例	
対象エリア	
都市計画公園	●
住居系	
都市型住居地区	■
近郊都市型住居地区	■
広域対応型地区	■
地域対応型地区	■
商業・業務系	
沿道サービス型地区	■
中心都市拠点地区	■
文化・学術研究地区	■
産業地区	■
自然系	
田園共生地区	■
自然保全地区	■
学研里地里山共生地区	■
市街化検討ゾーン	■
土地利用推進ゾーン	■

（４）既成市街地（山城地域）

１）地域の概況

- ・旧山城町の木津川右岸に位置する市街地部分で、JR沿いの市街地やJR棚倉駅、JR上狛駅周辺の主に住宅地からなる市街地により構成されています。
- ・JR棚倉駅西側は、棚倉駅西特定土地区画整理事業が完了し、戸建て住宅による住宅地が形成されています。
- ・JR上狛駅周辺には、山城支所や事業所などの都市的施設が立地しており、また上狛環濠集落や上狛茶問屋街といったかつてのまちの営みを今に伝える伝統的なまち並みが残されています。

２）地域の目指すべき方向性

○豊かな田園環境と調和した都市拠点・地域拠点の形成

市街地を取り囲む豊かな田園環境との調和に配慮した都市拠点、地域拠点の形成を目指します。

○環境と調和した良好な居住地の形成

周囲の豊かな自然環境との調和に配慮しながら、安全で快適な良好な住宅地の形成を目指します。

○防災機能の充実

木津川の河川氾濫などの災害への備えとして、防災上重要な役割を果たす防災道路や防災拠点の整備を推進し、災害に強いまちづくりを進めます。

○立地特性を活かした産業地区の形成と都市的土地利用の推進

国道24号沿道については、工場や沿道サービス機能等の立地誘導による産業地区の形成を図ります。

国道24号城陽井手木津川バイパスの整備及び主要地方道枚方山城線の同バイパスまでの延伸構想に併せて、JR棚倉駅東側の都市的土地利用の検討を行います。

3) 都市計画の方針

① 土地利用及び市街地・集落形成の方針

(ア) JR棚倉駅周辺における都市拠点の形成

対象	J R 棚倉駅周辺地域
----	-------------

JR棚倉駅東側については、国道24号城陽井手木津川バイパスの整備及び主要地方道枚方山城線の同バイパスまでの延伸構想に併せて、商業機能、居住機能の配置などによる都市的土地利用の検討を行います。また、特定土地区画整理事業が完了したJR棚倉駅周辺の既存市街地については、田園環境と調和したまち並み形成など山城地域の中心部としてふさわしい市街地景観の保全に努めます。

<主な取り組み>

- ・ JR棚倉駅東側の都市的土地利用の検討
- ・ 駅周辺における住宅、商業機能の配置
- ・ 街路樹等による駅前広場や幹線道路沿道の景観を保全
- ・ 駅周辺の狭隘道路の解消
- ・ 地区計画に基づくにぎわいある市街地の形成



[都市計画道路棚倉駅西口通線]

(イ) JR上粕駅周辺における地域拠点の形成

対象	J R 上粕駅周辺地域
----	-------------

JR上粕駅周辺については、交通結節点であることから、地域住民の日常生活に必要な商業機能、居住機能のほか業務機能の維持・充実などによる都市的土地利用の推進を図ります。

<主な取り組み>

- ・ JR上粕駅周辺における住宅、商業機能の配置

(ウ) 山城地域の特性に応じた田園環境と調和した良好な住環境の維持

対象	綺田エリア、平尾エリア、高麗エリア、上粕エリアの市街化区域
----	-------------------------------

田園環境と調和した安全で住みよい住環境の形成に向けて、生活道路の整備や狭隘道路の拡幅、水害対策など防災面に配慮した環境整備を進めます。地区計画や建築協定等の制度の活用により、地区の特性を活かしつつ、周辺環境と調和した良好な住環境の形成を図ります。

＜主な取り組み＞

- ・生活道路の整備と狭隘道路の拡幅
- ・河川堤防の強化など水害対策の推進
- ・西澱樋門改修など水害対策の推進
- ・上粕川、西ノ口川の改修などによる上粕南部地区の雨水排水対策の推進
- ・良好な住環境形成を図るための地区計画・建築協定等の推進

(エ) 産業地区の形成

対象	国道24号沿道エリア
----	------------

準工業地域に指定されている国道24号沿道については、産業地区として位置付け、国道24号の拡幅整備に併せて上下水道や雨水排水施設の整備などを進め、工場や沿道サービス機能の立地誘導を図ります。

＜主な取り組み＞

- ・上下水道や雨水排水施設の整備推進

(オ) 国道24号城陽井手木津川バイパスの整備に併せた地域活性化の推進

対象	棚倉駅周辺地域、上粕エリア
----	---------------

国道24号城陽井手木津川バイパスの整備の機会を活用し、沿道の活性化を図るため、主要地方道枚方山城線の同バイパスまでの延伸構想に併せたJR棚倉駅東側の都市的土地利用の検討を行います。

また、国道163号との結節点において、にぎわい拠点の整備を検討します。

＜主な取り組み＞

- ・JR棚倉駅東側の都市的土地利用の検討
- ・国道163号との結節点でのにぎわい拠点の整備の検討

② 交通施設の方針

(ア) 幹線道路等の整備

主要幹線道路である国道24号城陽井手木津川バイパスの早期整備を促進し、地域内外の道路ネットワークの強化を図ります。

＜主な取り組み＞

- ・国道24号城陽井手木津川バイパスの早期整備の促進
- ・主要地方道枚方山城線の延伸促進

- ・主要地方道上狛城陽線整備促進
- ・都市計画道路野田川線整備
- ・市道山229号やすらぎ回廊線の整備推進

(イ) 鉄道・バス交通の利便性向上

鉄道施設の改築やバリアフリー化、アクセス改善を促進します。中心都市拠点であるJR木津駅へアクセスするバス交通について、市民に身近な公共交通機関として利便性の向上を促進します。

<主な取り組み>

- ・JR棚倉駅、JR上狛駅の改築やバリアフリー化の促進要望
- ・コミュニティバス等の運行の維持と利便性の向上
- ・コミュニティバスのJR棚倉駅との接続に配慮したダイヤ等の見直し

③ 都市・自然環境及び歴史的資源の方針

(ア) 歴史的・文化的遺産等の保全・活用

対象	史跡椿井大塚山古墳・史跡高麗寺跡、上狛環濠集落、上狛茶問屋街
----	--------------------------------

史跡椿井大塚山古墳・史跡高麗寺跡などの歴史的・文化的遺産の保全を図るとともに、それらを活かした周辺環境整備を進めます。JR上狛駅周辺に残る上狛環濠集落、上狛茶問屋街のまち並みについて、地域住民とともに伝統的なまち並み景観としての保全を検討します。

<主な取り組み>

- ・史跡椿井大塚山古墳・史跡高麗寺跡の保全と活用
- ・上狛環濠集落、上狛茶問屋街の伝統的なまち並みの保全・活用を検討
- ・旧南都銀行上狛支店跡地の利活用の検討



[上狛環濠集落]

(イ) 市街化区域内農地の活用・保全（未利用地の解消）

市街化区域の農地については、適切な開発誘導によりスプロール開発を抑制し、計画的な土地利用を図ります。

また、一部の農地については、将来の公園、緑地といったオープンスペースとして位置付け、生産緑地制度の活用により農地としての保全を図ります。

(ウ) 公園・緑地の整備・維持管理

市民の憩いの場などの役割を持つ公園・緑地については、計画的な整備・維持管理を進めます。公園・緑地の役割を持つ社寺林等についても所有者の協力を得ながら維持管理を進めます。整備・維持管理にあたっては、防災性の向上やバリアフリー化など利用者のニーズに対応した施設の充実を図ります。

国道24号城陽井手木津川バイパスの早期整備の促進に伴い、不動川公園の広域的防災拠点としての整備を検討します。

また、維持管理にあたり、自主管理活動交付金制度により、市民参加による維持管理を進めています。

<主な取り組み>

- ・既存の公園の維持管理と機能向上
- ・社寺林等の維持管理
- ・不動川公園を広域的防災拠点として整備検討
- ・田護池周辺での憩いの場の整備検討
- ・市民自主管理事業

(エ) 公共用水域の水質保全

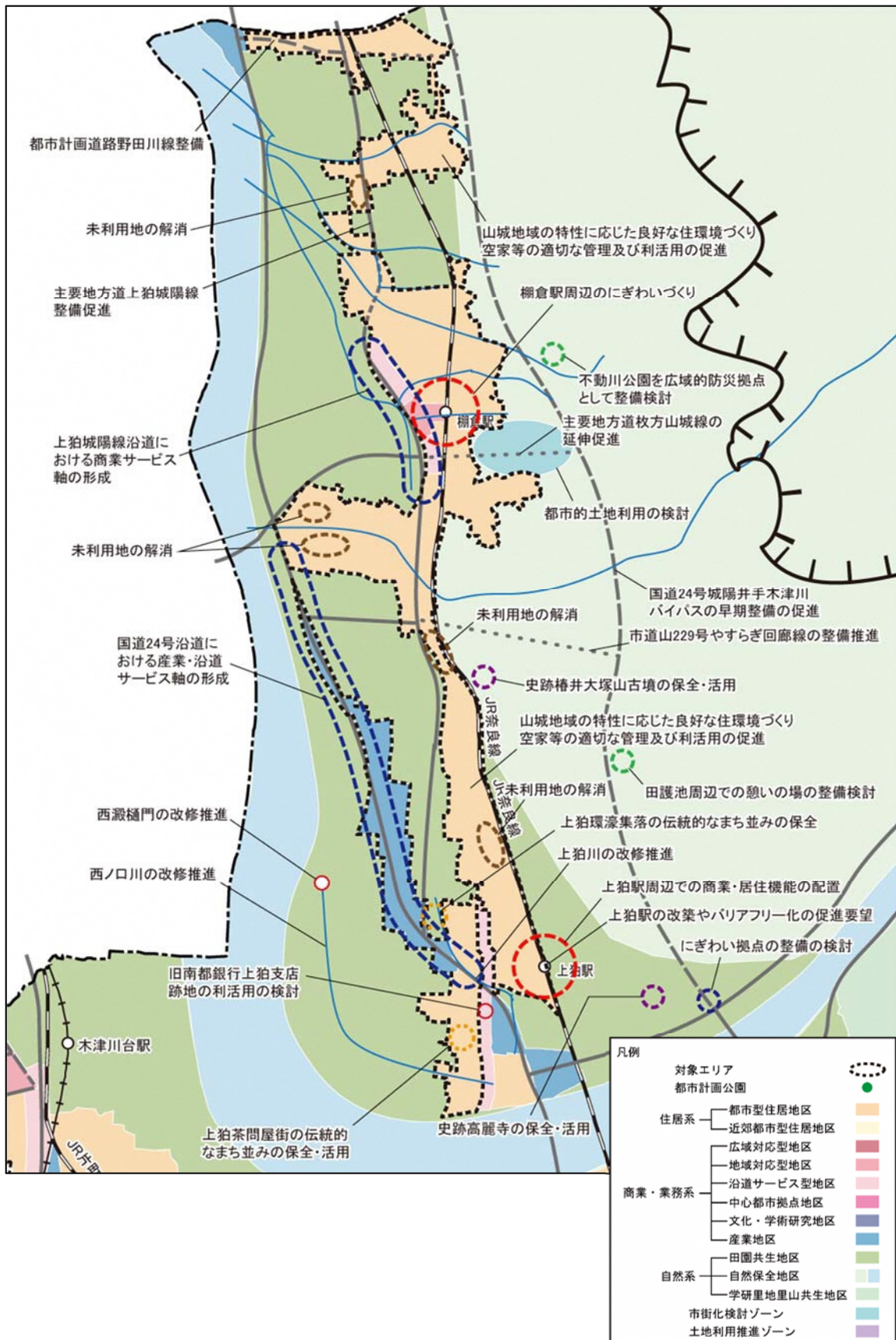
公共用水域の水質保全を図るため、社会情勢の変化等を踏まえ、公共下水道及び浄化槽の効率的・効果的な整備手法を検討し、水洗化未整備区域の解消を図ります。

<主な取り組み>

- ・「京都府水洗化総合計画」に基づく水洗化未整備区域の解消



既成市街地（山城地域）



（５）関西文化学術研究都市（兜台、相楽台、木津川台）

１）地域の概況

- ・昭和50年代より丘陵部で開発が始められた関西文化学術研究都市で、住宅、研究施設、商業施設等が立地する市街地により構成されています。
- ・兜台、相楽台は、精華町・奈良市にもまたがる626haの平城・相楽地区の一部で、住宅や大規模商業施設のほかハイタッチリサーチパークなどの文化学術研究施設等が整備されています。
- ・木津川台は、関西文化学術研究都市の中心地区に位置付けられている精華町にもまたがる506haの精華・西木津地区の一部で、住宅や商業施設のほか文化学術研究施設として公益財団法人国際高等研究所、公益財団法人地球環境産業技術研究機構、オムロン株式会社京阪奈イノベーションセンタなど様々な分野における先導的な文化学術研究施設が立地しています。

２）地域の目指すべき方向性

○成熟した関西文化学術研究都市の良好な住宅地、文化学術研究地区及びセンターゾーンの形成

豊かな自然と調和したゆとりのあるまちを守り、育てながら、まちの成熟を目指します。

３）都市計画の方針

① 土地利用と市街地・集落形成の方針

（ア）文化学術研究施設の機能を活かす地区の形成

対象	兜台、相楽台、木津川台の文化学術研究地区
----	----------------------

「学研都市建設計画」を踏まえ、周辺の住宅地との調和を図りつつ、特色ある文化学術研究施設が立地する地区の形成を図ります。

＜主な取り組み＞

- ・スマートけいはんなプロジェクトの実施
- ・木津学校給食センター跡地の有効利用の検討

(イ) 近鉄山田川駅周辺での地域拠点の形成

対象	近鉄山田川駅周辺
----	----------

近鉄山田川駅周辺については、交通結節点であることから、地域住民の日常生活に必要な商業機能、居住機能の維持・充実などによる都市的土地利用の推進を図ります。

(ウ) 商業拠点における商業機能の充実

対象	近鉄高の原駅周辺
----	----------

「学研都市建設計画」を踏まえ、センターゾーンとして位置付けられる近鉄高の原駅周辺について、市民の買物等の利便に供する商業・業務機能、都市的サービス機能の維持に努めます。

また、建築物の用途・高さについて、周辺の住環境に配慮しつつ、関西文化学術研究都市地区にふさわしいセンターゾーンの形成を図ります。

(エ) 良好な住環境の維持

対象	兜台、相楽台、木津川台の全住宅地
----	------------------

兜台、相楽台、木津川台については、道路網や公園等の都市基盤の整備は完了しており、今後は、住環境形成に関する維持・管理を進め、良好な住宅地として成熟を図っていきます。

＜主な取り組み＞

- ・良好な住環境形成を図るための地区計画・建築協定等の推進



[木津川台]

② 交通施設の方針

(ア) バス交通等の利便性向上

近鉄高の原駅や近鉄山田川駅等を中心としたバス交通について、市民に身近な公共交通機関として利便性の向上を促進します。また、近鉄木津川台駅は、関西文化学術研究都市「精華・西木津地区」の一部である木津川台地区の玄関口のみならず、木津川市の西の玄関口でもあることから、木津川台地区及び周辺地域から、だれもが安心・安全にアクセスできるよう道路整備を推進し、駅前広場の整備に向けた方針を検討します。

＜主な取り組み＞

- ・路線バスの充実及びコミュニティバス等の運行の維持と利便性の向上
- ・路線バス、コミュニティバスの近鉄山田川駅、近鉄高の原駅との接続に配慮したダイヤ等の見直し
- ・近鉄木津川台駅アクセス道路の整備推進及び駅前広場の整備に向けた方針の検討
- ・都市計画道路山手幹線の早期開通促進
- ・スマートけいはんなプロジェクトの実施

③ 都市・自然環境及び歴史的資源の方針

公園・緑地の維持管理

公園・緑地の維持管理にあたっては、防災性の向上やバリアフリー化など利用者のニーズに対応した施設の充実を図ります。また、維持管理にあたり、自主管理活動交付金制度により、市民参加による維持管理を進めています。

＜主な取り組み＞

- ・既存の公園の維持管理と機能向上
- ・アダプトプログラムの活用による住民参加型維持管理の実施
- ・市民自主管理事業

④ 都市景観の方針

周辺環境と調和した質の高い景観形成

対象	兜台、相楽台、木津川台
----	-------------

文化学術研究ゾーン及びセンターゾーンについては、学研景観計画に基づき、質の高い景観形成が図られています。建築物等は周辺環境との調和に配慮しつつ、優れた建築デザインやシンボリックな道路と一体となった親しみやすい都市的景観の形成を図ります。住宅地については、現状の閑静で緑豊かなうまいのある住宅地景観の維持・保全を図ります。



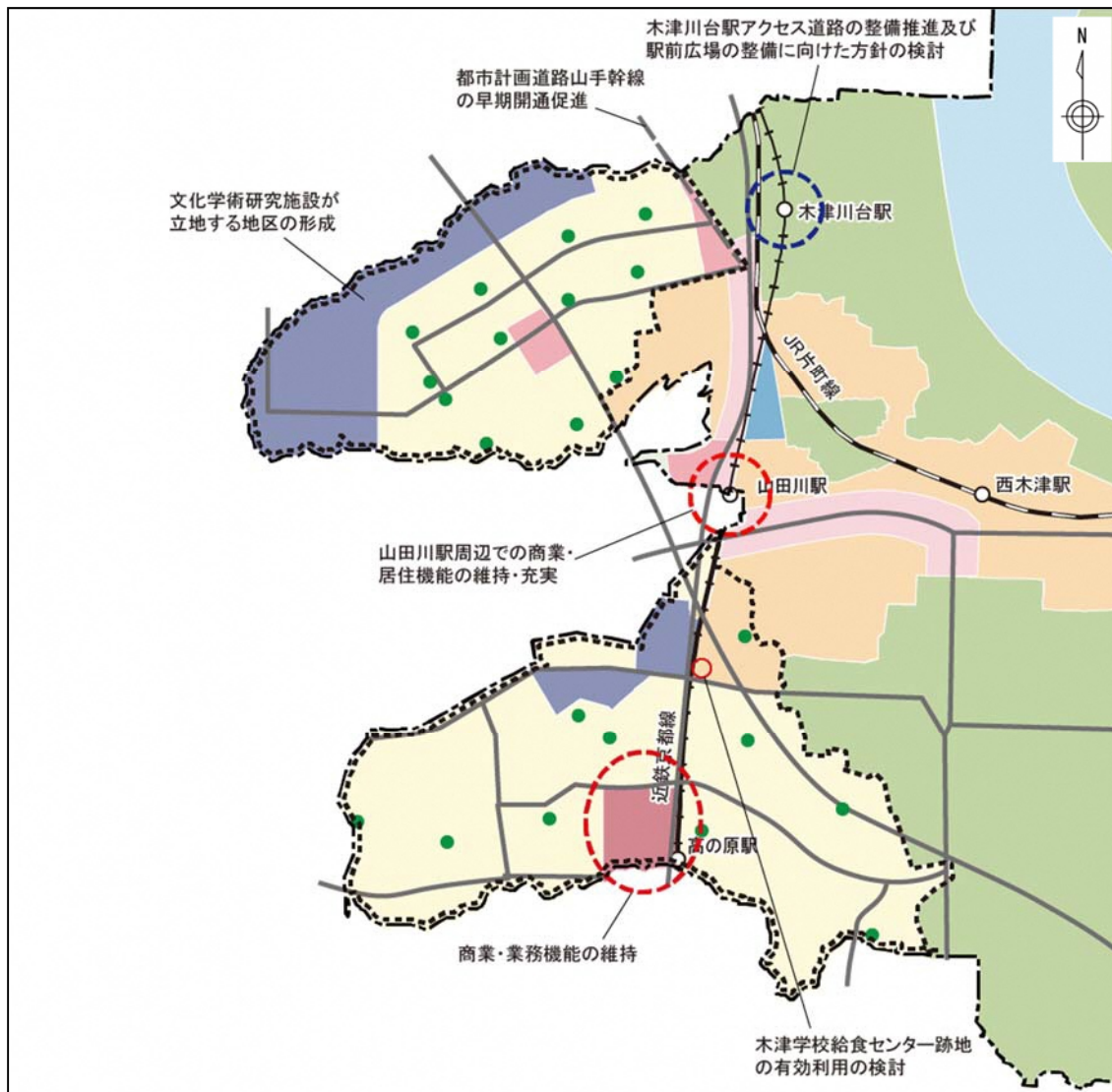
〔公益財団法人国際高等研究所〕

＜主な取り組み＞

- ・学研景観計画等に基づく景観形成

- 良好なまち並み景観を維持、保全するための地区計画、建築協定等の推進（木津川台）及び検討（兜台、相楽台）
- 沿道緑化、敷地内緑化の推進

関西文化学術研究都市（兜台、相楽台、木津川台）



（６）関西文化学術研究都市（州見台、梅美台、城山台）

１）地域の概況

- ・州見台及び梅美台は、284ha、計画人口1.9万人の平成9年にまち開きがなされた比較的新しい関西文化学術研究都市の一部で、住宅、研究施設、商業施設等が立地する市街地により構成されています。平成20年度末には、特定土地区画整理事業の換地処分が完了しており、住宅や研究施設等の立地が進展している地区です。
- ・城山台は、JR木津駅東側市街化調整区域の東側に位置する246ha、計画人口1.0万人の地区で、平成27年1月末に、特定土地区画整理事業の換地処分が完了しており、住宅や研究施設、商業施設等の立地が進展している地区です。

２）地域の目指すべき方向性

○新たな時代の関西文化学術研究都市にふさわしい良好な住環境、商業地区、文化学術研究地区の形成

周囲の豊かな自然との調和に配慮しつつ、新たな時代にふさわしい安全で快適な都市の形成を目指します。

３）都市計画の方針

① 土地利用と市街地・集落形成の方針

（ア）計画的な土地利用

対象	州見台、梅美台、城山台
----	-------------

「学研都市建設計画」の土地利用の方針に基づき、計画的な土地利用を進めます。
また、城山台九丁目の市有地において、消防庁舎の整備を進めます。

（イ）文化学術研究施設の立地促進

対象	州見台、梅美台、城山台の文化学術研究地区
----	----------------------

主として自然科学系の創造的な基礎研究、応用研究、先進的な技術開発を行う施設、文化・学術研究における交流研修等の活動を推進するための機能を備えた研究施設等の立地を促進します。また、城山台の文化学術研究地区には、京都大学大学院農学

研究科附属農場が開設しており、それらの機能や波及効果を活かした周辺のまちづくりを進めます。

＜主な取り組み＞

- ・文化学術研究施設、研究開発型産業施設等の立地促進
- ・京都大学大学院農学研究科附属農場などの機能や波及効果を活かしたまちづくりの推進

（ウ）梅美台の近隣商業地域における地域拠点の形成

対象	梅美台の近隣商業地域
----	------------

梅美台の近隣商業地域については、地域住民の日常生活に必要なサービスを提供する商業機能の配置などによる都市的土地利用の推進を図ります。

（エ）商業拠点等における商業機能等の形成

対象	州見台のセンターゾーン、城山台のセンターゾーン
----	-------------------------

「学研都市建設計画」を踏まえ、州見台のセンターゾーンを商業拠点として位置付け、商業・業務機能の維持に努めます。

また、城山台のセンターゾーンについては中心都市拠点の一部として位置付け、都市的都市施設等の集積を図り、にぎわいのある地区の形成を図ります。

（オ）良好な住環境の形成

対象	州見台、梅美台、城山台の全住宅地
----	------------------

州見台、梅美台については、道路網や公園等の都市基盤の整備は完了しており、今後は、住環境形成に関する維持・管理を進め、良好な住宅地として成熟を図っていきます。城山台については、周辺の自然環境との調和に配慮しつつ、関西文化学術研究都市にふさわしい新しいライフスタイルを発信する住宅地の形成を進めます。



〔梅美台〕

＜主な取り組み＞

- ・良好な住環境形成を図るための地区計画・建築協定等の推進

② 交通施設の方針

(ア) 幹線道路等の整備

広域幹線道路として国道163号及び都市計画道路東中央線等が開通しており、今後は、国道24号城陽井手木津川バイパスの早期整備を促進し、地区内外の連携強化によるまちづくりの支援、通過交通の分散等を図ります。また、加茂地域方面へのアクセス強化に向けた新たな連携軸の整備も検討します。



[市道木 27 号木津中ノ川線]

既存集落から城山台や梅美台へのアクセス道路として活用するため、木津中ノ川線の改良を進めて、将来の交通量の増加に対応します。

<主な取り組み>

- ・国道24号城陽井手木津川バイパスの早期整備の促進
- ・加茂方面への連携軸の強化
- ・都市計画道路下梅谷鹿背山線の整備推進
- ・市道木27号木津中ノ川線道路改良事業

(イ) バス交通等の利便性向上

JR木津駅等を中心としたバス交通について、市民に身近な公共交通機関として利便性の向上を促進します。

<主な取り組み>

- ・路線バスの充実及びコミュニティバス等の運行の維持と利便性の向上
- ・路線バス、コミュニティバスのJR木津駅等との接続に配慮したダイヤ等の見直し

③ 都市・自然環境及び歴史的資源の方針

公園・緑地の維持管理

地区内の公園・緑地の適切な維持管理を進め、防災性の向上やバリアフリー化など利用者のニーズに対応した施設の充実を図るとともに、自主管理活動交付金制度により、市民参加による維持管理を進めています。

また、歴史資源を活かした特色ある公園については、資源の保全と活用に取り組めます。

土地区画整理事業において集合農地地区として換地された土地については、生産緑地制度を活用し、主に、農あるくらしを实践する場と位置付け、市民農園・体験農

園としての活用を関係者とともに検討します。

＜主な取り組み＞

- ・既存の公園の維持管理と機能向上
- ・史跡神雄寺跡、史跡奈良山瓦窯跡、旧大仏線跡など歴史的資源の保全と活用
- ・アダプトプログラムの活用による住民参加型維持管理の実施
- ・市民自主管理事業
- ・集合農地地区の市民農園・体験農園としての活用の検討

④ 都市景観の方針

周辺環境と調和した質の高い景観形成

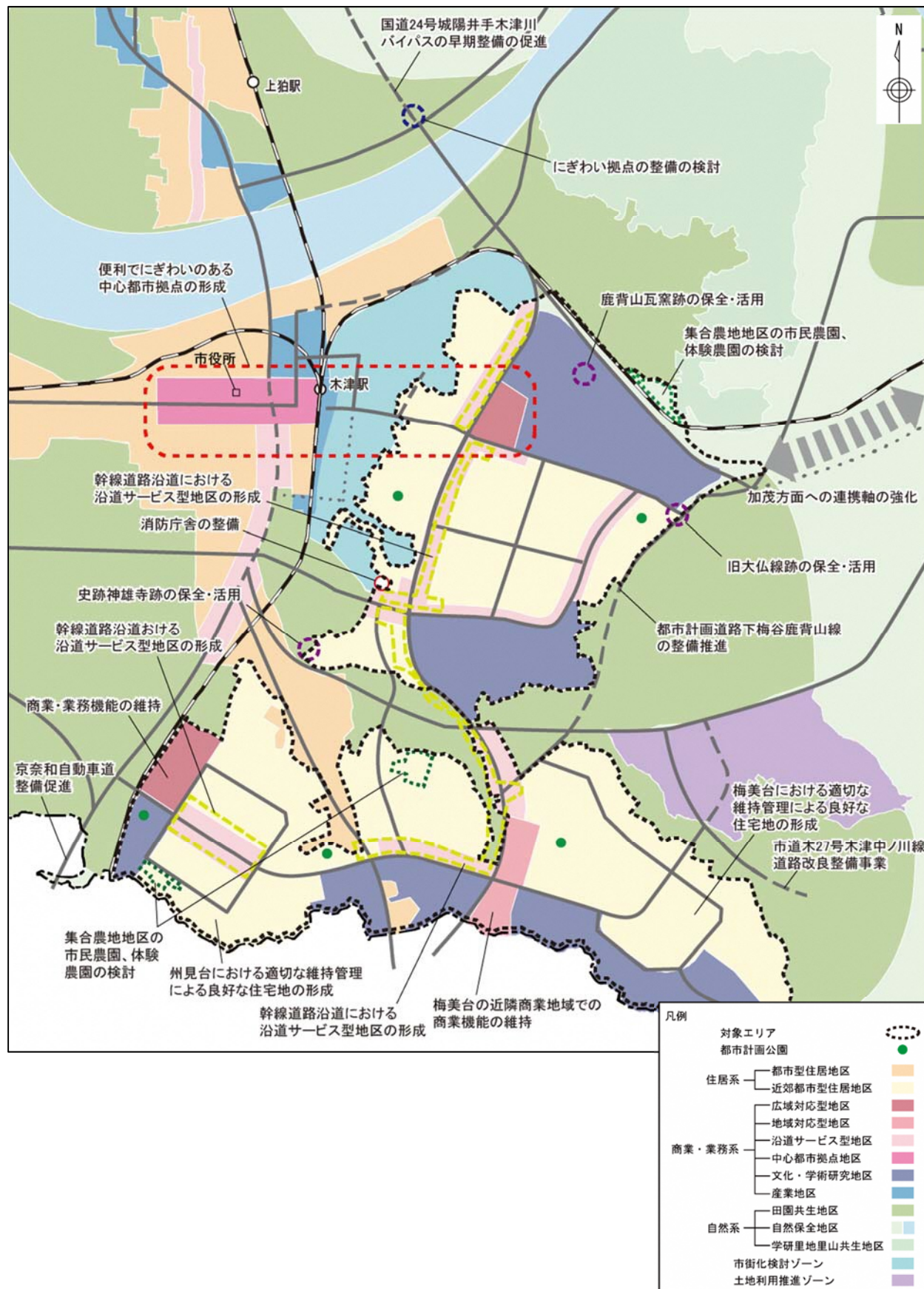
対象	州見台、梅美台、城山台の全地域
----	-----------------

文化学術研究ゾーン及びセンターゾーンについては、学研景観計画に基づき、質の高い景観形成を図り、建築物等は周辺環境との調和に配慮しつつ、優れた建築デザインやシンボリックな道路と一体となった親しみやすい都市的景観の形成を図ります。住宅地については、周辺の自然環境との調和やまち並みの連続性に配慮しながら、地区計画により閑静で緑豊かなうるおいのある景観形成を図ります。また、周辺部においては、鹿背山などの周辺の自然環境との連続性に配慮し、極力緑地の保全・再生を図るとともに、敷地内に新たな植栽を設け緑量の確保を図ります。

＜主な取り組み＞

- ・学研景観計画に基づく景観形成
- ・地区計画による良好なまち並み景観を維持、創造
- ・沿道緑化、敷地内緑化の推進
- ・東中央線沿道におけるシンボリック性のある建築デザインによる良好なまち並み景観の形成

関西文化学術研究都市（州見台、梅美台、城山台）



（７）関西文化学術研究都市（木津東地区）

１）地域の概況

- ・木津東地区予定地は、梅美台の北東側に位置する約55haの地区で、主に山林と農地により構成されています。
- ・関西文化学術研究都市の「木津地区」に含まれますが、平成15年度に当時の住宅・都市整備公団（（現）独立行政法人都市再生機構）による土地区画整理事業の中止が決定されました。
- ・これを受けて、将来の土地利用について検討が進められる中で、「総合計画」において、主として、文化学術研究施設や研究開発型産業施設などの集積を図る区域（文化学術研究ゾーン）などとするとともに、良好な環境の創出を誘導するエリアとしての土地利用を検討することが位置付けられています。
- ・現在、権利者の意向を踏まえながら、産業系の土地利用を中心とした土地活用に向けて、組合施行による土地区画整理事業の実現を目指しています。

２）地域の目指すべき方向性

○関西文化学術研究都市の発展

木津東地区の土地利用等を踏まえ、関西文化学術研究都市の発展に寄与する市街地整備の実現を目指します。

○権利者の意向に沿った土地利用の推進

権利者の意向を踏まえながら土地利用を検討し、主として、文化学術研究施設や研究開発型産業施設などの集積を図る区域（文化学術研究ゾーン）などとするとともに、良好な環境の創出を誘導するエリアとしての土地利用を検討します。

3) 都市計画の方針

土地利用の方針

周囲の田園環境に配慮した都市的土地利用の推進

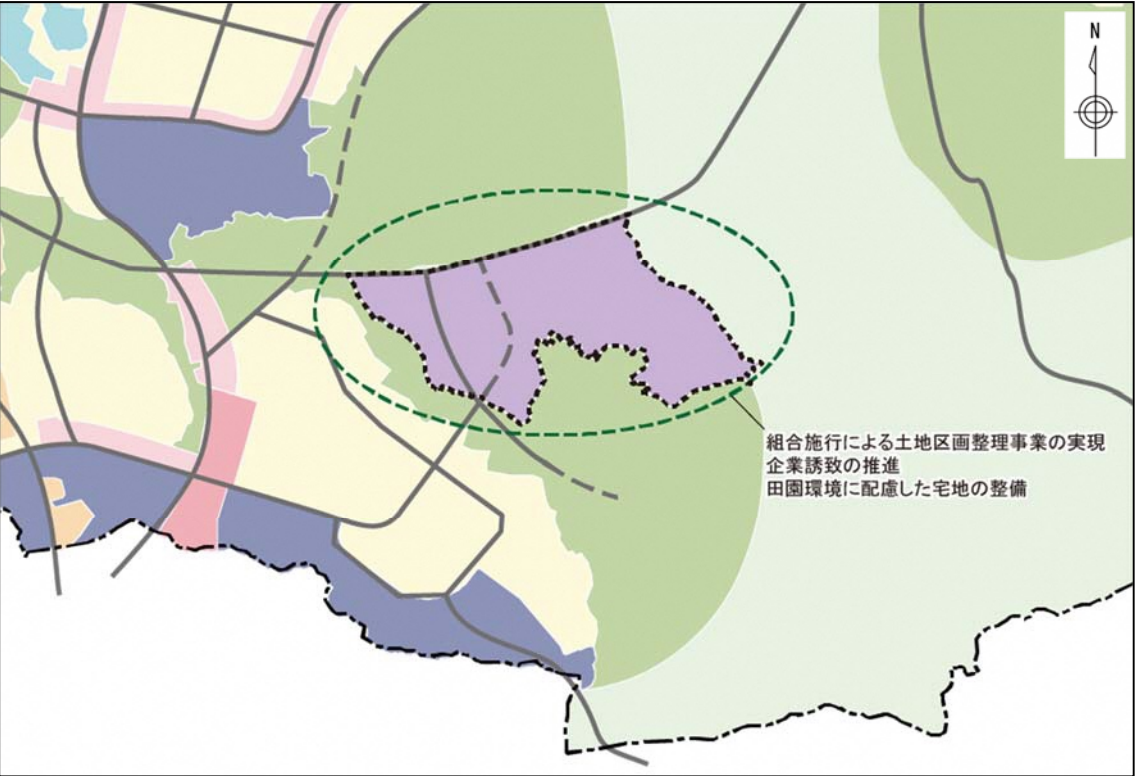
対象	木津東地区の全地域
----	-----------

今後の開発の可能性を見込み、民間事業者の計画提案・事業化への意欲を引き出しつつ、権利者の意向を踏まえながら、産業用地・住宅地・農地として良好な環境の創出や、都市と田園の共生を図り、関西文化学術研究都市の発展に寄与する市街地整備の実現を進めます。また、城山台等の立地施設と連携した文化学術研究ゾーンの形成を図ります。

<主な取り組み>

- ・組合施行による土地区画整理事業の実現
- ・木津東地区における企業誘致の推進
- ・田園環境に配慮した宅地の整備

関西文化学術研究都市（木津東地区）



（８）関西文化学術研究都市（木津北地区）

１）地域の概況

- ・木津北地区予定地は、城山台の北側に位置する約152haの地区で、主に山林と農地により構成されています。北部の地盤は固い花崗岩で、急峻な地形を有しています。
- ・関西文化学術研究都市の「木津地区」に含まれますが、平成15年度に当時の住宅・都市整備公団（（現）独立行政法人都市再生機構）による土地区画整理事業の中止が決定されました。
- ・これを受けて、将来の土地利用について検討が進められる中で、木津北地区については、市民や企業などの多様な主体によって、自然環境保全、里地里山の再生・活用、史跡等の保全整備、田園の保全・活用を目指すことが示されました。
- ・生態系を有する生物多様性の保全に向け、「地域における多様な主体の連携による生物の多様性の保全のための活動の促進等に関する法律」に基づく「生物多様性木津川市地域連携保全活動計画～みもろつく鹿背山再生プラン～」（以下、「木津川市地域連携保全活動計画」という。）を策定し、里山保全活動が行われています。
- ・平成30年9月には、ごみ焼却施設“環境の森センター・きづがわ”が本格稼働しており、最新の技術の採用により温室効果ガス排出量削減に寄与しています。

２）地域の目指すべき方向性

○身近な自然の保全活用と継承

貴重種の生息環境や生物多様性を、教育や産業等の資源として保全・活用し、身近な自然との持続的な共生を図ります。また、農ある暮らしを通じ、多様な主体との連携による農地再生、地産地消や食育を推進します。

○環境負荷を低減する生活環境づくり

未利用・再生可能エネルギーを有効に活用することにより、低炭素社会の実現に貢献します。

○持続可能な社会のための科学の実践

資源リサイクルの推進、環境調和型の研究開発施設等との連携や資源提供による持続可能な社会のための科学の実践に貢献します。

3) 都市計画の方針

土地利用の方針

木津北地区における自然環境の保全活用と持続可能な社会への取り組み

対象	木津北地区の全地域
----	-----------

シンボル性のある里山環境の維持・再生を図るため地区、活動団体、企業、大学等、NPO、行政の協働により、都市と自然が共生する持続可能な都市の実現に向けた取り組みを実践するまちづくりを目指します。

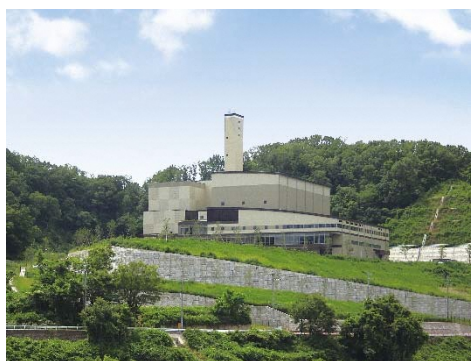
＜主な取り組み＞

○環境調和型研究開発ゾーン

- ・里山保全の拠点整備とともに、“環境の森センター・きづがわ”の資源循環や自然環境に関する学習拠点としての活用を目指す
- ・木津北地区における自然環境の保全活用と持続可能な社会への取り組みの検討

○里山の維持再生ゾーン

- ・「木津川市地域連携保全活動計画」に基づく木津北地区の里山環境の維持・再生
- ・多様な主体の参画による里山の維持再生（竹林・樹木等の管理、管理等に必要な通路等の整備、水源涵養林整備、地すべりや荒廃防止等）、地域の特性や特産品（鹿背山柿等）の活用・連携
- ・企業の社会的責任（CSR）活動の推進
- ・環境調和型研究開発施設における研究開発の資源として里山の維持再生活動に伴う副産物（竹等）の提供などによる相互連携
- ・多様な主体の連携による貴重種の保全（生物多様性の保全）
- ・鹿背山城跡の保全と活用
- ・自然資源等の循環的活用、固有の農産物を活用した農業振興等に係る企業や大学（京都大学等）の実証実験・社会実験・研究等のフィールドとしての活用
- ・持続的な農業に向けた取り組み
- ・観光農園、里山レストラン、市民農園等との連携

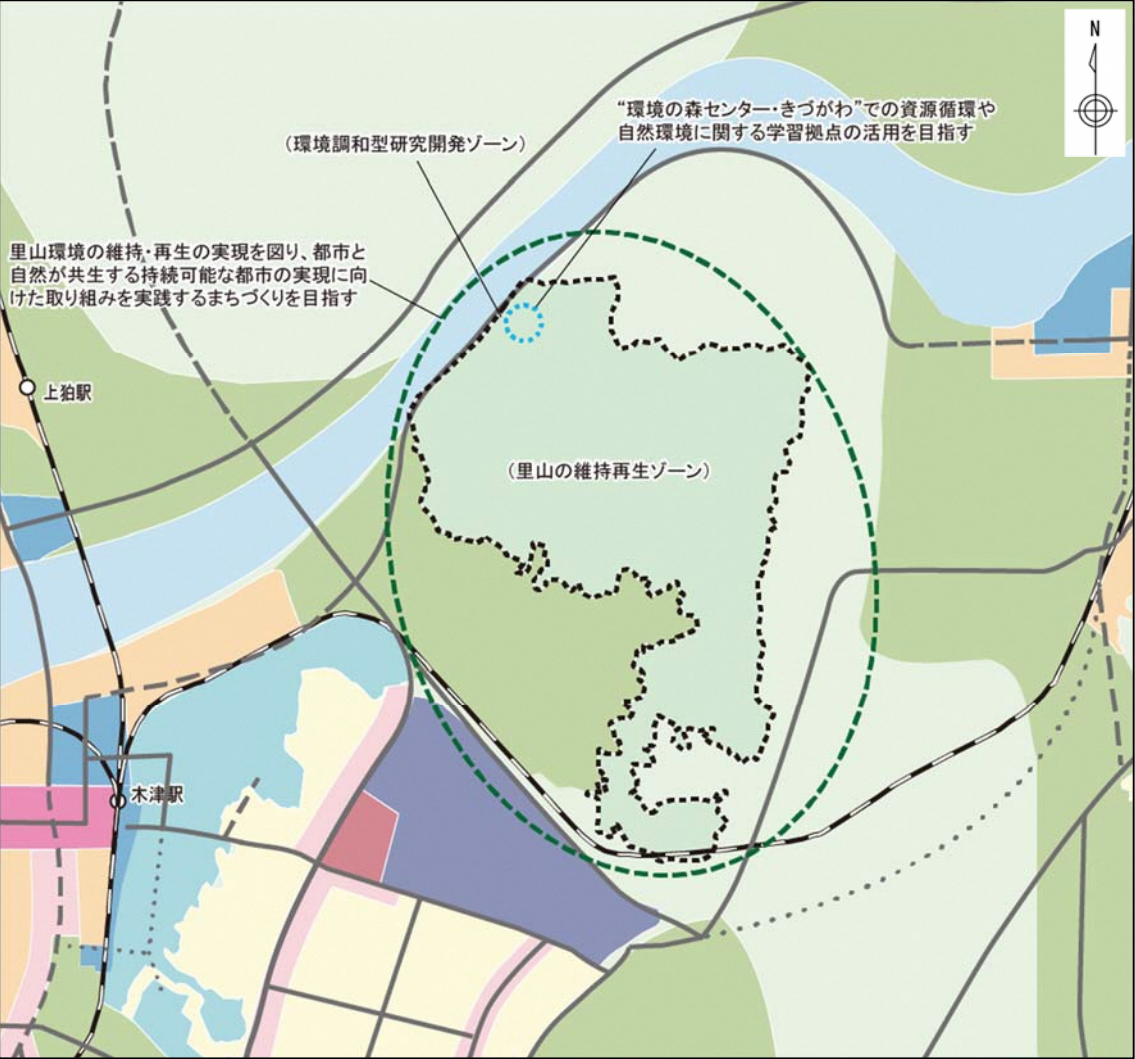


〔環境の森センター・きづがわ〕



〔里山風景〕

関西文化学術研究都市（木津北地区）



（９）農山村集落と農地、山林

１）地域の概況

- ・豊かな自然環境と調和した歴史的・文化的遺産が数多く点在している地域と農地、山林で、市街化調整区域または都市計画区域外となっています。
- ・市の東から北に向けて木津川が流れているほか、加茂地域の周囲や山城地域の東側には山林が広がるなど自然環境が豊富に存在します。
- ・数十軒程度を単位とした集落が山沿い、谷筋沿い等に点在しており、農林業が営まれています。近年では、人口減少、高齢化が進行しています。
- ・農業振興地域は、農業基盤が一定整備されている優良農地で生産性の高い農業が営まれています。

２）地域の目指すべき方向性

○豊かな自然環境の保全・活用

木津川の流れや山林の緑などの豊かな自然環境をかけがえのない市固有の財産として保全・活用します。

○安心して住み続けられる農山村集落の形成

各集落の特性を踏まえ、持続可能な集落の実現に向けた集落基盤の充実などにより、安心して住み続けられる農山村集落の形成を目指します。

○自然や歴史的・文化的遺産を活かした観光の環境づくり

自然と調和した様々な歴史的・文化的遺産を地域固有の財産として捉え、保全していくとともに、観光資源として活用する環境づくりを進めます。

○生産性の高い農業環境づくり

優良農地における農業振興施策により、生産性の高い営農環境を目指します。

3) 都市計画の方針

① 土地利用及び市街地・集落形成の方針

(ア) 安全・快適に住み続けられる集落環境づくり

対象	市街化調整区域、都市計画区域外の集落
----	--------------------

地区の特性に応じて道路などの生活基盤整備を進めます。また、急傾斜地における土砂災害対策や河川の堤防整備など自然災害対策を促進します。

<主な取り組み>

- ・生活道路の整備
- ・急傾斜地対策等の自然災害対策の促進
- ・水洗化未整備区域の早期解消

(イ) 持続可能な集落環境づくり

対象	市街化調整区域、都市計画区域外の集落
----	--------------------

市街化調整区域、都市計画区域外については、限界集落を防止するため、中山間地域の自然環境、田園環境の良さを活かしつつ空き家の有効活用等や廃屋対策を進め、持続可能な集落環境づくりを検討します。

また、集落においては、空家等が比較的多く分布することから、適切な管理の促進等の対策を推進します。



[加茂町兎並]

<主な取り組み>

- ・空家等の適切な管理及び利活用の促進
- ・市街化調整区域における地区計画の検討

② 都市・自然環境及び歴史的資源の方針

(ア) 農業・林業の生産環境づくりと農地を活用した新たな展開

対象	市街化調整区域の農地、林地全域
----	-----------------

農業及び林業にかかる施策により、農作物、木材の生産環境づくりを進めます。米や野菜のほか、茶や柿、筍など地域の特産物の生産を進めるほか、市民農園、体験農園など農地を活かした新たな展開を図ります。

（イ）優良農地の保全と農業振興施策の推進

対象	農業振興地域全域
----	----------

木津川市の基幹産業である農業を営む地域として、農業振興地域整備計画に基づく農地を保全するとともに、ほ場、農道、用排水路等の農業振興施策を推進し、農業の生産性を高めます。一部の用排水路については、農業用水と家庭からの排水が混在している状況の解消を図ります。



〔山城町上粕〕

（ウ）自然環境、歴史的・文化的遺産の保全と活用

対象	瓶原エリア、当尾エリア、綺田エリア、高麗エリア、上粕エリア
----	-------------------------------

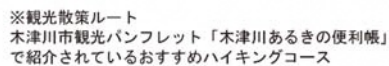
史跡恭仁宮跡や史跡椿井大塚山古墳・史跡高麗寺跡などをはじめとする歴史的・文化的遺産や地区内の豊かな自然環境の保全を図るとともに、それらを結ぶルートについて、歩いて楽しめる環境づくりを進めつつ、自然を楽しむレクリエーション施設等の充実を進めます。公有化を進めている史跡恭仁宮跡については、環境整備をはじめ、付近の道路整備や周辺地区の整備等を推進し、史跡を活かしたまちづくりについて検討します。また、木津川を水辺の骨格、山林を緑の骨格として保全を図ります。



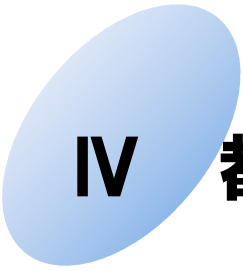
〔史跡山城国分寺跡〕

＜主な取り組み＞

- ・史跡恭仁宮跡の環境整備と活用
- ・史跡椿井大塚山古墳・史跡高麗寺跡の保全と活用
- ・案内板や歩道の整備など歩いて楽しめる環境づくり
- ・木津川市古寺巡礼バスの運行による観光客の誘客
- ・自然を活かしたレクリエーション施設の充実
- ・当尾の郷会館CREATION PROJECTの推進
- ・緑の骨格軸としての自然環境の保全



- 127



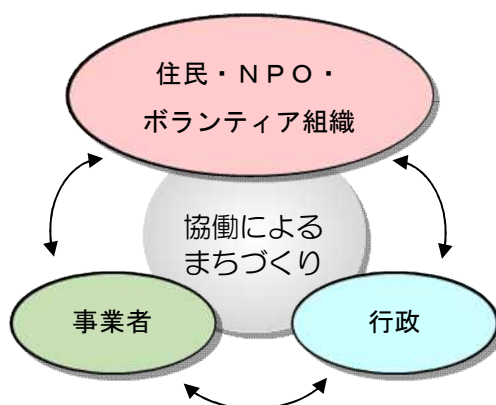
IV 都市計画の推進方策

1. 住民・事業者・行政の協働によるまちづくりの推進

ライフスタイルや市民ニーズの多様化などを背景に、NPO活動やボランティア活動等が活発化しており、市民のまちづくりに対する関わり方も多様化しています。

まちづくりの主人公はそこで生活する市民であり、木津川市に住んで良かった、住み続けたいと幸せを実感できるまちとするためには、「自分たちで木津川市を良いまちにしていこう」という意識のもと、市民自らが自分たちの住むまちに関する認識を高め、主体的にまちづくりを進めていく必要があります。

市民が主体となり行政はこれらの活動を支援することも含め、「住民」「事業者」「行政」それぞれの適切な役割分担と連携のもとで、「協働によるまちづくり」を進めることを基本とします。



① まちづくりに対する市民の意識啓発

限られた財源や期間の中で、効率的・効果的にまちづくりを進めるためには、住民と行政、事業者による役割分担と連携が不可欠です。

このため、市民によるまちづくり計画の推進や、まちづくりに対する市民参加の必要性を啓発しながら、「自分たちで木津川市を良いまちにしていこう」という意識を高めていきます。

② まちづくりに関わる情報の提供

市が抱える問題点や課題を共有するとともに、規制誘導に関わる制度の適用や都市施設等の事業実施の必要性・効果などの理解を促すため、必要な情報の適切な提供に努めます。

また、まちづくりに関わる組織・団体の活動内容や学習会の開催案内など、市民が主体となったまちづくりを支援する視点から有効な情報の提供を進めます。

③ まちづくり活動の担い手づくり

市民と行政が協働してまちづくりに取り組むしくみづくりについて検討します。

また、まちづくりに関するNPOやボランティア組織など、様々なまちづくりに関わる組織の設立を促すとともに、これらの活動のリーダーとなるまちづくりの担い手の育成を進めます。

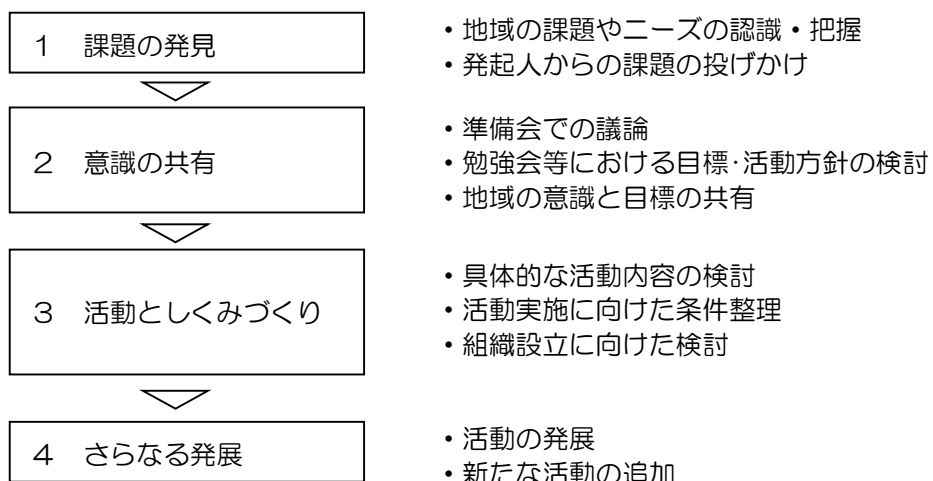
④ エリアマネジメントの推進

地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、市民による主体的な取り組みであるエリアマネジメントを推進します。

＜エリアマネジメントの例＞

エリア全体の環境に関する活動	・地域の将来像・プランの策定・共有化 ・まち並みの規制・誘導
共有物・公共物等の管理に関する活動	・共有物等の維持管理 ・公共物（公園等）の維持管理
居住環境や地域の活性化に関する活動	・地域の防犯性の維持・向上 ・地域の快適性の維持・向上 ・地域のPR・広報 ・地域経済の活性化 ・空家・空地等の活用促進 ・地球環境問題への配慮
サービス提供、コミュニティ形成等のソフトの開発	・生活のルールづくり ・地域の利便性の維持・向上、支援サービス等の提供 ・コミュニティの形成

＜エリアマネジメントの進め方の例＞



2. 効率的な都市計画行政の推進

都市計画マスタープランは、都市づくりの目標やその方向を示すものであり、今後、このプランに沿った個別計画の立案や事業、施策の実施等が進められることとなります。限られた財源を元に効果的に都市計画行政を進めていくため、次のような取り組みを進めます。

① 個別計画の策定

緑の基本計画など都市計画に関連する個別計画について、状況に応じて見直しを進めるとともに、立地適正化計画など必要に応じて新たな計画の策定を進めます。

② 財政基盤の確立

各種の事業等の実施にあたっては、自主財源の確保や各種補助事業制度を積極的に活用するほか、健全な財政運営に努めるため、既存事業の見直しや財源の効率的配分などを行い、整備を進めます。

③ 民間活力の積極的な導入

効率的な財政基盤を確立する観点から、公的施設の整備や市街地における住宅供給、商業機能等各種都市機能配置による再整備などに、民間企業のノウハウや資本等を活用するなど、積極的な民間活力の導入を促進します。

3. 都市計画マスタープランの進行管理

① 推進体制の確立と計画の進行管理

都市計画マスタープランに基づくまちづくりを効率的・効果的に推進していくためには、都市計画、土木、建築、環境など、様々な行政分野の総合的、一体的な取り組みが求められます。また、関西文化学術研究都市の整備にあたっては、国や京都府、独立行政法人都市再生機構など木津川市以外の行政主体、団体も含めた調整が必要であるため、木津川市以外の行政、団体等も含めた連絡調整や情報交換の場となる横断的な組織を設置し、都市づくりの推進体制を確立します。

この推進組織の進行管理のもと、都市計画の事業、施策を推進します。

② 都市計画マスタープランの見直し

このマスタープランは、10年後の令和12年度を目標としたものですが、今後の社会経済情勢の変化等により、新たな課題や市民ニーズへの対応が必要となることも予想されます。このため、「総合計画」に位置付けられた施策評価との連携を図りつつ成果を検証し、必要に応じて計画の見直しを行います。

進行管理・見直しにあたっては、P（計画）・D（実施）・C（点検）・A（見直し）サイクル（＝マネジメントサイクル）を導入し、計画の着実な実現を図ります。

